







掛川市教育委員会  
教育長 杉浦 靖彦

## 私たちの郷土に誇りを

わたしたちの掛川市は、ほぼ日本の中央に位置し、北に標高832メートルの八高山、南に遠州灘の広がる、豊かな自然に満ちたすばらしい地域です。

長い年月をかけ、自然の力、多くの人々の力を経て、今の掛川市があります。人々が暮らし始めたころの跡、様々な道具の跡、文化の移り変わりや人々が行き来した道など、市内にはすばらしい遺跡や遺産がたくさん残されています。また、形あるものばかりでなく、わたしたちの暮らしの中からも、古くから伝わり続けてきた貴重な伝統や文化遺産を見つけることができます。

この本は、市内の小学校の先生方により作られた、楽しくわかりやすい掛川市の歴史の本です。「人が歴史を作り、歴史が人を育てる。」と言われるように、歴史を学ぶことで社会のしくみに気づいたり注意深く考えたりし、広い視点で物事を見ることができるようになります。また考え方を、先人から学ぶこともできます。

社会科の時間や総合的な学習の時間、読書の時間などを使って、この本を読んだり、昔のことを調べたりしてください。みなさんが地域に出掛け、歴史探しをする時に使ってください。これまでの人々の残してくれた、史跡や文化遺産を見て、心で感じ、歴史に対する関心を大いに高めてください。

これからもふるさとを愛し、新しい掛川市の歴史をわたしたちの手でつくり出していきましょう。

平成19年3月15日



新・わたしたちの  
掛川市【歴史編】  
もくじ

たいこ

太古

- 1 掛川が海だったころ ----- 4
- 2 海岸線の変化 ----- 6

じょうもん

縄文時代

- 3 縄文時代の掛川 ----- 8

やよい

弥生時代

- 4 弥生時代の掛川 ----- 10

こぶん

古墳時代

- 5 古墳時代の掛川 ----- 12
- 6 和田岡古墳群を探る ----- 14

なら へいあん

奈良・平安時代

- 7 奈良・京の都と掛川 ----- 16
- 8 奈良・平安時代の掛川 ----- 18
- 9 清ヶ谷古窯群を探る ----- 20

かまくら

鎌倉時代

- 10 鎌倉時代の掛川 ----- 22

むらまち

室町時代

- 11 室町時代の掛川 ----- 24
- 12 戦国の世の掛川 ----- 26
- 13 高天神城をめぐる戦い ----- 28

あ づち もも やま

安土桃山時代

- 14 山内一豊と掛川 ----- 30
- 15 山内一豊をめぐるエピソード ----- 32
- 16 掛川城 ----- 34
- 17 横須賀城 ----- 36



えど

## 江戸時代

18	お城を中心としたまちづくり	38
19	掛川藩	40
20	横須賀藩	42
21	江戸時代の学問と文化	44
22	東海道・掛川の宿	46
23	日坂宿（川坂屋）を訪ねて	48

めいじ たいしやう

## 明治・大正時代

24	明治維新と掛川	50
25	掛川の文明開化	52
26	掛川の報徳	54
27	学問を広めた冀北学舎	56
28	学校教育の始まり（明治の小学校）	58
29	明治の小学校	60
30	日清・日露戦争と掛川	62
31	明治・大正の産業と交通の発達	64

しやうわ

## 昭和時代

32	戦争と暮らし	66
33	戦争の被害	68
34	敗戦と戦後の新しい社会	70

## コラム

	東海道を歩いてみよう	72
	「塩の道」を歩いてみよう	74
	掛川の伝承と伝説1	76
	掛川の伝承と伝説2	78
	ため池の多い掛川市	80
	掛川市の歴史年表	82
	掛川歴史マップ	86

# 新・わたしたちの 掛川市【歴史編】 もくじ



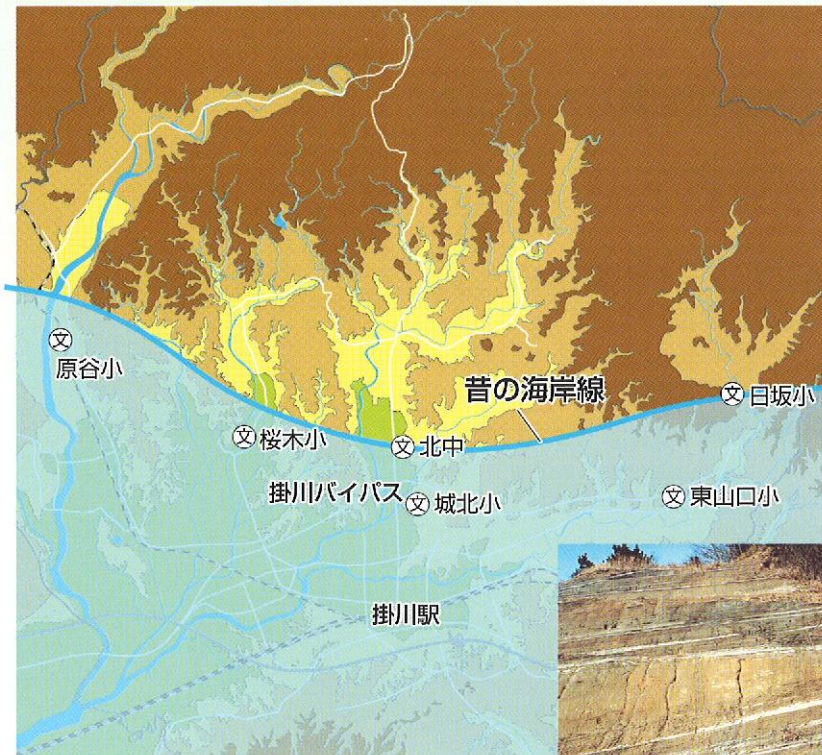


# 1 掛川が海だったころ

## ◆市内で見つかった約400万年前から100万年前の化石

### 掛川層群から出土

人類の先祖が誕生したころ、掛川あたりまで海が入りこんでいました。下の地図は市内に見られる地層から推定した約400万年前の海岸線を示したものです。



掛川層群の地層(家代)

## ◆掛川層群

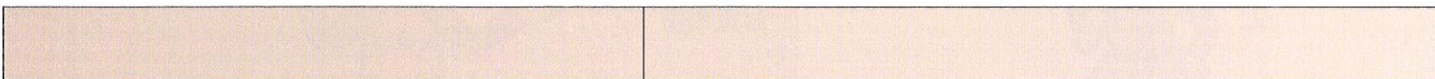
上の地図の海岸線から南では、砂や泥の地層がみられ、それぞれの地層は地名をとって大日砂層や天王砂泥層などと呼ばれ、これらをまとめて掛川層群と呼んでいます。

## 地球の誕生から現在まで

上段の帯は、4,500万年前から現代までを拡大したものです。

46億年前

35億年前



地球の誕生

生命の誕生

酸素が少なくとも生きられる  
バクテリア類やランソウ類  
の誕生



スウチキサゴ(本郷)  
水深約10mまでの海底に  
すんでいました。



ムカシキリガイダマシ(本郷)  
水深約10mまでの海底に  
すんでいました。



タマキガイ(上西郷)  
水深約50mから150mまでの海底に  
すんでいました。中央の穴は、他の種  
類の貝が食べるためにあけたものです。



クジラのろっ骨(上西郷)  
ろっ骨の大きさからクジラの全長は約10mと  
考えられます。

4,500万年前

三倉層群



# 掛川層群の化石



ホオジロザメの歯(本郷)  
暖かい海の沿岸から遠洋  
にかけてすんでいました。

▲粟ヶ岳

桜木池公園  
文



クモヒトデ(細谷)  
水深約300mから500mの  
海底にすんでいました。



オオキララガイ(水垂)  
水深約50mから100mの  
海底にすんでいました。



シロウリガイ(成滝)  
水深約750mの深海に  
すんでいました。



ウニ(杉谷)  
水深約10mから90mの  
海底にすんでいました。



トオトウミシラトリガイ(上西郷)  
波打ちぎわにすんでいました。

オオシラスナガイ、ベニグリ、  
ホオジロザメ等がすんでいました。

▲小笠山

3,000万年前

2,000万年前

1,500万年前

400万年前

掛川層群

倉真層群

西郷層群

粟ヶ岳の地層の形成

赤石山脈の隆起

人類の出現

小笠山の地層の形成

牧之原台地の形成

6億年前

3億年前

2億年前

6,500万年前

4,500万年前



クラゲ類

三葉虫の出現

魚類の出現

両生類・昆虫類の出現

恐竜の出現

赤石山脈の地層の形成

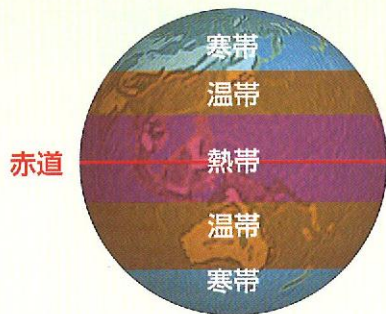
恐竜の絶滅

哺乳類の出現

資料提供：鈴木政春



# 海岸線の変化



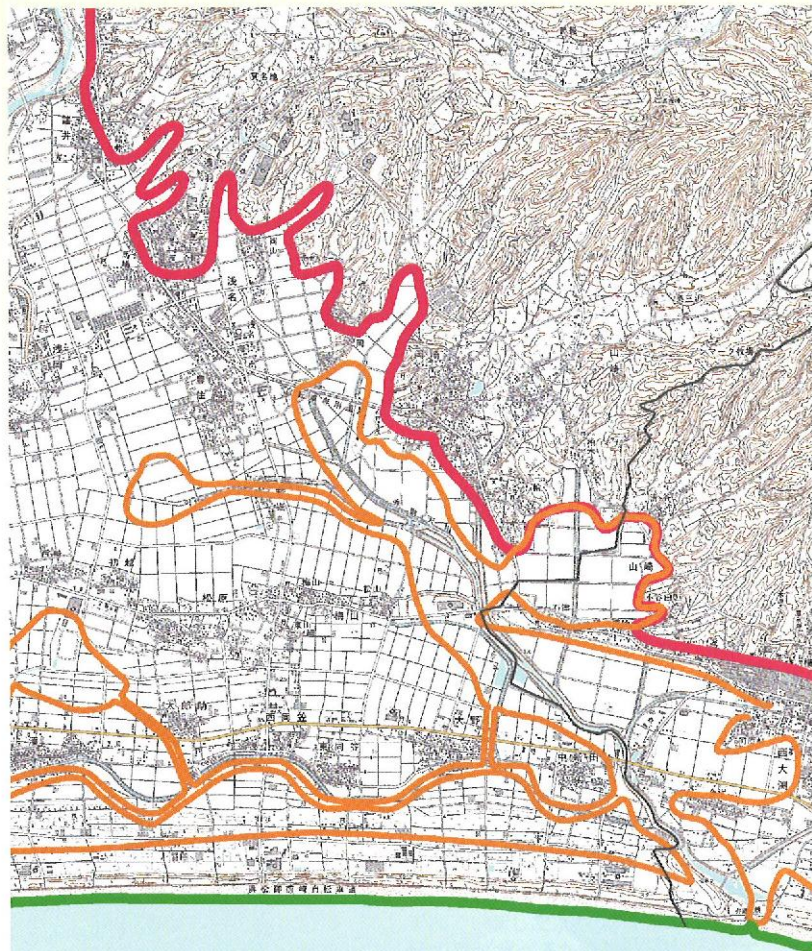
今から1万8千年ほど前、地球の平均気温は現在より6℃～7℃ほど低く、高山、寒帯の海は厚い氷に覆われていました。そのため、海面は現在より100mほど低く、海が退き、陸地が広がりました。日本列島は大陸と陸続きとなり、日本海も湖になっていたと考えられています。

その後地球はしだいに暖くなり、6千年ほど前、現在の平均気温より3℃ほど高くなって、温暖化のピークを迎えました。高山、寒帯の海を覆っていた氷がとけて、海面は現在より数メートルほど高くなり、海が大きく広がって、平野や谷間にも海が入り込みました。

この温暖化のピークの後、地球の平均気温は次第に下がり、3千年ほど前に現在の平均気温に近くなりました。

その後、現在まで比較的安定した気候が続きましたが、この期間も平均気温は多少の変化があり、海面の高さも1m～2mの範囲で上下したようです。

このような気候による海面の変化や地震による地形の変化などにより、掛川市南部地域の海岸線や川筋も大きく変化し、この地域の文化などに大きな影響をあたえました。



① 1万8千年ほど前の寒冷期（氷河時代）  
海面が100mほど下がり陸地が広がった時期。



## ② 6千年ほど前の温暖期

海面が現在より数メートル高くなって氷河時代に出来た谷が海に沈み、小笠山の南側が海に削られて斜めの崖が形成された時期。

## ③ 500年前の戦国時代

海面が現在と同じくらいの高さとなり、ちゅうせき沖積平野（川のはたらきにより、土砂が積み重なってできた平野）が形成され、大きな入り江や今と違う川の流れがあった時期。

現在の海岸線

※この図は、現在の地形や昔の絵図や記録などの資料から、当時の海岸線や川筋を推定したものです。



# 縄文時代の掛川

## ◆狩りや漁をしていたころ

約12,000年前から2,400年前を縄文時代と呼びます。

そのころの掛川に住んでいた人たちは、どのような暮らしをしていたのでしょうか。



メノト・栗下遺跡(東山口)から想像される縄文時代の人々の暮らし

## ◆遺跡が川ぞいに見られる縄文時代

そのころの人々は、原野谷川や逆川などの川にそった小高い場所に住んでいました。

縄文時代の遺跡からは、狩りに使われた矢尻、木の実などをすりつぶすための石皿・叩石、魚をとる網につける石のおもりなどが発見されています。



左:くるみ 右:とち、どんぐり  
(メノト・栗下遺跡)

たず 訪ねてみよう!調べてみよう。

幡羅旧石器の郷史料館



縄文時代の石器や土器が多くあります。

子どものころ発掘調査があり、石器を見つけたのがきっかけで、もう60年ぐらい集めています。原田の里から貴重な文化遺産がなくならないようにと思い、集めて保管しています。

史料館



●原田小から  
100mぐらいのところ

幡羅旧石器の郷  
史料館

掛川市原里1587

TEL26-1917



石皿と叩石(上ノ段遺跡)  
木の実などをすりつぶしました。



# ◆縄文時代の遺跡分布図



打製石斧 (石を打ちかいてつくった斧、原遺跡)  
木の柄をつけて土を掘ったりしました。

遺跡



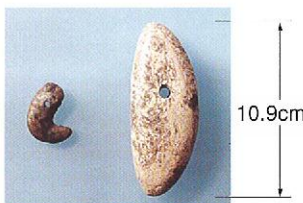
磨製石斧  
(石をみがいてつくった斧、中原遺跡)  
木の柄をつけて木を切ったりしました。



縄文土器 (上ノ段遺跡)



耳飾り (メノ・栗下遺跡)  
耳たぶにあけた穴にはめました。



首飾り  
右：鯉節形大珠 (上ノ段遺跡)  
左：勾玉 (東山口)



石さじ (原遺跡)  
毛皮をやわらかくしたりしました。



石棒 (吉岡)  
祭りに使用  
しました。



石のおもり (右：メノ・栗下遺跡、  
左：堂山遺跡)  
網につけて魚をとりました。



矢尻 (岡津原Ⅲ遺跡)  
矢の先につけて狩りをしました。

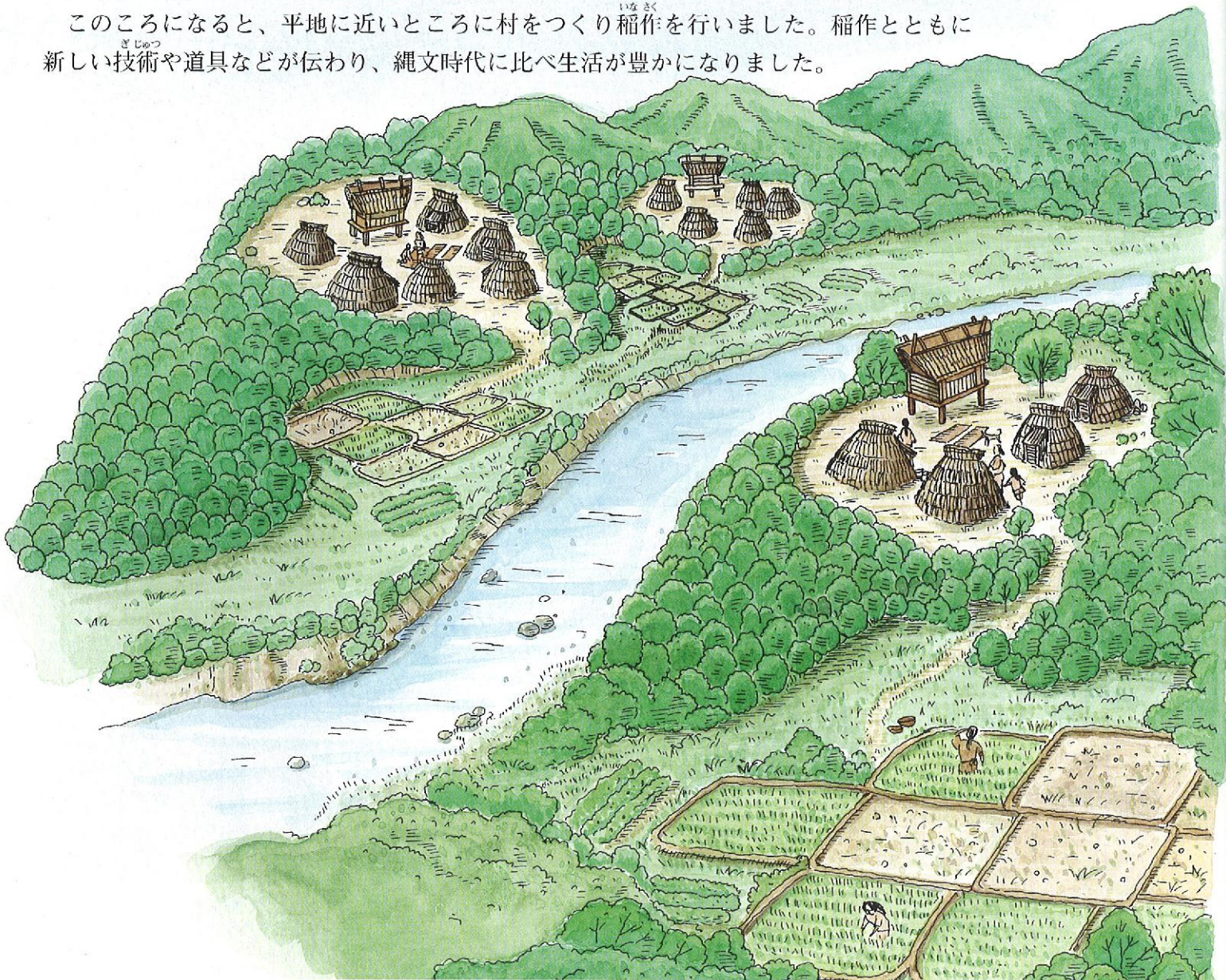




## ◆米作りが始まったころ

約2,400年前から1,700年前を、弥生時代と呼びます。

このころになると、平地に近いところに村をつくり稲作を行いました。稲作とともに新しい技術や道具などが伝わり、縄文時代に比べ生活が豊かになりました。

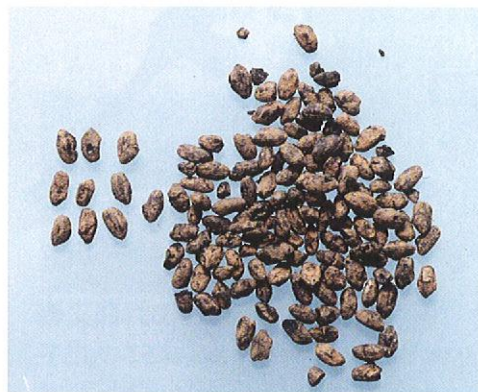


東ノ谷遺跡(長谷)から想像される当時の風景

市内の高田遺跡、東ノ谷遺跡、堂山遺跡からは、弥生時代の米が発見されています。

## ◆弥生土器

食糧などを入れるつぼ、米などを煮るためのかめ、盛りつけ用の高坏など、使い道によりさまざまな形の土器が作られました。



米(高田遺跡)  
住居内のつぼに入られていました。

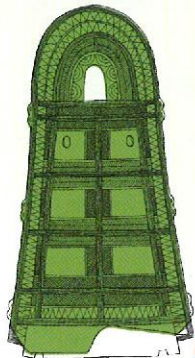


かめ(溝ノ口遺跡)  
米などを煮たきました。



### ◆弥生時代の遺跡分布図

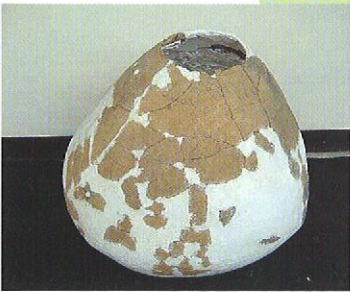
江戸時代、長谷で発見された銅鐸で、祭りに使われました。



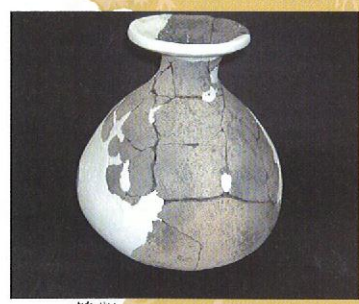
つぼ(東原遺跡)  
米などをたくわえました。



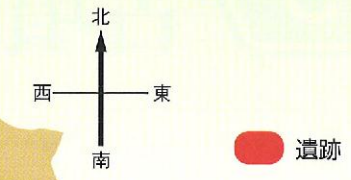
高坏(東原遺跡)  
食べ物を盛りました。



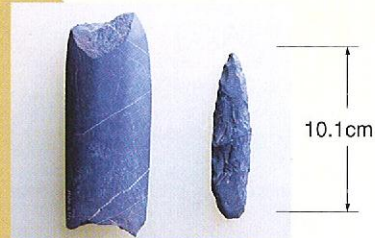
つぼ(横砂遺跡)  
米などをたくわえました。



つぼ(兼情遺跡)  
米などをたくわえました。



鉄製短剣(原新田遺跡)



石剣(左)・石槍(右)(大六山遺跡)  
石でつくられた武器



磨製石斧(第一小)  
用途に合わせてさまざまな形・大きさの石斧が使われました。



つぼ(中方遺跡)  
米などをたくわえました。

堂山遺跡

東原遺跡

溝ノ口遺跡

高田遺跡

原新田遺跡

大六山遺跡

東ノ谷遺跡

高瀬遺跡

中方北遺跡

中方遺跡

横砂遺跡

天王森・古楠遺跡

神田遺跡

報地遺跡

兼情遺跡

三井山I遺跡



# 5

## 古墳時代の掛川

### ◆古墳がつくられたころ

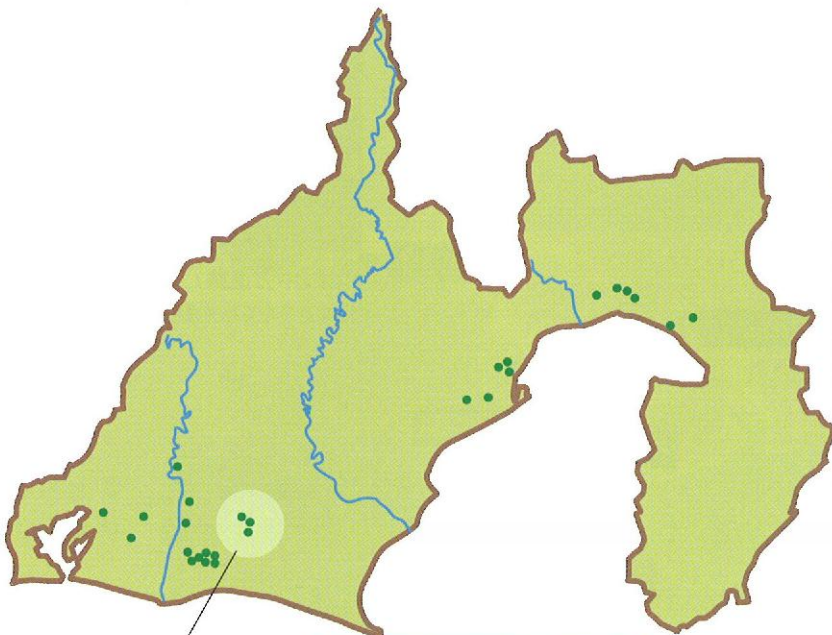


古墳時代の豪族の屋敷の模型（袋井市古新田遺跡）

豪族は、住居や倉庫などたくさんの建物がある屋敷に住んでいました。豪族の死後につくられた墓が、古墳です。

### ◆県内の主な古墳

50メートル以上の大きさの古墳の分布図

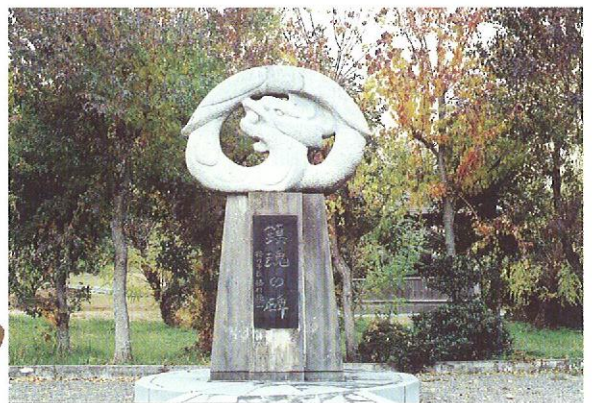


和田岡古墳群

掛川にも大きな古墳があるんだね。



鉄製品 浅間神社古墳群3号墳（長谷・高御所）



安らぎの碑「鎮魂の碑」（富士見台霊園）

開発や文化財保護のために調査された古墳などの埋葬者を供養するために建てられたものです。宇洞ヶ谷横穴から出た大刀の飾りをかたどった碑です。

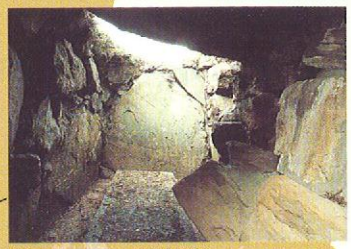


# ◆古墳分布図

市内からは集落の跡が約130、横穴墓を含む古墳が約1,700確認されています。



長福寺古墳群1号墳 (本郷)



平塚古墳 (上西郷)



天王山古墳群2号墳 (下西郷)



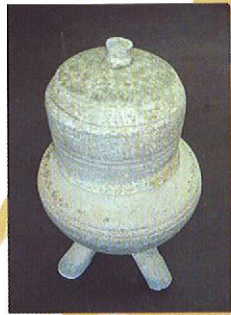
歩揺 岡津横穴群B-6号墓 (岡津) 服などに飾りとしてつけました。



飾り大刀の柄頭 宇洞ヶ谷横穴 (下俣)



大谷代横穴群 (高御所)



三足つぼ 愛宕山横穴 (横須賀)



五塚山古墳 (大坂)



有蓋台付四連杯 五塚山古墳 (大坂)



かめ、つぼ、高坏など 毛森山横穴群 (中)





# 和田岡古墳群を探る

## ◆和田岡地区の古墳

和田岡地区には、大小さまざまな形をした古墳が多くあります。

中でも大きな5つの古墳は歴史的価値が高く、平成8年に「和田岡古墳群」として国の史跡に指定されました。

### 吉岡大塚古墳



はにわの一部

### 春林院古墳



鉄剣

### 行人塚古墳



### 瓢塚古墳



勾玉と管玉



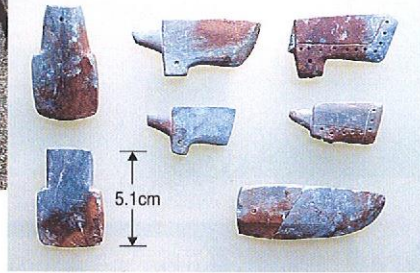
銅鏡



### ◆各和金塚古墳の大きさ

ぜんちよう 全長	66.4m	こうえんぶ 後円部	直径51.2m 高さ6.5m	ぜんぽうぶ 前方部	はば 幅20.5m 高さ4m
古墳の頂上は直径15.5mの範囲で平らになっている。					
古墳の斜面の中段には幅2mほどの平らな面がある。					

### 各和金塚古墳



石製模造品  
おの  
石製の斧や刀などの形を石で表現し、祭りに使いました。

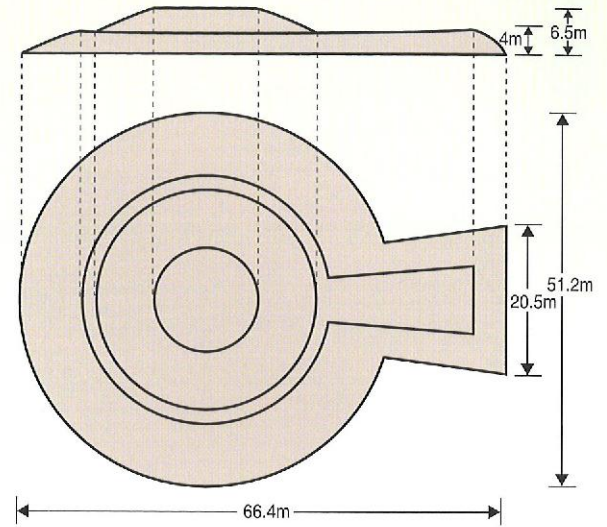


各和金塚古墳からの眺め



和田岡古墳群はみんな高台につくられているね。

### ◆各和金塚古墳の形と大きさ



鉄の矢尻



古墳をかたどってつくられた「ころころ山」(和田岡小)

みは  
見晴らしがいいから、まわりの田んぼや家がよく見えたのではないかな。





# 奈良・京の都と掛川

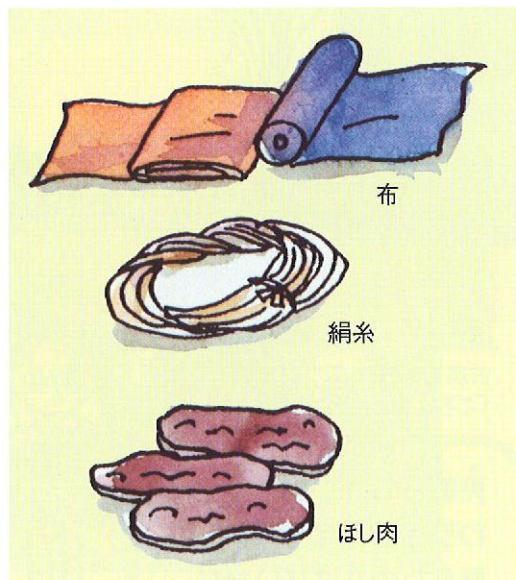
## ◆掛川から納められていた租・庸・調



国土地理院数値地図50mメッシュ/日本-II (京都府～静岡県周辺)

## ◆京の都へ納めていたもの

租は、稲を納めるもので、これは遠江国、郡の倉庫にたくわえられました。庸と調が、都まで運ばれました。庸は、布を納めるもので、調は絹や糸などの繊維製品のほかに、地方の特産物が納められました。



## ◆「兵士一人を出せば、その戸は滅ぶ」

物で納める税のほかに、衛士と呼ばれる都の警備、防人（さきもり）と呼ばれる九州の警備につく兵役がありました。防人は、働きざかりの男子が3年も家を留守にすることから、「兵士一人を出せば、その戸は滅ぶ」と言われるほど、負担が重くのしかかりました。『万葉集』には、防人として掛川から九州に派遣された人が詠んだ歌も収められています。

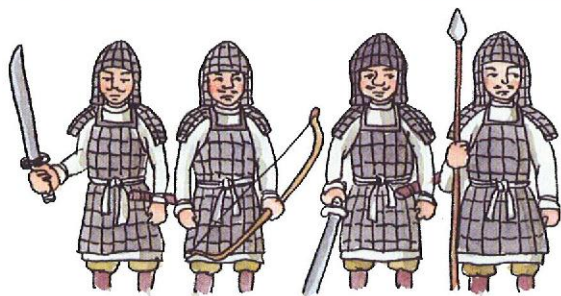


『万葉集』、丈部黒当の碑 (掛川西高校内)





都に税を運ぶ人たち（想像図）



（父母のお住まいの裏庭のももよ草のように、  
いつまでもお達者でいてくだされ、おれが帰ってくる日まで）

遠江国佐野郡 生玉部足国

※遠江国佐野郡＝掛川市

「父母が殿の後のももよ草  
百代いでませ我が来たるまで」

（父母が花でもあつたらいいなあ、  
旅に行かなければならないが捧げてもって行こう）

遠江国佐野郡 丈部黒当

「父母も花にもがもや草枕  
旅は行くとも捧ごて行かむ」

遠江(掛川)から平安京まで庸・調などの  
税を何日かけて運んだのかな。

庸や調など政府に納める税は、それらの税を負担する家が都まで運ぶ決まりになっていました。遠江国から納められる税は、11月の末までに都に納めなければならず、所要日数も遠江から平安京（京都）まで15日、平安京から遠江までの帰りが8日というように決められていました。この往復の間の食料は、運ぶ人が負担することになっていました。

寒い冬に重たい荷物を都まで運び、また帰ってくるという負担に耐えきれずに逃げ出す人や、食料がなくなって餓死する人もいたようです。

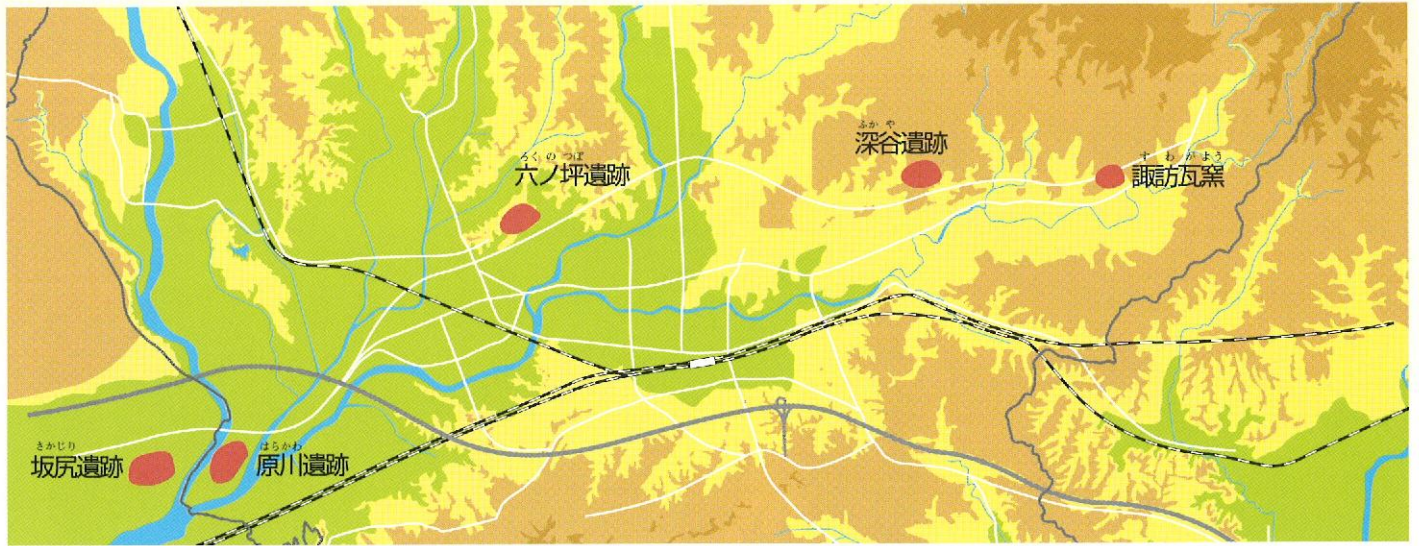
1日どのくらい歩いたのかな。  
ちょっと計算してみよう。

旧東海道京都三条大橋～掛川駅間を240kmとします。

上り、行き240km÷15日＝16km	1日平均16km
下り、帰り240km÷8日＝30km	1日平均30km



# 奈良・平安時代の掛川



## 高度な技術がわかる飛鳥時代から奈良時代の窯跡—諏訪瓦窯(伊達方)



さがわ幼稚園の裏山の窯跡(昭和27年)

窯は、南向きの山の斜面に2つ並んでつくられていて、中から瓦が発見されました。

このころの人々は、茅などでつくられた屋根の竪穴住居に住んでいて、屋根に瓦を使う建物は、国分寺などの寺や国の役所などに限られていました。



発見された瓦

15.6cm

掛川で作った瓦は  
どなたところで  
使われたのだろう。



奈良時代、お寺は掛川にもあったのかな。



## 奈良へ運ばれた、長福寺(本郷)の鐘

長福寺は、聖武天皇のところに建てられたといわれています。

掛川から遠く離れた奈良の大峰山に、「天慶7年(944年)6月2日遠江国佐野郡原田郷長福寺鐘」と刻まれた大きな釣り鐘があり、国の重要文化財に指定されています。だが、掛川から奈良まで大きな釣り鐘を運んだのでしょうか。そのむかし、山伏が鐘を持ちあげて空を飛んでいったという説と、14世紀の南北朝の戦いの時に、北畠軍が運んでいったという説があります。

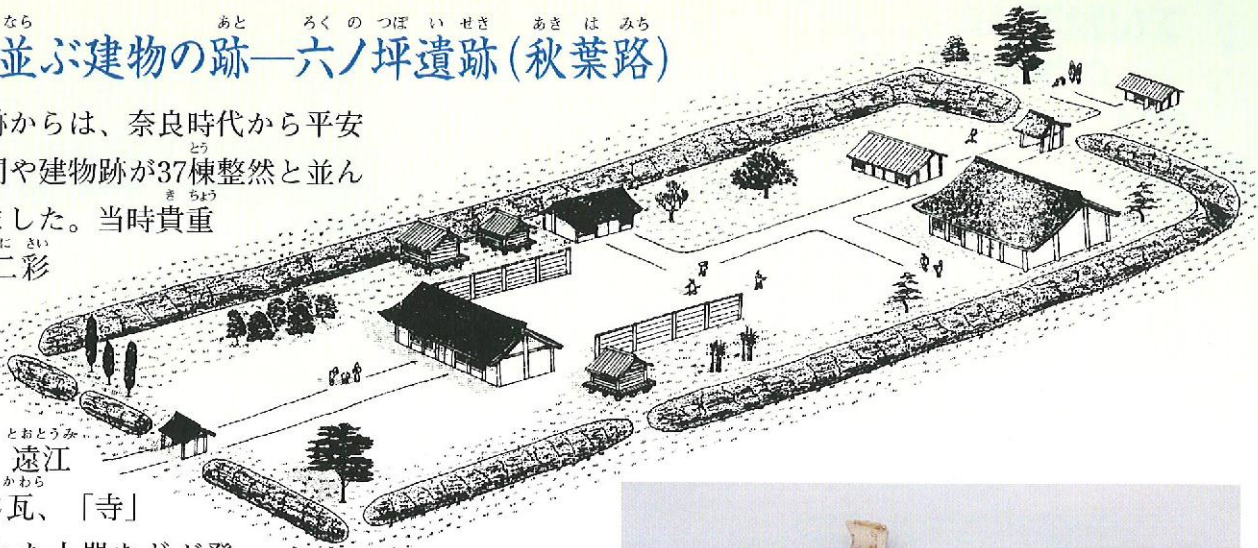


大峰山(奈良県)にある長福寺の釣り鐘

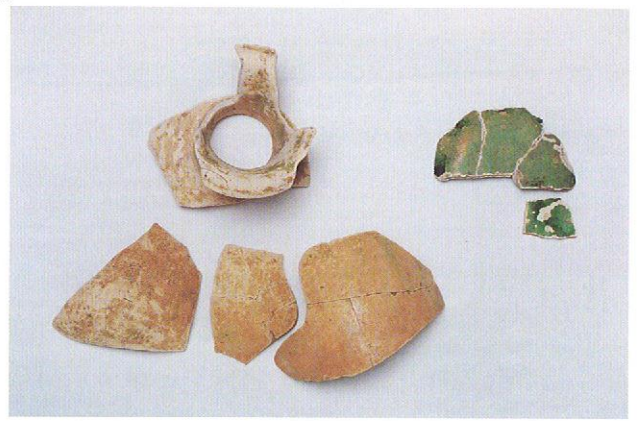


## ◆ 整然と並ぶ建物の跡—六ノ坪遺跡(秋葉路)

六ノ坪遺跡からは、奈良時代から平安時代までの門や建物跡が37棟整然と並んで発見されました。当時貴重であった、二彩と呼ばれる緑色と黄色で色付けされた土器や、遠江国分寺と同じ瓦、「寺」と墨で書かれた土器などが発見されています。国、郡に関する役所か寺と考えられます。



寺と書かれた土器



二彩壺と三彩杯

## ◆ 和同開珎が出土した 深谷遺跡(淡陽)

深谷遺跡からは、708年につくられて、奈良時代に流通した和同開珎19枚が、白銅鏡2枚といっしょに発見されました。

奈良の都では、商人や職人など食料を生産しない人々もいたので、米や野菜などを売る市がつけられ、和同開珎が流通していたと考えられます。しかし、当時の掛川では、貨幣はほとんど使われず、物物交換が主であったと考えられます。

鏡2枚は、遣唐使が中国から持ち帰った鏡をもとに日本でつくられたものです。

この和同開珎と鏡は、奈良の都に行った人が持ち帰ったと考えられます。



和同開珎



白銅鏡



白銅鏡



# 清ヶ谷古窯群を探る

## ◆遠江国分寺の瓦を焼いた窯跡

清ヶ谷古窯群には、古墳時代から平安時代にかけての窯跡が50基とも100基とも言われるほどたくさんあります。

瓦以外にも須恵器と呼ばれる堅い灰色の土器も焼かれていました。清ヶ谷の地名も須恵ヶ谷がなまってできたともいわれています。

清ヶ谷集落の入口付近の竜田神社には、平安時代に使われた瓦を焼いた竜天薬師堂古窯があります。



竜天薬師堂古窯（竜田神社）

聖武天皇の命により、国家の平安を祈るための国分寺が各国に建てられました。遠江（県西部）では、磐田原台地（磐田市）に建てられ、国の特別史跡になっています。

この遠江国分寺は、金堂や講堂、南大門、七重の塔などが建ち並ぶ大きな寺でした。

ここで使われた瓦は、清ヶ谷古窯群で焼かれ、約11km離れた磐田原台地まで運ばれました。

昔は、清ヶ谷や磐田原台地の南側が入江になっていて、船を使って運ばれたといわれています。



遠江国分寺復元模型

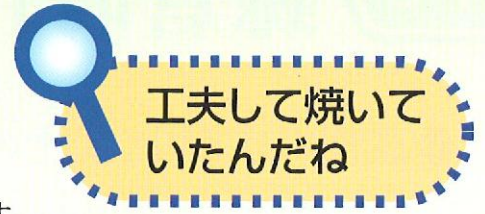




### ◆そのころの瓦の焼き方

縄文時代から続く「野焼き」は、地面に穴を掘って土器を焼く方法です。

清ヶ谷では「穴窯」といって山の斜面に粘土でトンネルを作り、その内側に瓦や土器を置いて焼いていました。トンネルの下で燃料となる松の木などを燃やすと、炎はトンネルの上（けむ出し）に向かってのぼり、窯全体が高温になります。したがって、たくさんの瓦や土器などをむらなく堅く焼くことができます。



かわら とき  
瓦や土器を作ったり、焼いたりする人たち（想像図）



燃料（松の木など）  
中の様子（段段のようにならべてある）  
けむ出し

清ヶ谷は、小笠山のふもとに位置しています。小笠山は土器を作るのに適した粘土がとれます。この粘土を使って、今でも陶器（笠山焼き、みずがや）が作られています。



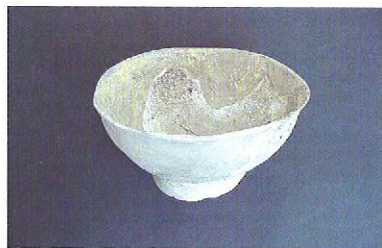
窯跡の一つ、白山2号窯跡（昭和54年）



ひらがわら  
平瓦の一部



のさざ  
軒先の瓦



わん



にめんけん  
二面観



かめ





# 鎌倉時代の掛川

## ◆ 荘園の広がり<sup>しょうえん</sup>と武士の起こり<sup>ぶしのお</sup>

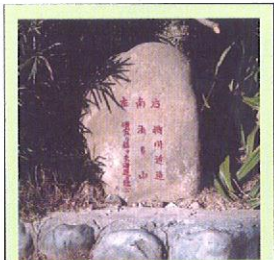
このころの掛川には、<sup>てんのう</sup>天皇家や、<sup>えんりやくじ</sup>延暦寺などの大きな寺院を領主とする荘園、<sup>とどうみ</sup>遠江国の領地である<sup>こくが</sup>国衙領、<sup>いせじんぐう</sup>伊勢神宮の領地である<sup>みくりや</sup>御厨がありました。領主は、荘園に管理する人を派遣し、幕府は、地頭を置いて、農民から年貢を集めたり、犯罪を取りしまったりしました。

<sup>そが</sup>曾我地区の<sup>りょうけ</sup>領家という地名は、領主から派遣された人が<sup>やしき</sup>屋敷を構えたところ、<sup>ほんじよ</sup>東山口地区の本所という地名は、地頭などが仕事をする建物があったところからきたと考えられます。

## ◆ 市内の荘園・国衙領の分布図



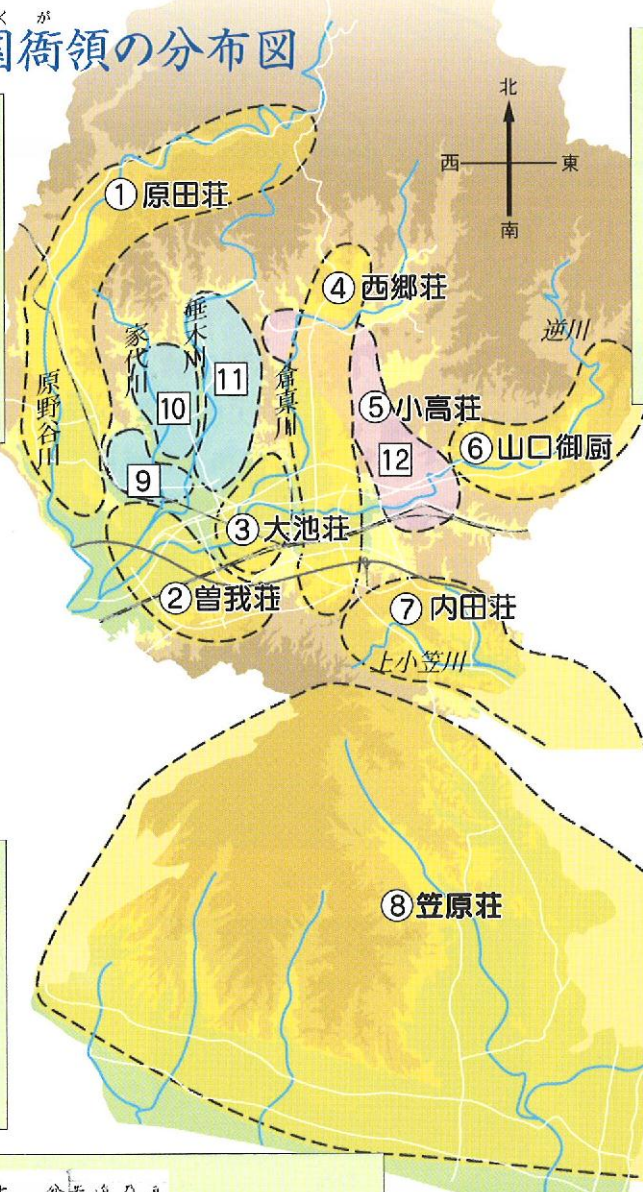
①原田荘 若一王子神社  
はらのだしょう わかいちおうじ じんじや  
1263年の記録に出てくる若王子社と考えられます。



②曾我荘 領家の道しるべ  
そがのししょう  
領家の道しるべ



③大池荘 大池  
おほいけのししょう



④西郷荘 旧観音寺の石塔  
さいこうのししょう かのんのじ せきとう  
1346年の年号があります。

⑧笠原荘  
かさばらのししょう  
大東地区・中の八坂神社やなか  
防災センターの辺りが中心  
といわれています。  
地名に「公文」という役所を表す名前も残されています。

- 荘園
- 国衙領
- ⑨ 富部郷
- ⑩ 家代郷
- ⑪ 垂木郷
- ⑫ 小高郷

⑦内田荘  
うちだのししょう  
内田荘の名が出てくる1410年の経文(龍登院 上内田)

奥願院受領有主老免松清  
乃至老免松清受領一切智智清  
淨何故松清上首清平松清乃老免松清  
若松清淨が一切智智清淨元元元  
分元別元行故



⑤小高荘 小高神社  
おたかのししょう



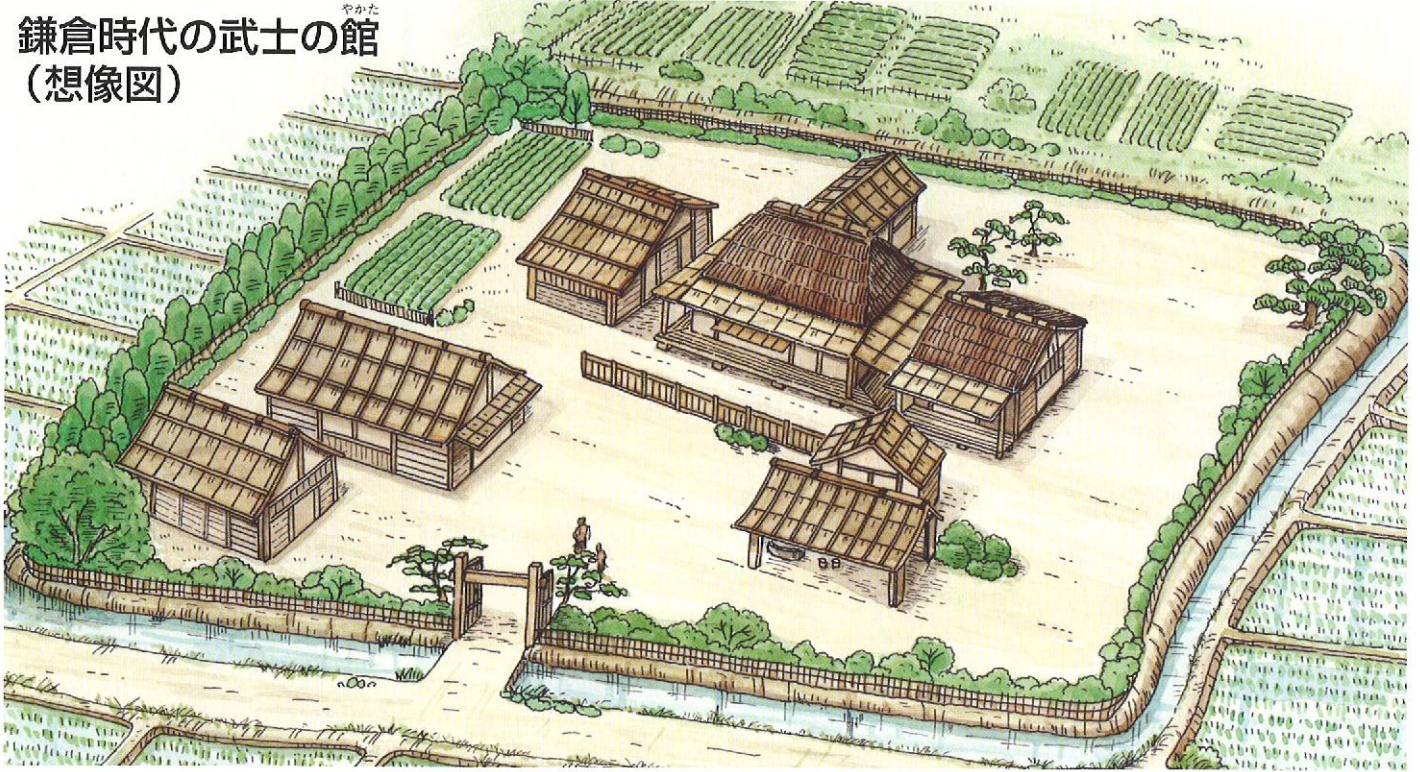
⑥山口御厨 本所の地名  
やまぐちのみくりや



## ◆掛川の代表的な二人の武士

平安時代の終わり、源氏の軍勢に、内田家吉と原清益という武士がいました。彼らは、農民を指揮して開墾を行ったり、農民から年貢を集めたりして、荘園の中でしだいに力をつけていきました。

### 鎌倉時代の武士の館 (想像図)



## ◆内田の武士

### 巴御前と戦った内田家吉

1184年、源範頼・義経が率いる頼朝の軍は、近江国（滋賀県）で源（木曾）義仲軍と戦います。家吉は、家来30人余りを引き連れて頼朝軍に加わっていて、敵の義仲に従っていた巴御前と出会います。巴御前は、勇ましく強いと評判の女性です。家吉も、敵の義仲がほめるほど強い武士でした。ふたりは一騎打ちをし、家吉は、巴御前に討たれてしまいます。

家吉の子孫は、1221年の承久の乱の時、幕府の軍に加わって戦いました。内田氏は、その活躍により、石見国（島根県）で地頭を任命され、移り住みます。しかし、一族全員が移り住んだのではなく、内田に残った人もいたようです。

## ◆原田荘の地頭の先祖

### 義経に従い一ノ谷（兵庫県）の戦いで平氏を破った原清益

鎌倉時代、原野谷川流域にあった原田荘の地頭に、原氏という武士がいました。原氏は、荘園の一部を支配する地頭から少しずつ勢力をのぼし、15世紀の後半ごろには、荘園全体を支配する地頭になりました。

1184年、源義仲を討ちほろぼした源義経は、一ノ谷の平氏を攻めました。この時、義経に従った武士の名前の中に、原氏の先祖と考えられる原清益という名前があります。



原氏の墓（照月寺 本郷）



## 室町時代の掛川

## ◆ 遠江国の守護

守護は、源頼朝によってそれぞれの国に設置され、軍事や警察の権力を与えられていました。室町幕府を開いた足利尊氏は、足利氏の一族で、尊氏に従って戦い手がらをとてた今川氏を、遠江国の守護に任命しました。遠江国の守護は、15世紀の初めごろまでは、何人も交替しますが、その後、足利氏の一族で、将軍を補佐する職にあった有力な大名の斯波氏が、任命されました。しかし、斯波氏は、15世紀の中ごろに相続をめぐる争いを起こしました。この争いが、斯波氏の勢力をおとろえさせただけでなく、応仁の乱の原因のひとつになりました。

斯波氏の勢力がおとろえると、市内の原氏や川井氏などが勢力をのぼし、さらに、駿河国の守護大名である今川氏が、遠江国に領地を確保するために攻めてきました。

## 遠江国の守護の移り変わり

室町時代  
1338年～

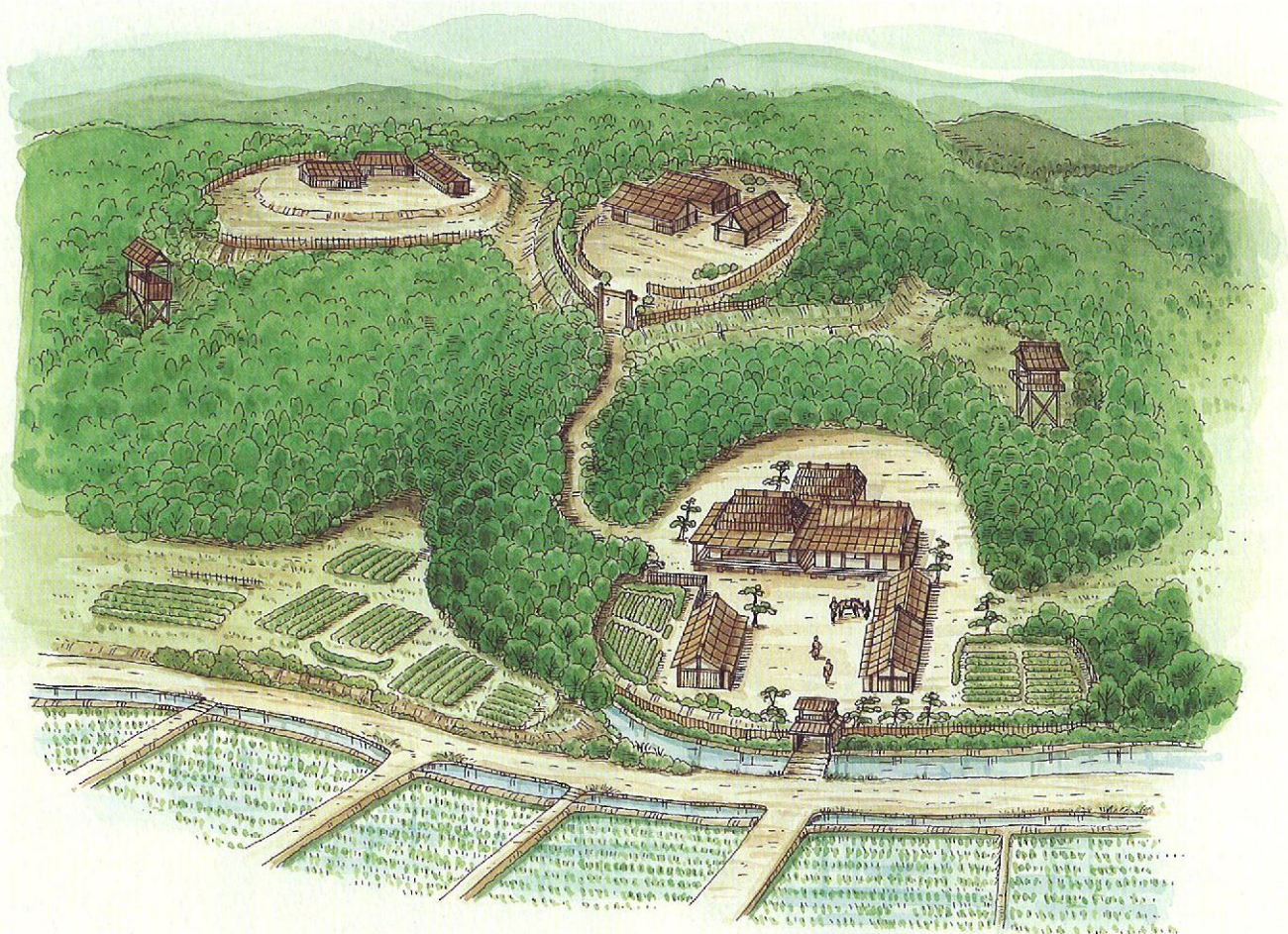
今川氏  
仁木氏(足利氏の一族)  
千葉氏  
高氏(足利氏の側近)  
今川氏  
仁木氏  
今川氏  
斯波氏  
今川氏

1419年  
応仁の乱  
(1467年～

斯波氏

1501年  
1508年～  
1526年～  
1536年～

今川氏親(ここから戦国大名)  
今川氏輝  
今川義元



室町時代の武士の館と城(高藤城)の想像図(本郷)

当時の城は山城で、武士はふだん平地で生活をし、戦いの時、山城に入りました。



### ◆原氏などの勢力

原田荘の一部を支配する武士であった原氏は、少しずつ勢力をのぼしていき、原田荘全体を支配するようになりました。原氏ほど勢力はありませんが、後に今川氏にほろぼされる川井氏、松浦氏などの武士もいました。

**駿河**

- 犬居城(天野氏)
- 松葉城跡(倉真)
- 高藤(殿谷)城(原氏)
- 倉真城(松浦氏)
- 堀越城(堀越氏)
- 見附城(狩野氏)
- 高天神城
- 松葉城(川井氏)
- 高天神城跡(土方)
- 横地城(横地氏)
- 勝間田城(勝間田氏)
- 勝間田城跡(牧之原市)
- 横地城跡(菊川市)
- 堀越城跡(袋井市)

**遠江**

犬居城跡(浜松市)

高藤(殿谷)城跡(本郷)

高天神城跡(土方)

堀越城跡(袋井市)

松葉城跡(倉真)

倉真城跡(倉真)

勝間田城跡(牧之原市)

横地城跡(菊川市)

高天神城跡(土方)

高天神城跡(土方)

国土地理院数値地図50mメッシュ/日本-II(中東遠周辺)

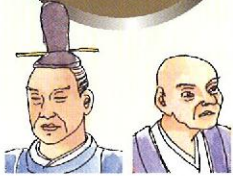


# 12

# 戦国せんごくの世の掛川

## ◆勢力の移り変り

1494年～



今川氏親

北条早雲

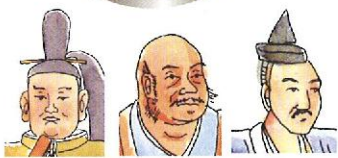
の同盟

今川氏親は、おじの北条早雲とともに、高藤城（本郷）の原氏、松葉城（倉真）の川井氏、倉真城（倉真）の松浦氏などを破ると、重臣の朝比奈氏に掛川古城（城内）をつくらせ、城主にしました。やがて、氏親は、遠江全体に勢力を広げ、駿河と遠江の守護になりました。



国土地理院数値地図50mメッシュ/日本-II (中東遠周辺)

1554年～



今川義元

武田信玄

北条氏康

の同盟

氏親の子の義元は、さらに勢力を広げて、駿河、遠江、三河を支配する戦国大名となり、武田信玄、北条氏康と同盟を結び、尾張の織田信長に対抗しました。



1560年



織田信長



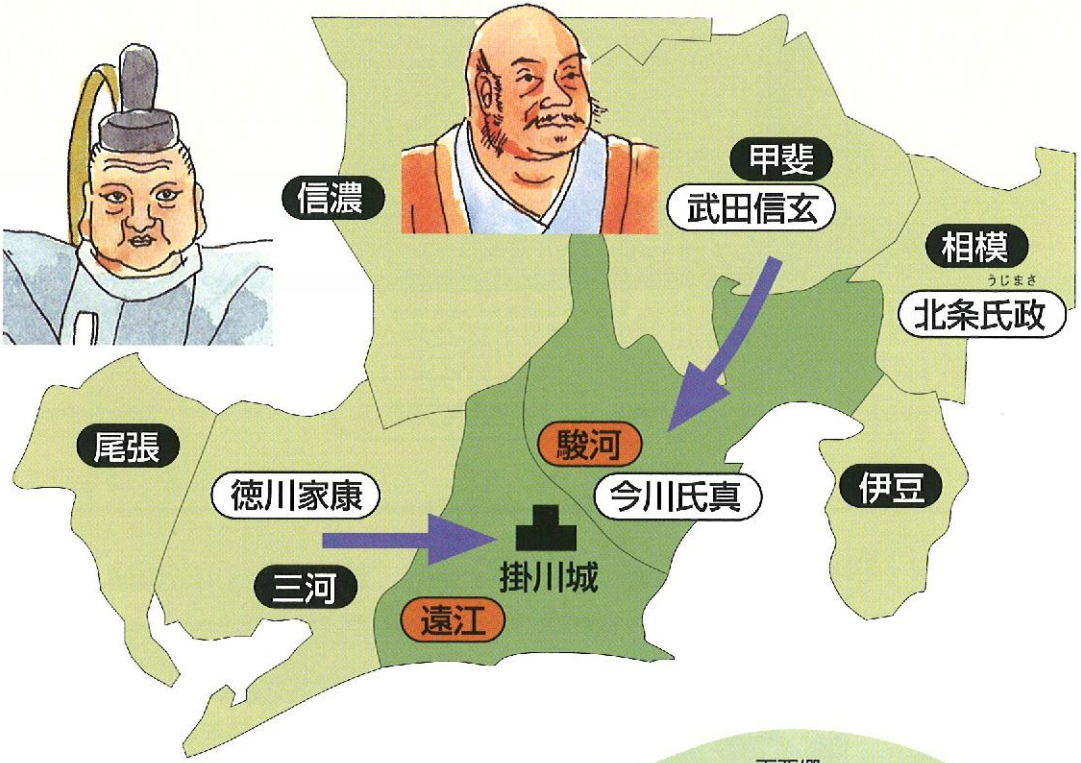
今川義元

しかし、今川義元は、桶狭間の戦いで織田信長に討たれてしまい、子の氏真が跡をつぎました。



1568年

義元が討たれると、今川氏の勢力は、急速に弱まりました。そこで、武田信玄と徳川家康は、今川氏の領地を奪おうとひそかに同盟を結びました。信玄が駿河を攻め、家康が、遠江を攻めることにしました。今川氏真は、駿府（静岡市）の館を信玄に追われて、重臣朝比奈泰朝が守る掛川城に逃げてきました。

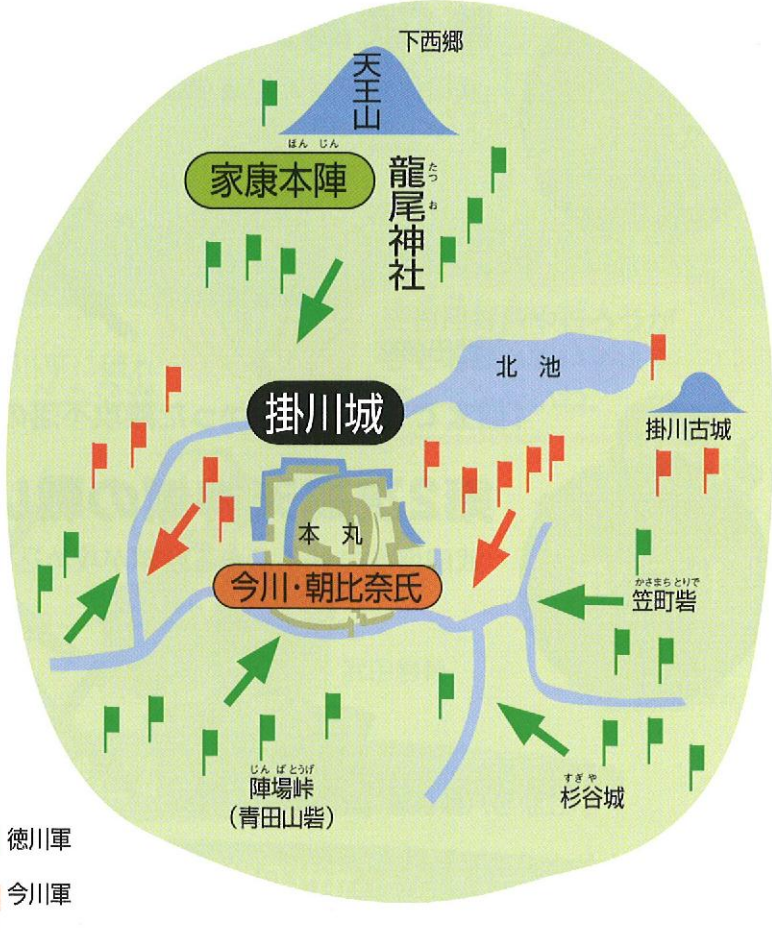


1568年  
12月20日～

### ◆掛川城の攻撃

徳川家康は、氏真がこもる掛川城を包囲すると、家臣に命じて、掛川城下に放火させました。今川方の武上が鉄砲で撃たれて死んだという記録があります。半年に及ぶ攻防の後、氏真は、5月15日に城を家康に明け渡して、小田原の北条氏のところへ行きました。

家康は、掛川周辺を守るために大切な城であると考え、氏真が去った後の掛川城主に、重臣の石川家成を任命しました。



右の図は、18世紀後半の本にのせられている図をもとに作成した戦いの様子です。



# 高天神城をめぐる戦い

## ◆「高天神を制す者は遠州を制す」とまでいわれた高天神城

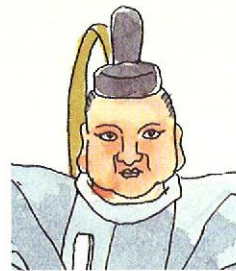
今川・武田・徳川の三氏が、遠江を支配するためにどのような戦いを繰り広げていったのでしょうか。



今川氏



武田氏



徳川氏

### 今川氏の城であった高天神城

今川氏の家臣、小笠原与八郎長忠が城主になりました。

#### 桶狭間の戦い

今川義元が、織田信長に討たれたことで、今川氏の勢力が急速に弱まりました。



徳川家康の誘いに小笠原氏が乗り、高天神は徳川方の城となりました。

### 徳川方の城へ

#### 第1次高天神城の戦い

武田信玄が高天神城を攻めましたが、小笠原氏が死守しました。

1571年



武田信玄



小笠原与八郎長忠

「信玄でも落とせなかった難攻不落の城」と言われ、高天神城を有名にしました。

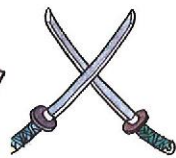
#### 第2次高天神城の戦い

武田信玄の息子である勝頼が攻め込み、高天神を手に入れました。

1574年



小笠原与八郎長忠



武田勝頼

### 武田方の城となりました



## 第3次高天神城の戦い

~1581年

徳川家康が、高天神城を取り戻そうと6つの砦を築き、包囲網を狭めました。

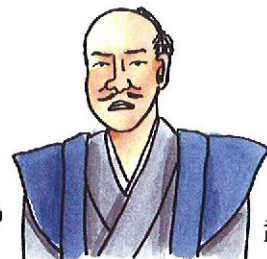


1581年、武田軍が総攻撃をしかけましたが、徳川軍に破れ、全員討ち死にしました。

三日月井戸や石ろうが  
今でも残っているよ！  
行ってみたいね。



徳川家康



武田勝頼



再び、徳川方の城となりました

しかし、徳川家康が城を焼いたため、その後、高天神城は城として使われることはありませんでした。城の役割は、横須賀城が引き継ぐこととなりました。



# 山内一豊と掛川

## ◆信長・秀吉・家康と三人の天下人に仕えた武将

徳川家康は、今川氏真が掛川城を出ると、重臣の石川家成に掛川城を守らせました。家康は、武田氏の諏訪原城や高天神城などがあるので、掛川城に重臣を配置することにしました。

1590年に天下を統一した豊臣秀吉は、徳川家康を関東に移し、家康を包囲するために自分の家臣を配置しました。秀吉は、山内一豊を5万石で掛川城主にし、家康に備えるために大規模な城の改修を命じました。



山内一豊 (財)土佐山内家宝物資料館蔵

## ◆山内一豊の一生

年代	一五四五	一五六〇	一五六七	一五七〇	一五七三	一五七五	一五七七	一五八二	一五八四
歳	0才	15才	22才	25才	28才	30才	32才	37才	39才
場所(石高)	近江国(滋賀県) (二百石)	<p>自由に商売してもよい (楽市・楽座)</p>			近江国唐国 (四百石)	播磨国(兵庫県) 有年 (七百石)	播磨国 (千二百石)	近江国長浜城主 (五千石)	
できごと	尾張(愛知県)黒田城に生まれる	<ul style="list-style-type: none"> <li>このころから織田信長に仕える</li> <li>妻、千代を迎える</li> </ul>			豊臣秀吉の配下として浅井・浅倉攻めに参加	このころ、長篠の戦いに参加	明智光秀との戦いに参加	小牧・長久手の戦いに参加	
	<p>織田信長</p>		<p>千代(まつ)</p>		<p>豊臣秀吉</p>				

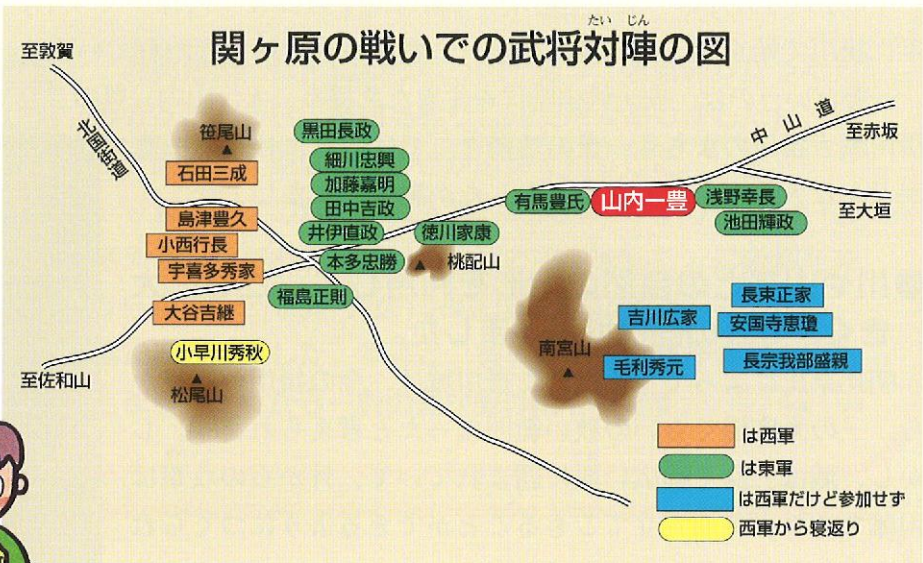
(掛川城が徳川家康支配の時代)



### ◆関ヶ原の戦い

1600年、徳川家康は、石田三成と戦うために下野国（栃木県）から西に向かうことにしました。家康に従い下野国に行っていた一豊が、自分の城を使ってくださいと申し出て、家康を喜ばせました。

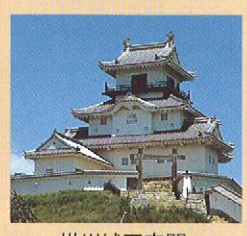
一豊は、関ヶ原の戦いの際には、東軍が背後から攻撃されないよう守る役目をしました。



関ヶ原の戦いで、山内一豊は、どの位置で戦ったのかな。

一五八五	一五八五	一五九〇	一五九四	一五九五	一五九六	一六〇〇	一六〇一	一六〇三	一六〇五
40才	40才	45才	49才	50才	51才	55才	56才	58才	60才
若狭国(福井県)高浜城主 (二万九千八百石)	近江国長浜城主 (二万石)	遠江国掛川城主 (五万石) (山内一豊が掛川城主としての10年間)	(五万一千石)	(五万九千石)	(二十万石)	土佐国(高知県)領主 に任命される			
地震で、長女や多くの家臣を失う	秀吉の小田原攻めに参加	大井川の治水工事を行う	領地の検地を開始	掛川城天守閣をつくり始める	掛川城天守閣完成	関ヶ原の戦いに東軍(徳川家康軍)として参加	土佐国に入る	高知城に入る	死去

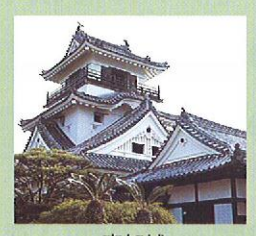
石高とは、その領地で収穫できる米の量の事です。  
1石=米約180リットル(約150kg)



掛川城天守閣



徳川家康



高知城



# 山内一豊をめぐるエピソード

## ◆掛川のまちづくりをした山内一豊

平成16年10月2日・3日、掛川で『第11回一豊公&千代様サミット』が行われました。サミットは平成6年に掛川で始まり、その後、毎年、一豊ゆかりの地で行われています。

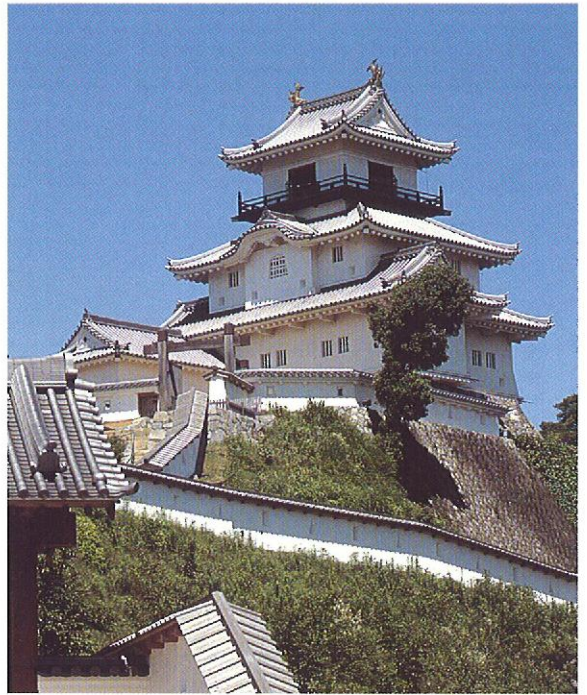
一豊というのは、安土桃山時代を生きた武将の一人、山内一豊のことで、掛川との関わりが深い人物です。掛川城も掛川のまちも一豊の功績なしでは語れません。一豊がどんな人物で、どんなことをしたか調べてみましょう。

## ●川や山などの自然の地形を利用して、さらに大きく、守りの固い城にしました。

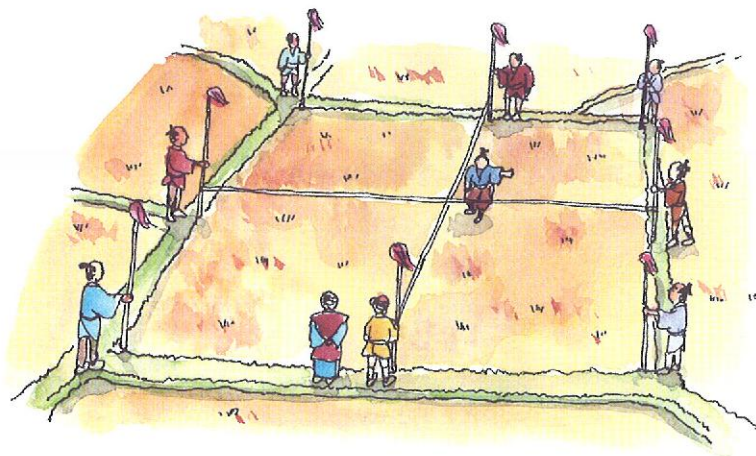
朝比奈氏によってつくられた掛川城は、今の掛川西高校から、三の丸広場くらいの狭い範囲だったと考えられます。しかし、城は、深く幅広い堀に囲まれていて、外からの攻撃は困難であり、長期間立てこもることができるようにつくられていました。

一豊は、関東の徳川家康が東海道を攻めてくることを想定して、大勢の兵が立てこもることができるように城を大きくしました。また、攻撃から建物や兵を守るために土を盛って土塁を築いたり、堀を掘ったりして、守りを固めました。

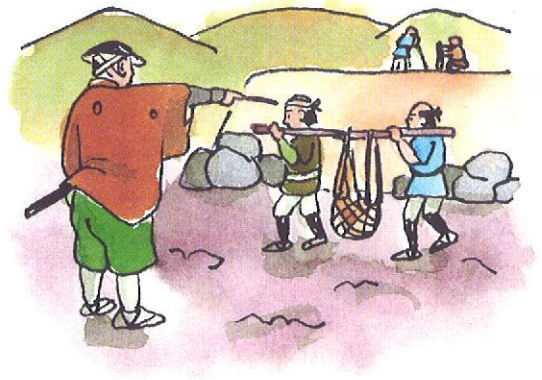
一豊の時に初めて掛川城に天守閣が建てられました。



## ●秀吉の命令で、検地を行いました。



## ●町に道路をつくり、堀をめぐるせて、城下町を整備しました。



## ●寺院や神社を大切にしました。

## ●朝鮮侵略用の軍用船をつくりました。

## ●大井川の治水工事をして、洪水を防ぐとともに新田の開発を行いました。

## ●関ヶ原の戦いでまさきに掛川城を家康に差し出しました。

行ってみよう!





## 名馬の話



清水銀行掛川支店前の彫刻 一豊と千代

織田信長に仕え始めたころの一豊は、大変貧しかったそうです。ある日、名馬を売りに来た者がありましたが、値段が高くて家臣はだれも手が出ませんでした。

一豊は、この馬を手に入れ、出世の足がかりにしたいと考えましたがお金が無く困り果てていました。この話を夫から聞いた千代は、黄金10枚を自分の鏡の箱から取り出し、馬を買わせました。すると、案の定、この馬が信長の目にとまり、それから一豊の運が開けたそうです。



軍配

軍扇



兜

山内家の鎧

【掛川城天守閣・御殿展示】

## 笠の緒の文の話

徳川家康は、一豊らの武将とともに会津（福島県）の上杉氏を討ちに向かった下野国（栃木県）で、石田三成が兵を挙げたという知らせを聞きました。

石田三成らの人質になっていた一豊の妻、千代は、大阪の情報を手紙に書いて家康に持たせ、一豊に届けました。一豊は、家来の笠の緒に隠された妻からの密書を読んだ後、手紙は読まないでそのまま家康に差し出しました。これは、「自分の運命を家康に託す」という気持ちの表れだと思われれます。おそらく、千代の密書にそうするように書かれていたのでしょう。

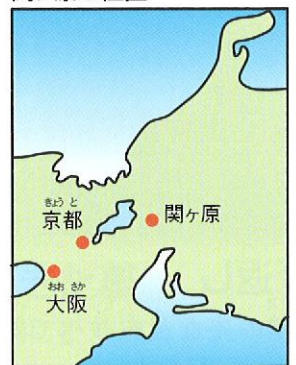
この行いに大変感動した家康は、関ヶ原の戦いに勝った後、一豊を5万9千石の城主から、土佐（高知県）一国20万石の大名にしました。



笠の緒

ここに手紙をつけて敵に見つからないようにしました。

関ヶ原の位置







龍華院 大猷院霊屋

## ◆朝比奈泰瀨が築いた最初の掛川城

最初の掛川城は、1497年から1501年ごろ今川氏の重臣朝比奈泰瀨により、掛川周辺を支配する拠点としてつくられました。その場所は、今の第一小学校の北側の小高い丘で、徳川家光の霊をまつる龍華院大猷院霊屋が建っているところです。その後、今の場所に移され、規模も拡大されました。

約70年続いた朝比奈氏は、1569年に、城を徳川家康に明け渡しました。1590年、掛川城主になった山内一豊は、天守閣を建て、城下町の整備を行いました。

19世紀中ごろの大地震で、天守閣はこわれましたが、平成6年に、市民の寄付により、全国で初めての本格木造の天守閣が復元されました。

## 全国で初めての本格木造の天守閣の復元

### ◆敵の侵入を防ぐ さまざまな工夫



#### 忍び返し

剣や鎧の先などを並べて敵が侵入できないようにしたものです。



#### 石落とし

石などを落として、石垣をよじ登ってこようとする敵を、攻撃するためのものです。

### 掛川古城のあったところ



宮上茂隆氏の設計により復元された天守閣

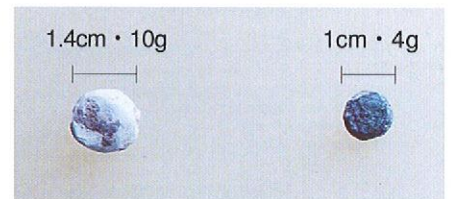
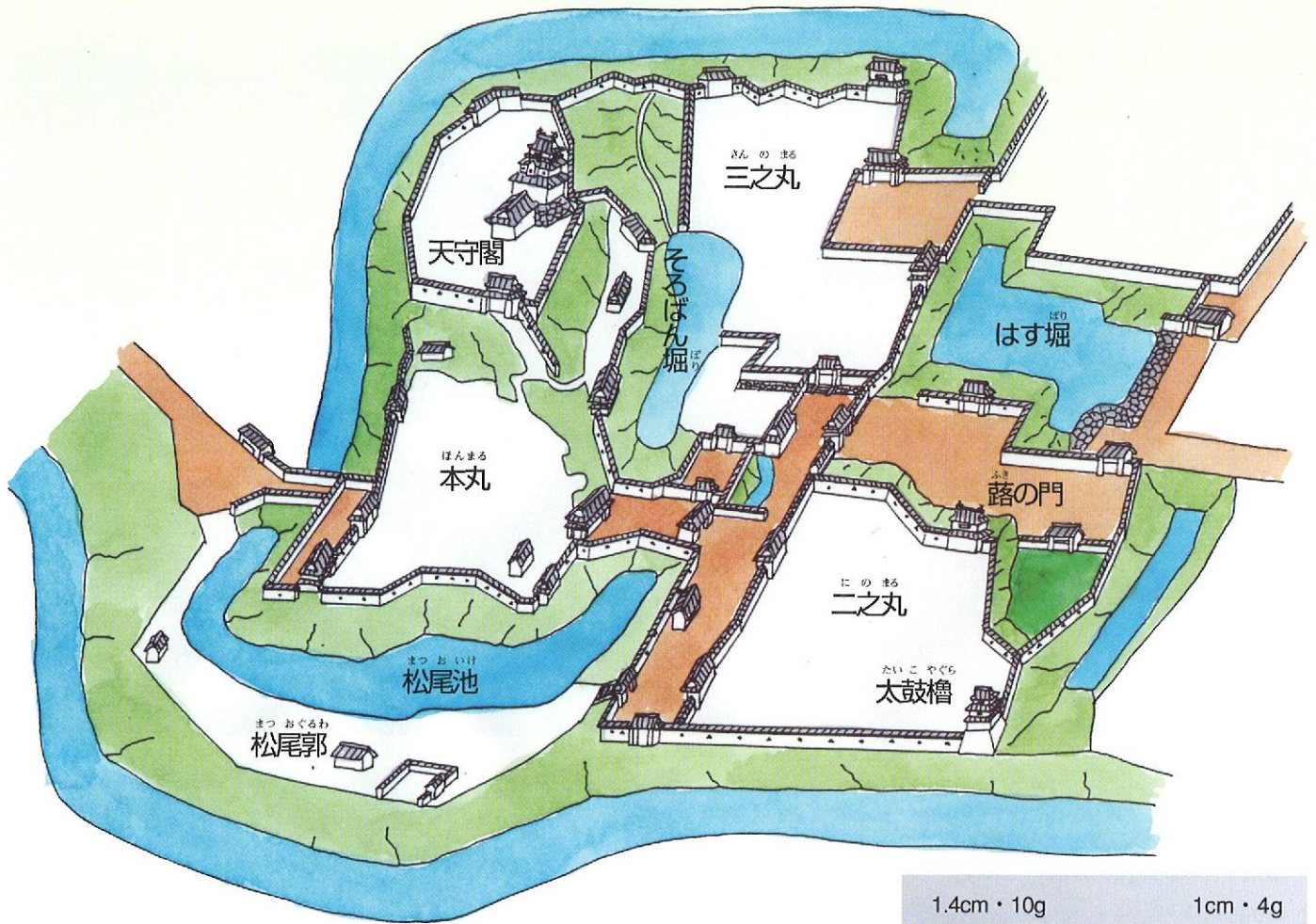


#### 狭間

弓矢や鉄砲などで敵を攻撃するために壁にあけられた穴です。



### ◆1645年ごろの掛川城の中心部



発掘調査で見つかった鉄砲の玉

### ◆掛川城は小高い丘と平地を利用した平山城

ひら やま じろ



#### 曲がりくねった階段

敵が、天守閣に大人数で攻めてこれないように、階段の幅を狭くして曲がりくねってつくられています。



#### 本丸の地下から出てきた墓

朝比奈氏による掛川城築城により埋められた墓で、城が作られる前は墓地であったことがわかります。





### ◆徳川の命を受け、築かれた横須賀城

横須賀城の築城は、1578年から始まり1580年に完成したといわれています。その場所は、今の横須賀小学校から北西へ約2キロほどのところです。

初代城主大須賀康高は、当時、浜松城主であった徳川家康の命によって城を築きました。

以後、横須賀城は20代の城主のもと、1868年（明治元年）まで、本丸を中心に三の丸・二の丸と規模を拡大していき、近隣地域の政治・軍事の中心施設としての役目を果たしました。



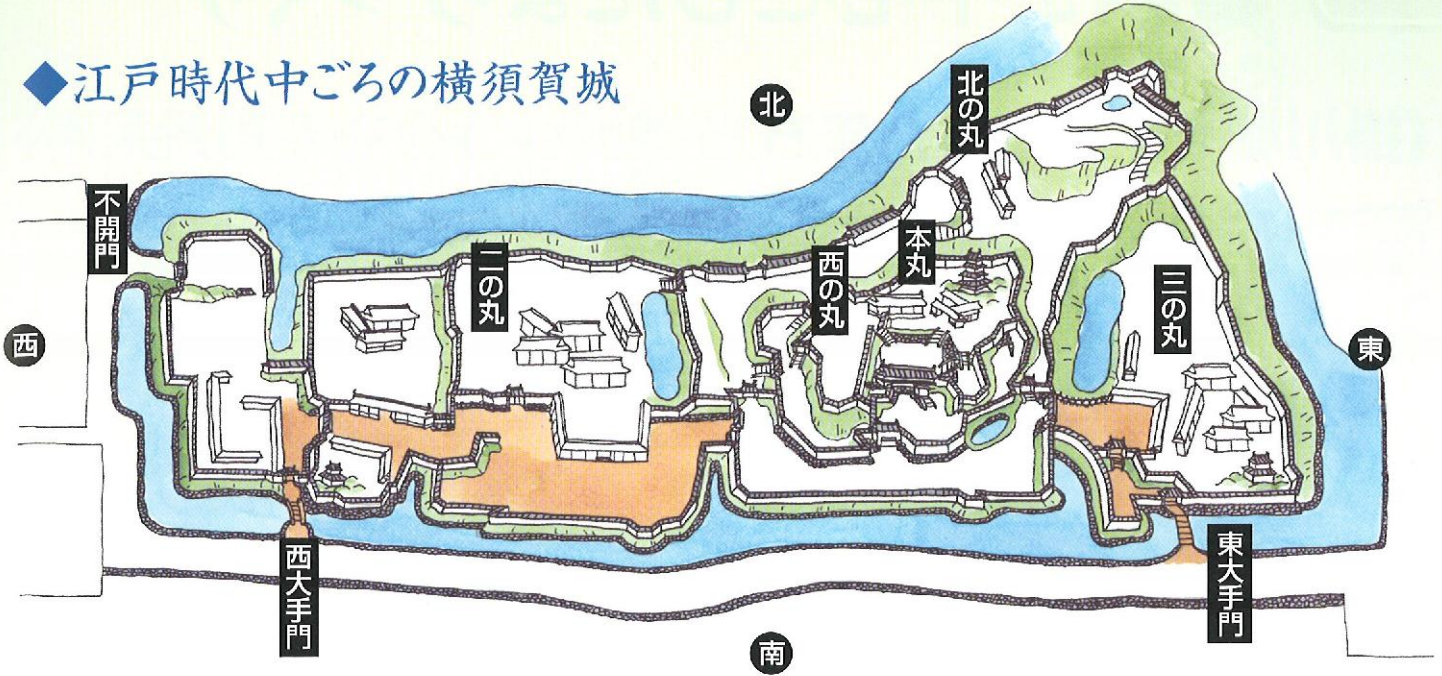
恩高寺に残る横須賀城の鯨瓦



昔の堀のおもかげを今に伝えるみかづき池



## ◆江戸時代中ごろの横須賀城

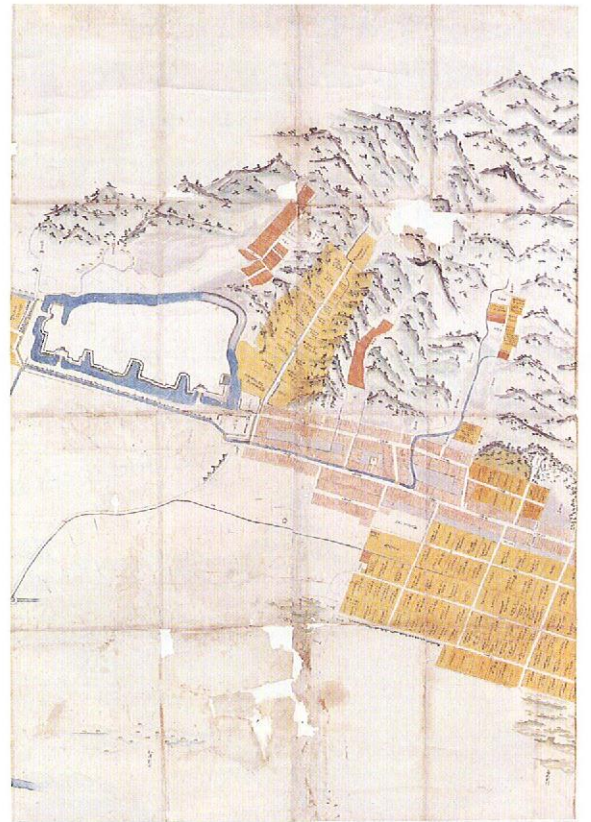


横須賀城は、東西に長く築かれ、北に小笠山、南に入り江がある地形を生かした平山城でした。

城の正門である大手門が2つあるため「両頭の城」と言われています。不開門は、特別な時にだけ利用されました。



撰要寺に移築された不開門



横須賀城下町絵図

## 徳川家康のねらいは…



浜松城を本拠に遠江を領地としていたが、1574年、武田軍の攻撃によって、高天神城を奪われてしまった。

高天神城を奪還するために横須賀城を拠点にしたかったんだね。





# お城を中心としたまちづくり

## 《掛川城を中心としたまち》



太鼓櫓

### ◆太鼓櫓は音の時計台

元は旧市役所の高台にあったもので、市の指定文化財です。時を知らせるため、時間になると太鼓が打ち鳴らされました。掛川城御殿の玄関に当時使われた大太鼓があり、毎年6月10日の時の記念日に打ち鳴らし式を行っています。

掛川の町は、城の中と近くに武士が住み、商人や職人が逆川から南に町をつくる城下町でした。このまちなかを東海道が東西に通り、旅籠屋や商店などが軒を連ねる宿場町でもありました。

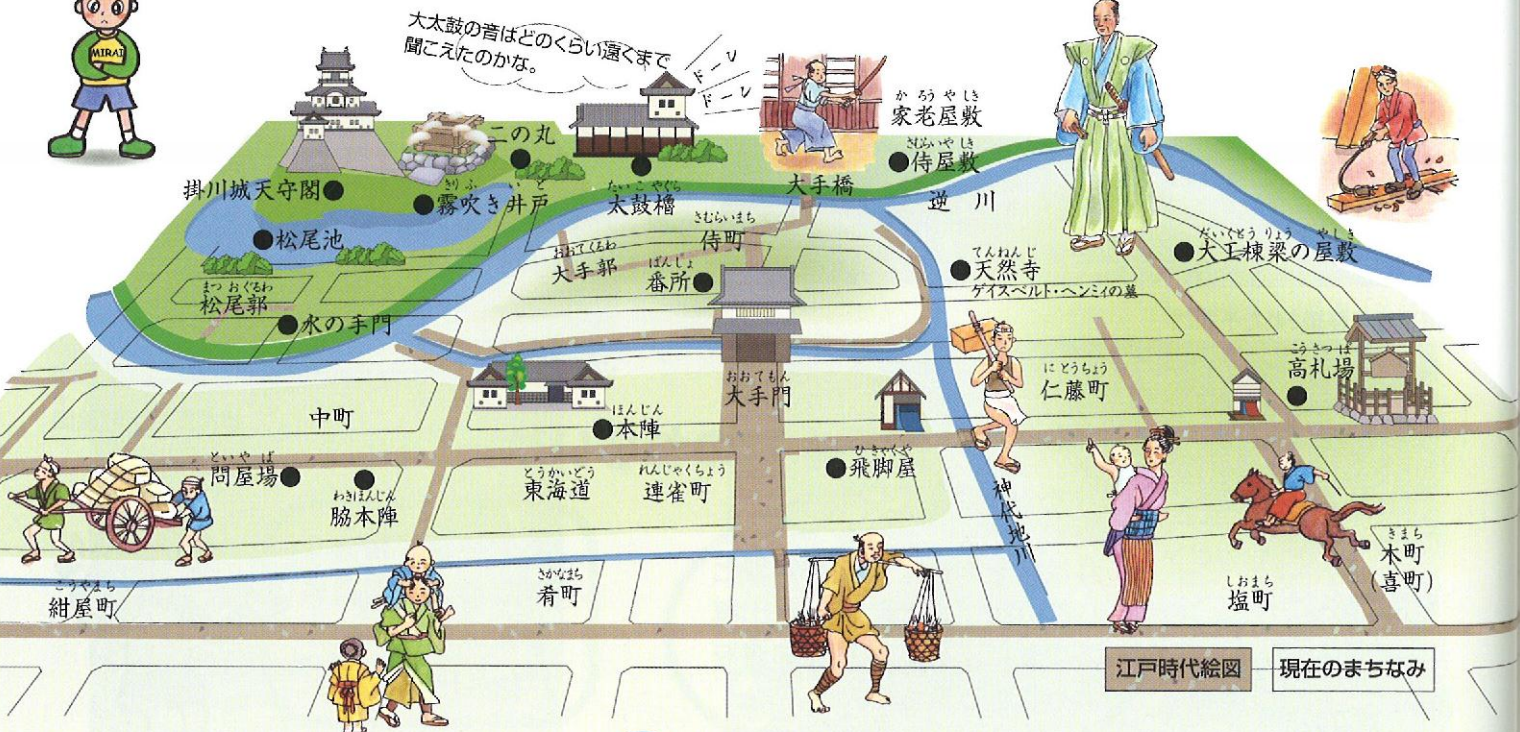


大手門(今の大手門は昔の位置より50m北に建っています。)

### ◆大手門

大手門は、掛川城の正門で、東海道に面して建てられていました。不明だった位置と規模が、発掘調査で明らかになりました。そこで、全国で初めて大手門が復元されました。

## ? 調べてみよう



江戸時代絵図 現在のまちなみ



こだわりっぱの前で、今のまちなみと昔の絵図を重ねた絵図が見られるよ。



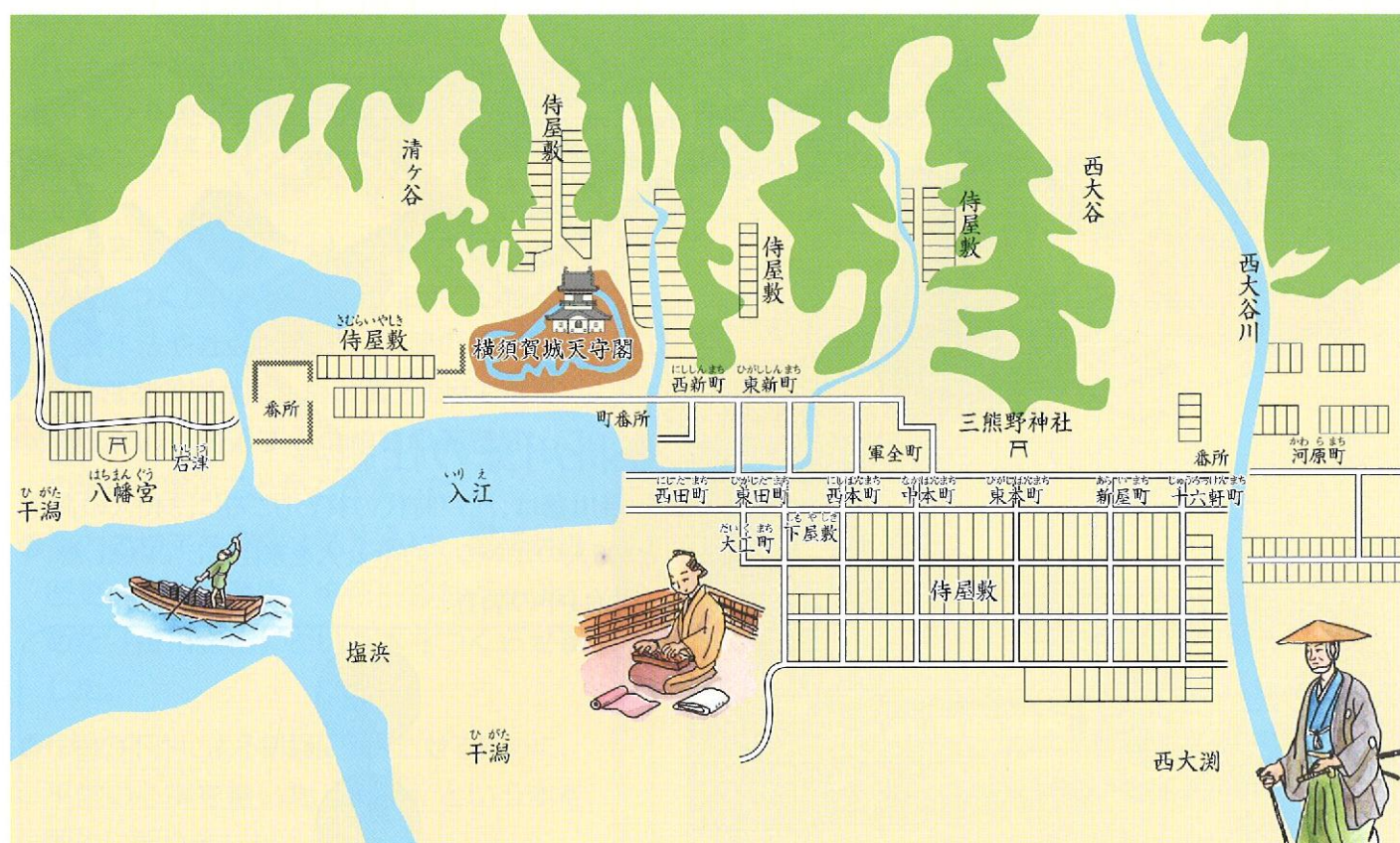
## 《横須賀城を中心としたまち》

横須賀の町は、北側に山があり、城の周り<sup>ざわらいやしほ</sup>と東側に侍屋敷や商人や職人の住む町が広がり、城のすぐ前が入り江となっていました。整備された道とともに、舟による海上交通も、町の発展のために大きな力になりました。

今も残っている町の名前がたくさんあります。



今のまちのようすとくらべてみよう。



横須賀町番所<sup>まちばんしょ</sup>は、横須賀城があった頃、城内に出入りする人を監視する目的で造られた建物で、現在は市指定文化財として、大須賀支所北側に移築されています。明治維新とともに横須賀城は廃城となり、城の建物等ほとんどがとりこわされましたが、この町番所の建物だけは奇跡的に残りました。

建物の屋根の大棟と隅棟には、城主西尾家の紋所である「櫛松」を表した鳥衾付の鬼瓦がふかれ、昔のようすを伝えています。

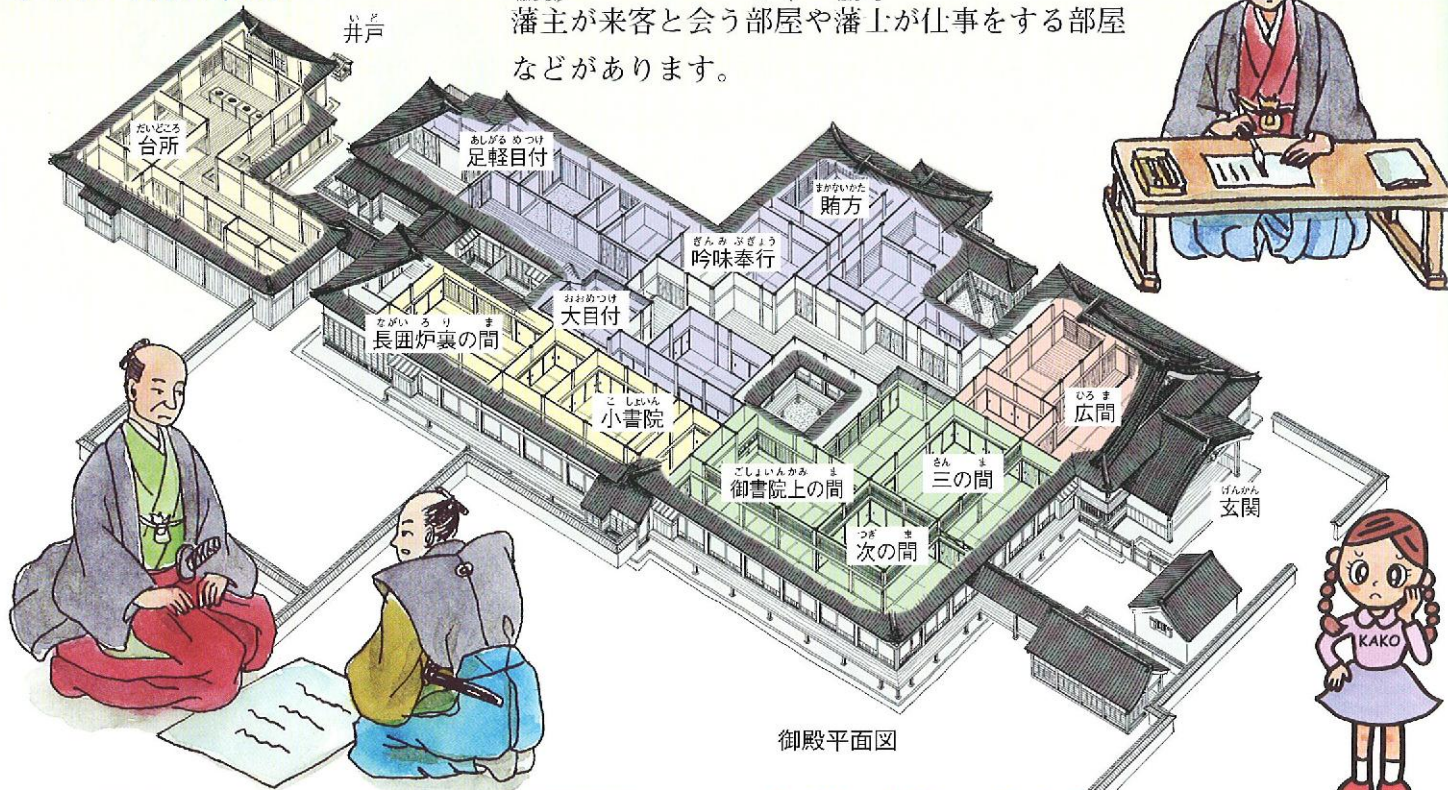


横須賀町番所(西大淵)



## ◆掛川城御殿

現在の御殿は19世紀中ごろに再建された建物で、藩主が来客と会う部屋や藩上が仕事をする部屋などがあります。



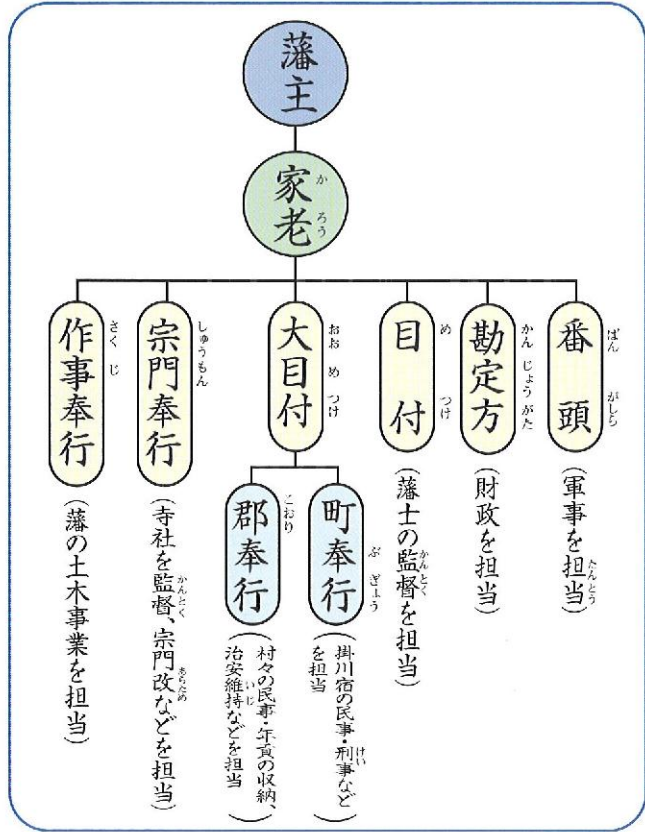
御殿平面図

## ◆掛川藩の仕組み

掛川藩は、江戸時代の終わりごろに、340人の武士と305人の足軽などの奉公人を家臣にしていました。(明治4年の調査)



掛川城御殿全景



御書院上の間 床の間と棚



次の間



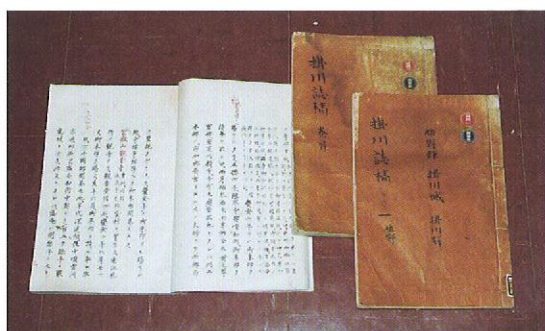
## ◆太田氏の政治

1746年から1868年（明治元年）まで掛川藩主であった太田氏は、寺社奉行や老中などの幕府の重要な職を勤めつつ、自分の領地である藩の政治にも力を注ぎ、次のようなことを行いました。



掛川藩最後の藩主太田資美

- 藩の若者をすぐれた人材に育てるために学校をつくり、剣や槍などの武芸のほか、礼儀作法や社会の秩序、中国の歴史などの学問を学ばせました。藩士だけでなく、学びたいと希望する町や村の若者は、この学校で学ぶことができました。
- 藩内の様子を理解するために、宿や村の歴史、人口、産物、名所旧跡などをまとめた『掛川誌稿』という本をつくらせました。
- 作物の不作による飢饉に備えさせるために、平常の心得を書いた『農論』という本を藩内に配りました。
- 不作で貧しくなった農村を立て直すために、報徳を取り入れて、村人に開墾させたり、ため池を直させたりして、収穫が増えるようにしました。



『掛川誌稿』（大日本報徳社所蔵）

## ◆山内一豊以降の歴代城主

	城主名	入城年	在城年数	禄高	幕府の要職と移動先
初代	山内一豊	1590	10		土佐（高知県）
二代	松平定勝（さだかつ）	1601	6	三万石	伏見城代（京都府）
三代	松平定行（さだゆき）	1607	10	三万石	桑名（三重県）
四代	安藤直次（なおつぐ）	1617	2	二万八千石	紀伊徳川家老（和歌山県）
五代	松平定綱（さだつな）	1619	4	三万石	淀（京都府）
六代	朝倉宣正（のぶまさ）	1625	6	二万六千石	
七代	青山幸成（ゆきなり）	1633	2	二万六千石	尼崎（兵庫県）
八代	松平忠重（ただしげ）	1635	4	四万石	
九代	松平忠俱（ただとも）	1639	0	四万石	飯山（長野県）
十代	本多忠義（ただよし）	1639	5	七万石	村上（新潟県）
十一代	松平忠晴（ただはる）	1644	4	三万石	亀山（京都府）
十二代	北条氏重（うじしげ）	1648	10	三万石	
十三代	井伊直好（なおよし）	1659	13	三万五千石	
十四代	井伊直武（なおたけ）	1672	22	三万五千石	
十五代	井伊直朝（なおとも）	1694	11	三万五千石	
十六代	井伊直矩（なおのり）	1705	0	三万五千石	与板（新潟県）
十七代	松平忠喬（ただたか）	1706	5	四万石	尼崎（兵庫県）
十八代	小笠原長瀬（ながひろ）	1711	28	六万石	
十九代	小笠原長庸（ながつね）	1739	5	六万石	
二十代	小笠原長恭（ながゆき）	1744	2	六万石	棚倉（福島県）
二十一代	太田資俊（すけとし）	1746	17	五万石	（寺社奉行）
二十二代	太田資愛（すけちか）	1763	42	五万石	（老中）
二十三代	太田資順（すけのぶ）	1805	3	五万石	
二十四代	太田資言（すけとき）	1808	2	五万石	
二十五代	太田資始（すけもと）	1810	31	五万石	（老中）
二十六代	太田資功（すけかつ）	1841	21	五万石	（寺社奉行）
二十七代	太田資美（すけよし）	1862	6	五万石	芝山（千葉県）

（太字は幕府における要職）



太田家家臣の墓（正願寺 仁藤）



調べてみよう





## ◆横須賀城の歴代城主

	城主名	入城年	在城年数	禄高	幕府の要職と移動先
初代	大須賀五郎左衛門尉康高(ごろうざえもんのじょうやすたか)	1580	8	三万石	
二代	大須賀五郎左衛門忠政(ごろうざえもんだまさ)	1588	3	三万石	上総久留里(千葉県)
三代	渡瀬左衛門佐繁詮(さえもんのすけしげあき)	1591	4	三万石	
四代	有馬玄蕃頭豊氏(氏長)(げんばのかみとようじ)(うじなが)	1595	6	三万石	丹波福知山(京都府)
五代	松平(大須賀)出羽守忠政(でわのかみただまさ)	1601	6	五万五千石	
六代	松平(大須賀)五郎左衛門忠次(ただつぐ)	1607	8	五万五千石	上野館林(群馬県)
七代	松平常陸介頼宣(駿府城主)(ひたちのすけよりのぶ)	1615	4	駿遠太守五十万石	和歌山
八代	松平(能見)大隅守重勝(のうみ)(おおすみのかみしげかつ)	1619	1	二万六千石	
九代	松平(能見)丹後守重忠(のうみ)(たngoのかみしげただ)	1620	3	二万六千石	出羽上の山(山形県)
十代	井上主計頭正就(かずえのかみまさなり)	1623	5	五万二千石	(老中)
十一代	井上河内守正利(かわちのかみまさとし)	1628	17	四万五千石	常陸笠間(茨城県)
十二代	本多越前守利長(えちぜんのかみとしなが)	1645	37	五万石	出羽村山(山形県)
十三代	西尾隠岐守忠成(おきのかみただなり)	1682	31	二万五千石	
十四代	西尾隠岐守忠尚(ただなお)	1713	47	三万五千石	(老中)
十五代	西尾主水正忠需(もんどのしょうただみつ)	1760	22	三万五千石	
十六代	西尾隠岐守忠移(ただゆき)	1782	19	三万五千石	
十七代	西尾隠岐守忠善(ただよし)	1801	27	三万五千石	
十八代	西尾隠岐守忠固(ただかた)	1829	14	三万五千石	
十九代	西尾隠岐守忠受(たださか)	1843	18	三万五千石	
二十代	西尾隠岐守忠篤(ただあつ)	1861	7	三万五千石	安房花房(千葉県)

(太字は幕府における要職)

## ◆初代城主

### 徳川家康に認められた大須賀五郎左衛門尉康高

おおすかごろうざえもんのじょうやすたか

三河(今の愛知県)に生まれた康高は、とても勇かんで、さまざまな合戦に参加して手がらをたてました。徳川家康にその力を認められて家来になりました。

横須賀城主になったあとも、姉川の戦いや長篠の合戦に参加して活躍しました。また、堤ぼうをつくって田畑を開発するなど、領内の農業の発展に力をそそぎました。



大須賀康高

大須賀康高、第二代忠政の墓  
(撰要寺 山崎)



## ◆第四代城主

## 重い年貢で人々を苦しめた有馬玄蕃頭豊氏

あり ま げん ぼのかみ とよ うじ

豊臣秀吉の家来であった豊氏は、1595年に第四代城主となりました。このころは豊臣秀吉が全国できびしい検地をおこなっていました。豊氏も、領地の田畑の面積を細かく測り、人々は重い年貢に苦しめられました。

当時は、田畑の面積を測るために縄が使われ、領主が玄蕃頭だったことから、「玄蕃縄」とよばれ、その後もきびしい測量をあらわす名前として人々に語りつがれました。

どんなお殿様がいたのかな？



## ◆第十三代～二十代城主

## 文化・スポーツで人々を喜ばせた西尾家の城主

第十四代城主西尾忠尚は、西尾家を発展させた人として有名です。幕府の寺社奉行や奏者番などをつとめ、その活躍が認められて、若年寄や老中などの要職に任ぜられました。

勇ましいことを好み、相撲の力士をやとって相撲の試合を人々に見せたり、江戸から花火師を呼んで、人々に花火を見せたりしました。また、参勤交代で江戸に行ったときに、家来に江戸祭礼囃子を習わせ横須賀の地に伝えました。これが、いまでも三熊野神社の春の大祭で使われる山車の囃子となっています。



西尾家の墓 (龍眠寺 西大淵)



三熊野神社の大祭



三熊野神社

第十七代城主西尾忠善は、絵画や蘭学など新しい文化に高い関心を持っていました。また、第十九代城主忠受は、絵画に親しみ、その直筆の絵である『六歌仙の図』は、現在三熊野神社に奉納してあります。



### 掛川藩主太田家の絵師

#### ◆村松以弘 (1772~1839)

村松以弘は、掛川宿十九首に生まれ、子どものころから絵をかくことにすぐれていました。

以弘は各地に師を求めて絵を学びました。修業の途中で出会った谷文晁とのかかわりが以弘の作品の基礎をつくりました。文晁のもとで学んだ以弘は、やがて掛川にもどり掛川藩主太田家の絵師となり、多くの作品を残しました。代表的な作品に「白糸瀑図」があります。遠近法を取り入れつつありのままを忠実に描写した作品はまるで写真のように見えます。

以弘の活躍は、この地域の画家に大きな影響をおよぼしました。



以弘の代表作：白糸瀑図（個人所蔵）



村松以弘筆 人物画  
（資料提供 伊藤鋼一郎氏）

### 掛川の武士の子弟を教育した

#### ◆松崎慊堂 (1771~1844)

慊堂は肥後国（熊本県）に生まれ、10才で僧になりましたが、儒学を学ぶために江戸に出て、幕府の学問所昌平齋に学びました。

1802年、31才で掛川藩主に招かれて藩校の教授となり、子弟の教育にあたりました。

1811年、朝鮮通信使が対馬に来た時には、学識の深さと広さ、人格が評価されて、応接役を務めました。

### 日坂に住んだ文化人

#### ◆大須賀鬼卵 (1744~1823)

河内国（大阪府）に生まれ、三島・駿府などを転々としたのち日坂に移り住みました。鬼卵は、たばこ屋を営むかわら、俳句、狂歌を好み、絵もかきました。

1803年、東海道の宿場ごとの文化人を載せた『東海道人物志』をあらわしました。日坂で亡くなり、長松院（大野）に葬られました。



大須賀鬼卵の墓（長松院 大野）



鬼卵がかいた長松院密仙和尚（長松院所蔵）



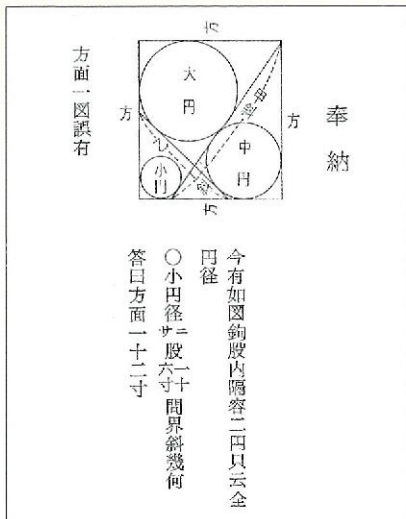
和算の大家

◆後藤美之 (1783~1863)

19世紀の初めごろから、かなりの数の農民が和算（日本で発達した数学）を学び始めました。

農民は、納める年貢を計算しなければなりません。また、稲を日照りの被害から守ったり、米の収穫を増やしたりするために、ため池や用水路などをつくる必要がありました。そのためには、容積や角度などの計算が必要でした。このようなことから、農民は和算を学ぶようになりました。

大池村の後藤美之は、和算を学び研究するかたわら130人余りの門人を教えました。大日本報徳社の社長になった岡田良一郎も門人のひとりでした。



円の直径を求める方法

国学者

◆八木美穂 (1800~1854)

八木美穂は、今から約200年前に浜野村（大坂）で生まれました。

国学者（古い時代の日本のことを調べる学者）となり、和歌や俳句をたくさん作り、横須賀藩の文学教授長（学校長）となりました。



八木美穂 肖像(平野素芸筆) [幕末国学者八木美穂傳]より



八木美穂 石碑(美穂園 浜野)

江戸時代の国際人

初めての日露辞典をつくった 橋 耕斎 (1821~1885)

耕斎は、掛川藩士で1855年、海外渡航の禁を犯してロシアに密出国しました。ロシアの外務省に勤めながら、大学で日本語の教授になりました。1857年に初の日露辞典を刊行しました。

ロシアで日本や日本国民の生活を紹介したり、ロシアを訪れた日本の外交団の接待にあたるなど、幕末の日本とロシアの外交に大きな役割を果たしました。



橋 耕斎

オランダ使節 ゲイスベルト・ヘンミイ

長崎出島のオランダ商館長だったヘンミイは、1794年と1798年の2回将軍に面会するために江戸まで旅をしました。

2回目の旅の江戸から長崎に帰る途中に掛川宿で病死し、天然寺に埋葬されました。かまぼこの形をした墓石の表面には、オランダ語でヘンミイのことが記されています。

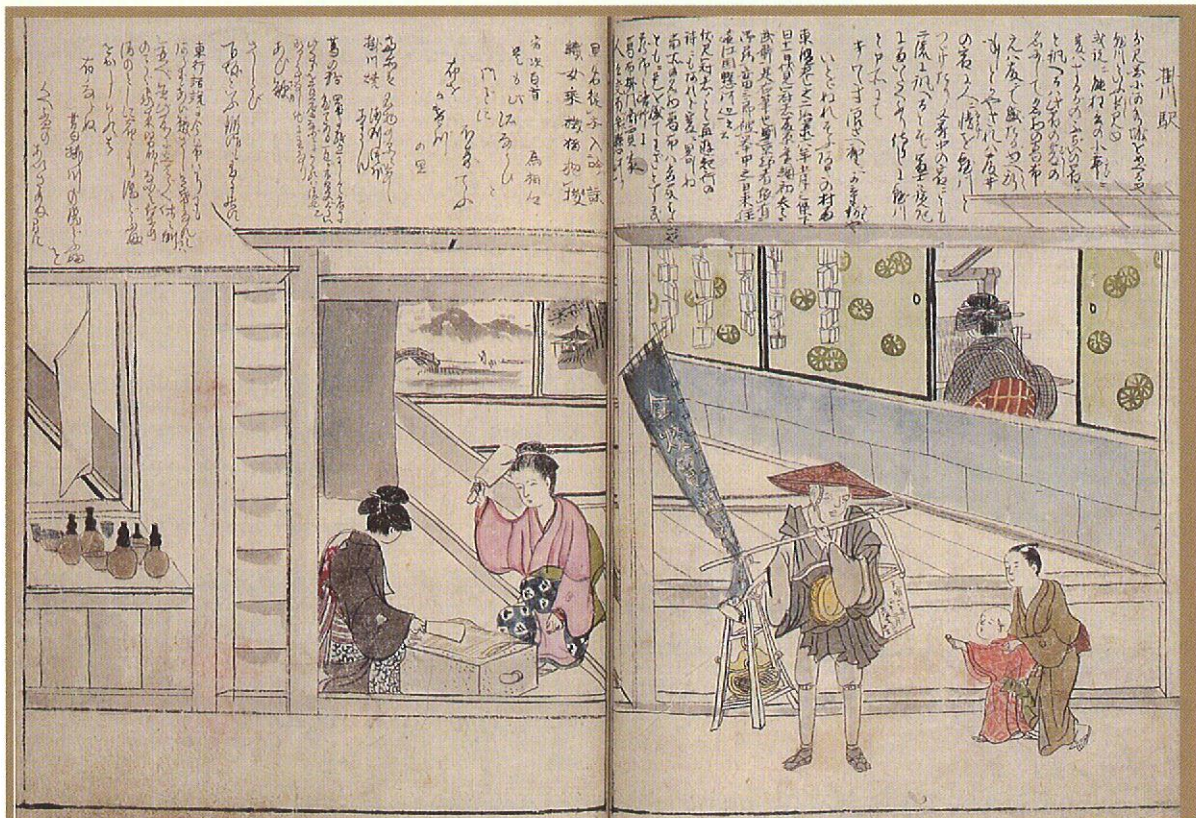


天然寺前のヘンミイの墓



# とう かい どう しゆく 東海道・掛川の宿

## ◆東海道五十三次品川宿から数えて26番目の宿



江戸時代の葛製品をつくる店の図(『東街便覧図略』名古屋博物館所蔵)  
葛の繊維をほぐしたり、布を織ったり葛粉を干している様子が描かれた1786年の絵です。

1601年、徳川家康は、公用の荷物を馬に付けて次の宿まで輸送させることにし、宿に馬を備えさせました。これを伝馬と呼び、その仕事を行うところが問屋場です。参勤交代の制度などにより、大名などが休憩や宿泊をする本陣や脇本陣が整備され、商工業の発達などにより商人などの交通量が増えると、旅籠屋が整備されるようになりました。

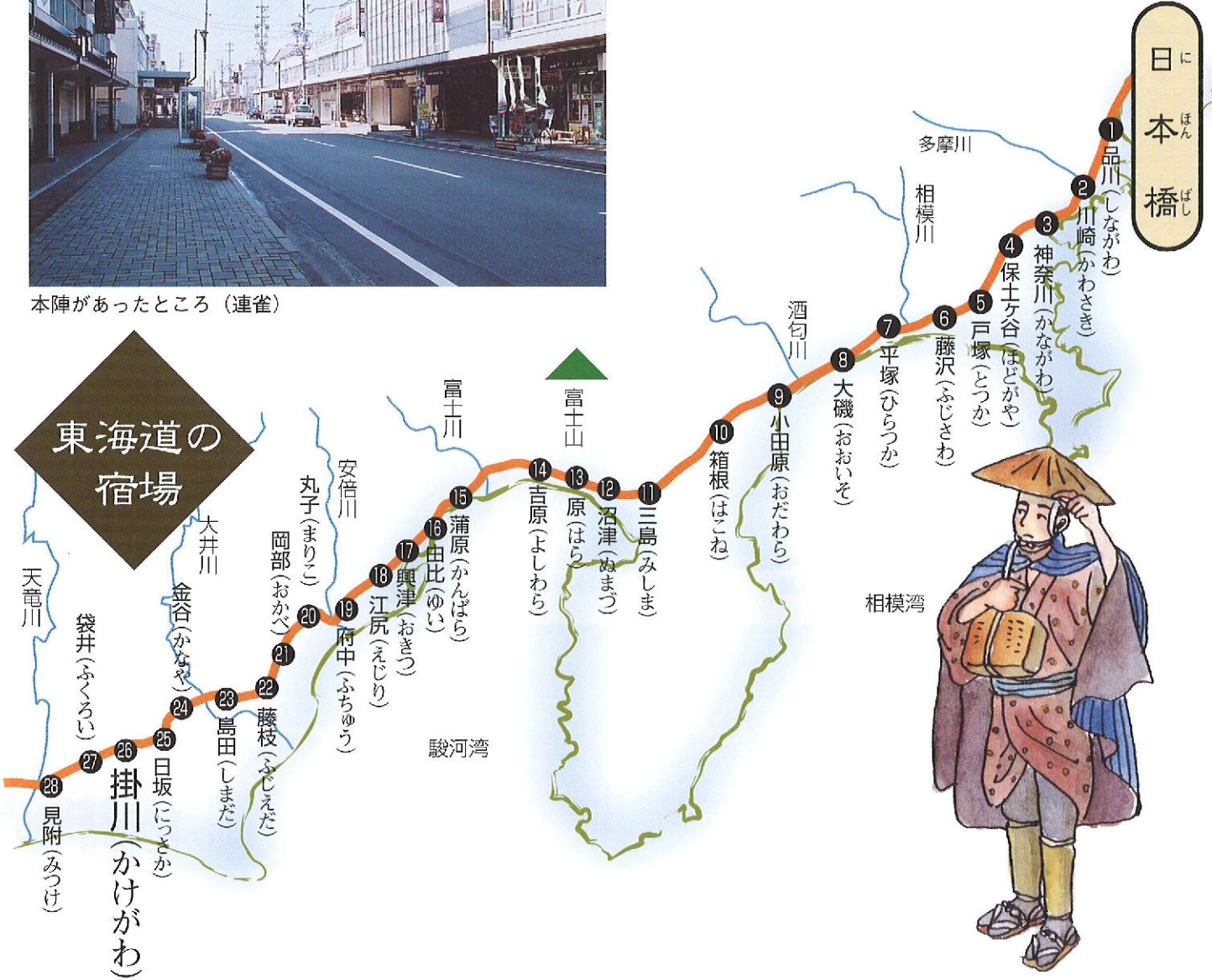
宿は、東海道を行き来する人や物でにぎわい、東海道を通して文化や情報などが伝えられました。







本陣があったところ (連雀)





# 日坂宿(川坂屋)を訪ねて



1786年に描かれた日坂宿のわらび餅店と東海道の様子(『東街便覧図略』国立国会図書館所蔵)



当時の姿に復元された川坂屋



## 川坂屋ボランティア

土・日曜日には、ていねいに川坂屋の歴史や室内を案内していただける方がいます。

川坂屋は、日坂宿で江戸時代の面影を残す数少ない建物です。江戸から大工の棟梁を招いて建てたといわれ、精巧な木組みと細かな細工、格子は、江戸時代の職人の技を物語っています。

また、上段の間をもち、身分の高い武士や公家などが宿泊したようです。

旅籠屋として、明治の初めごろまで続けられました。



江戸時代の職人の細工がみごとです



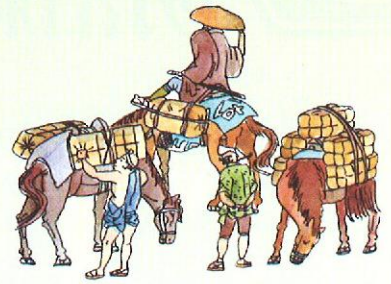
ひろしき  
広敷とみせの間



かまど



# ◆旧東海道、小夜の中山峠



茶亭跡

1600年、掛川城主山内一豊が、久延寺境内に茶亭を建て、会津（福島県）の上杉景勝討伐に向かう徳川家康をもてなしました。



藤文

江戸時代の終わりに、日坂宿の問屋役を務めた伊藤文七の邸宅跡です。



常夜燈

常夜燈

常夜燈

日坂バイパス

事任八幡宮

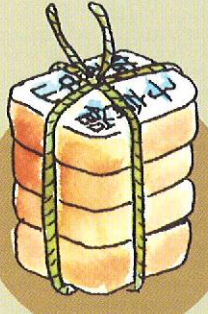


涼み松  
松尾芭蕉が大きな松の木の下で句を詠みました。この周辺の地名を涼み松といいます。



夜泣石

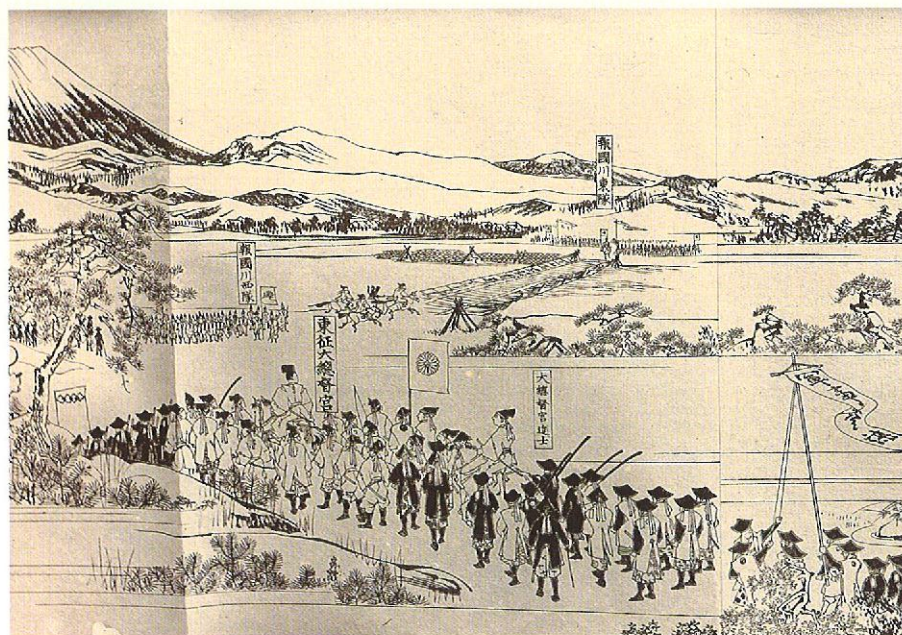
## シーボルトも食べた峠の子育て飴



シーボルトは、長崎出島のオランダ商館長付きの医師として来日したドイツ人の医師で博物学者です。1826年、オランダ商館長に従い江戸まで旅行をした帰りの記録に、「伝説の山、日坂峠を歩き、峠の茶屋で茶を飲み飴を食べて、元気を取り戻した。丘の連なるすばらしい景色をながめ、かわいらしい山の娘と楽しい言葉かわし、指輪とかんざしを彼女にやった。」とあります。次の日、シーボルトは掛川にいる戸塚静海の兄を訪ねています。シーボルト著『江戸参府紀行』平凡社『東洋文庫』より



◆ 明治維新に参加した掛川の人びと



天龍川を渡る新政府軍と、川岸で整列する報国隊の図(浜松市立中央図書館所蔵)

掛川では、主に神社の神主たちが国学を学び、その考えを広めようとしていました。

1868年(明治元年)、鳥羽・伏見(京都府)の戦いで新政府軍が勝ち、旧幕府軍が敗れ、徳川慶喜が江戸に逃げると、これを追う新政府軍が東海道を東に進みました。

これに合わせ、遠州地方では、石川依平らの国学の影響を受けた神主や国学者らを中心に「遠州報国隊」が結成されました。掛川からも9人が参加し、江戸に向かいました。また、掛川藩の武士たちも国学者らの強い働きかけを受け、幕府を倒す軍隊に協力し、明治新政府を支持する立場をとりました。



石川依平誕生の石碑(伊達方)



石川依平(資料提供 伊藤鋼一郎氏)

石川依平—掛川が生んだ国学者

5才で和歌をつくり、6才の時「秋ふかき庭のまがきに色そへて 咲そむるらん露の白菊」と詠んだ歌が藩主太田侯に認められました。

17才の時、菊川に住んでいた栗田土満に弟子入りし、本居宣長の影響を受け国学を志しました。1859年68才で死去しました。

遠州報国隊に参加した人々

- |              |       |
|--------------|-------|
| 旧雨桜村上垂木雨桜神社  | 山崎一郎  |
|              | 山崎 豊  |
|              | 平尾八束  |
|              | 上村橋太郎 |
|              | 近藤一馬  |
|              | 山崎八峰  |
|              | 中山光雄  |
| 旧原谷村本郷八幡神社   | 小沢 力  |
| 旧東山口村日坂八幡神社  | 菅田束稻  |
| (現在の八幡事任八幡宮) |       |

掛川からも、新しい世の中をつくろうとした動きがあったんだな。



雨桜神社



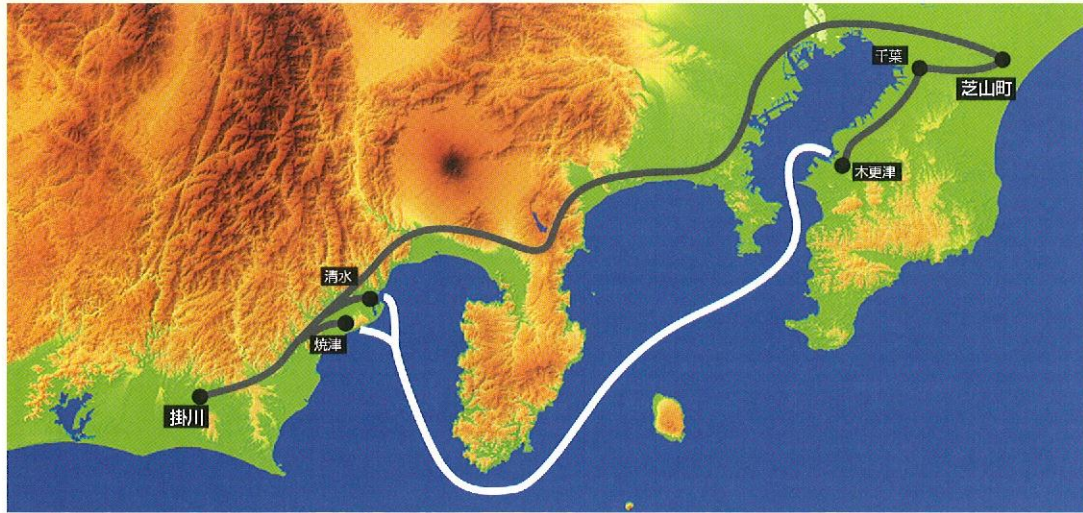
遠州報国隊のさい配と陣笠  
(森町小國神社所蔵)



報国のししゅうをした陣羽織(森町小國神社所蔵)



### ◆掛川藩の行方 千葉(芝山町)へ



掛川より移築した灯ろう  
松尾町末廣神社  
(市史資料写真つづりより)

国土地理院数値地図50mメッシュII (静岡県～千葉県)

1868年(明治元年)11月、掛川藩主太田資美は、重臣、家臣ともども、柴山村(千葉県芝山町)へ移りました。柴山村は、現在の新東京国際空港(成田空港)の東南のところ。掛川藩は、寺を借りて仮陣屋とし、芝山藩5万3千石の領地支配に当たりました。

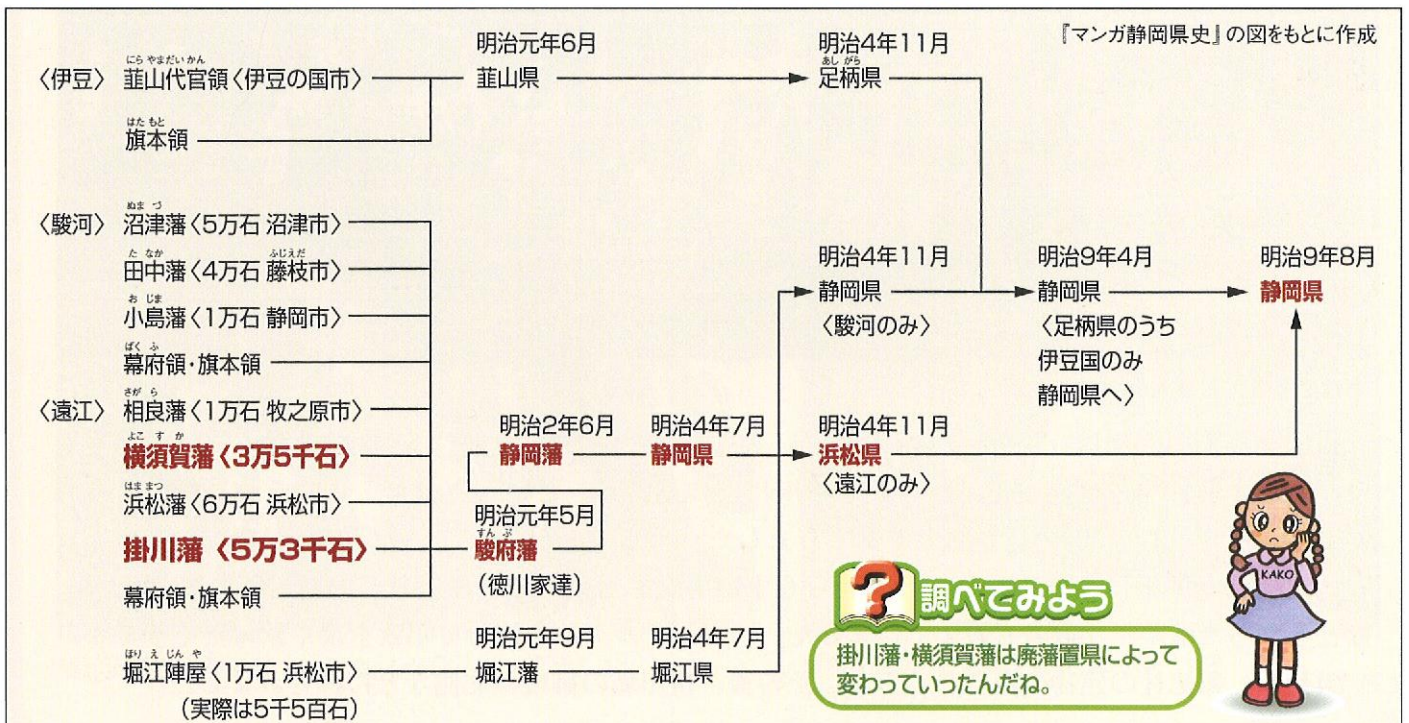
藩主、家臣のすべてが、掛川から柴山に移ったとすると、合計2,585人となり大変な数の人々が移

動したことになります。1869年(明治2年)6月までに掛川城の引き渡しを終えたとされています。焼津、清水から船を使ったり、東海道を徒歩で行ったようです。

その後、大堤村ほか3つの村の境(千葉県松尾町)に城をつくり、松尾藩となりました。

1871年(明治4年)の廃藩置県により、藩はなくなりました。

### ◆掛川藩・横須賀藩から静岡県への移り変わり(明治元年から9年まで)



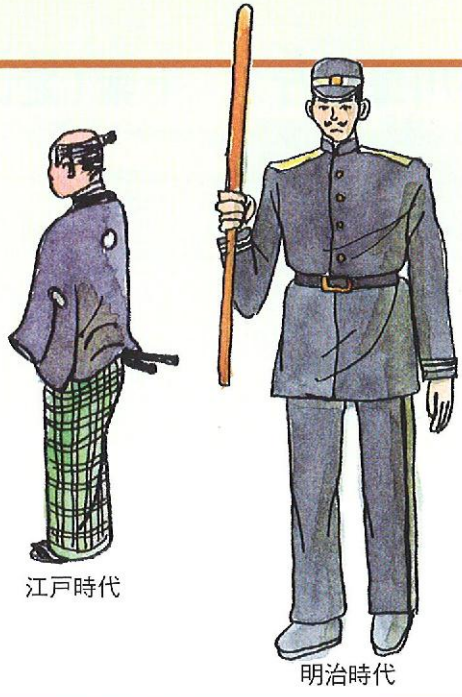


# 掛川の文明開化

## ◆警察署の開設

江戸時代、今の掛川市は、大名や将軍の家来である旗本などの領地に分かれていました。そして、犯罪を取りしめる警察の仕事は、それぞれの領地ごとに行われていました。

1875年（明治8年）、元の掛川宿に、県の警察出張所がつけられました。明治10年、掛川警察署と改称し横須賀にも分署が設置されました。明治12年までに日坂に交番が、明治20年には本郷村、原川村、和田村、倉真村に派出所が、翌年に下垂木村、上西郷村、原里村、大池村、上内田村、伊達方村、成滝村に駐在所がつけられました。



江戸時代

明治時代

## ◆1890年（明治23年）にできた幼稚園



お遊戯風景（『掛川幼稚園百年史』より）

掛川幼稚園の開園は、1890年（明治23年）3月1日といわれています。掛川尋常小学校の卒業生で組織した龍城学校同窓会で「幼稚園を掛川にもつくろう」という声がおこり、それに賛成する者がさっそく寄付し、500円近いお金が集まりました。そこで、相談して、小学校長が調査のため上京し、具体的な準備に入りました。3才から6才の男女を対象とし、お遊戯、唱歌、折り紙、豆細工などをやったほか、片仮名も教えていました。ベビーオルガンを使って唱歌をよく歌ったそうです。

当初は、報徳社の建物の中につくられ、その後、掛川城の御殿の北側などに移されました。



## ◆1872年(明治5年)につくられた郵便局

- 明治5年1月1日、横須賀で郵便事務が開始されました。
- 明治5年6月、掛川宿に郵便取扱役所として開設
- 明治5年10月、日坂宿に開設
- 明治8年、郵便局と改称。この年から内国為替事務を開始します。
- 明治12年、貯金事務を開始
- 明治18年、電信事務を開始
- 明治24年、外国為替を開始
- 明治41年、電話通話を開始



復元された大正時代の黒いポスト  
(大手門の近くにあり、今も使われています。)

## ◆県下で最初の盲学校

1898年(明治31年)に掛川の飯塚仙太郎らが、日の不自由な人の教育のための学校「東海訓盲院」をつくりました。県下で初めての盲学校施設です。

このように掛川の  
文明開化が進んで  
いったんだね。



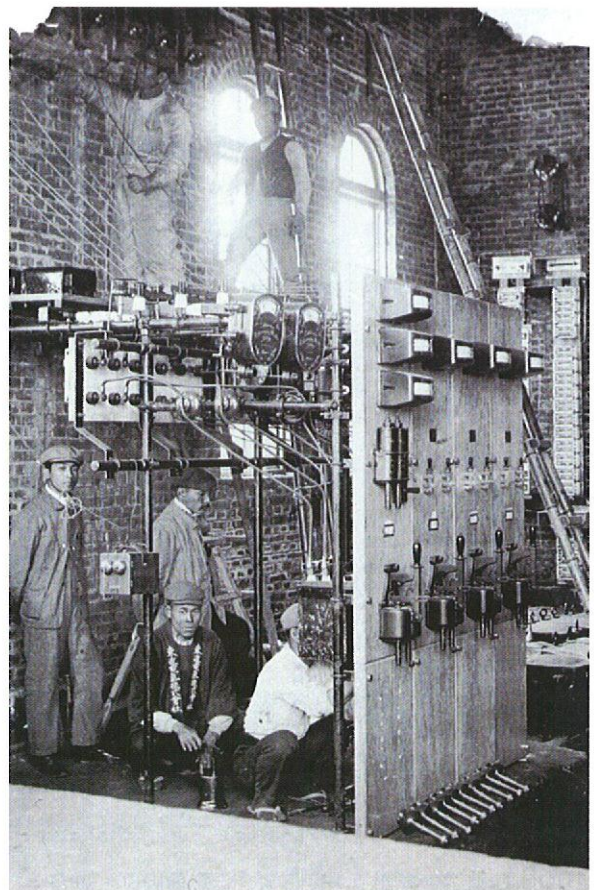
## ◆電灯の開始

1911年(明治44年)7月、松阪水力電気遠江支社が新町につくられました。イギリス製のガス機関と発電機により、初めて電灯がつけました。点灯は、日没から日の出までとされ、定額料金を払う人には電灯会社が電球や器具などをすべて用意する方式でした。

続々と申し込みの希望があり、日の回るほどの忙しさだったそうです。



大正時代の電工さん(大正10年ころ)



新町から掛川の電化が始まりました。  
(現在のかねものところ)



## ◆二宮金次郎と報徳運動

にのみや きんじろう ほうとく

掛川駅の駅前広場や横須賀小学校にこのような銅像があるのを知っていますか。この少年は、いったい誰でしょう。



大日本報徳社

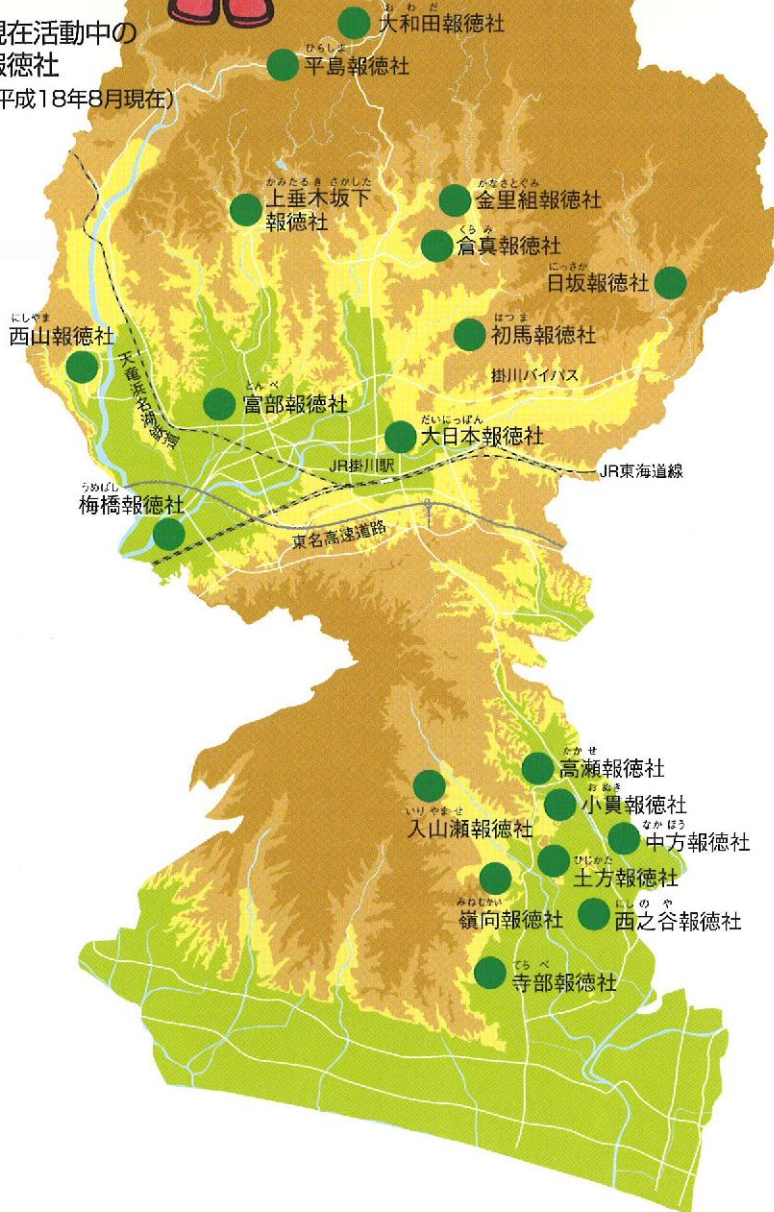


掛川駅北口にある二宮金次郎の像



わらじを差し出す二宮金次郎の像  
(横須賀小学校)

● 現在活動中の報徳社  
(平成18年8月現在)



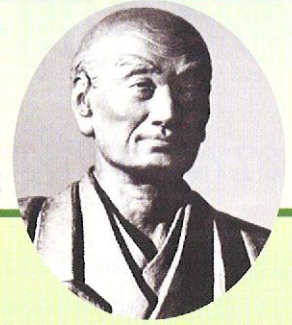
この少年の名前は、二宮金次郎といいます。金次郎は、江戸時代の終わりごろに相模国(神奈川県)に生まれ、貧しくても勉強と勤労に励みました。

金次郎は、報徳の教えを村々に広め、生活に苦しんでいた農民たちを救いました。金次郎は二宮尊徳と呼ばれ、その精神と教えは全国に広まっていきました。



## ◆報徳の教えは、三つの柱

二宮尊徳



### 勤 労



金次郎は父親を亡くし、母親を助けて2人の弟を育てねばなりません。朝早くから田んぼで働き、夜は縄をない、わらじを売りました。学問をするため、まきを背負って読書をしました。太陽の恵みのおかげで生かされているのだから、それに報いるために精一杯働くことが大事だと考えました。

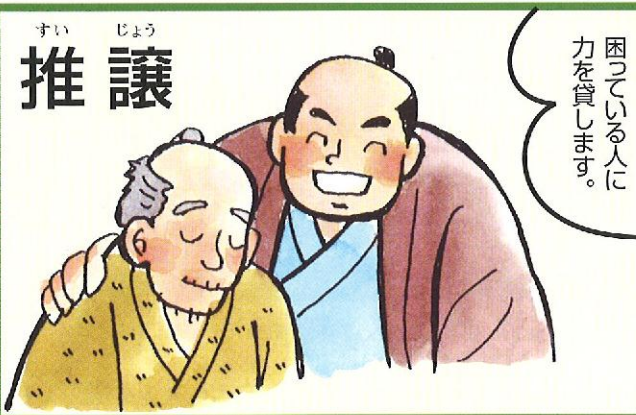
収入が3分の1に減ったにもかかわらず、今までどおりの生活を続けた服部家（小田原藩）は、多大な借金を抱えることになりました。困った末に金次郎に相談した服部家は、今までの生活を改め、収入に合った計画的な使い方や仕事をすれば、決して困ることはないと言われ、金次郎から教えられました。

### 分 度



自分の適量を知り生活すれば安心。

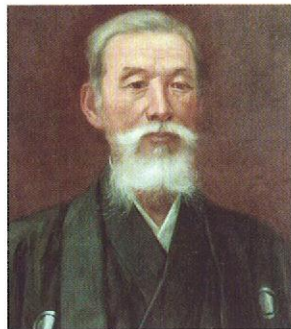
### 推 譲



日光に二宮尊徳を訪ねた倉真村の庄屋、岡田佐平治は、生活に困っている人や開墾の資金にしてもらうために、50俵の米を60年間掛川藩に納めることにし、これとは別に100両を藩に献金することにしました。佐平治は、自分の持っているものを他人に提供することの大切さを、尊徳から教えられました。



岡田佐平治



岡田良一郎

掛川と報徳運動のつながりは、1848年に倉真村の庄屋岡田佐平治が生活に困った農民を救うために地元で報徳社をつくったのが始まりです。やがて、佐平治は、長男の良一郎とともに、報徳の教えを周辺の村々に広めていきました。

報徳運動の中心となった大日本報徳社の本社が、掛川市にあります。

(写真提供 大日本報徳社)



# 学問を広めた冀北学舎

## ◆1877年（明治10年）倉真で始まった私塾

1877年（明治10年）7月、西南戦争のころ、倉真村に「冀北学舎」という私塾が開かれました。

地域の人材を育てるために、岡田良一郎が、自宅の裏の建物2棟を校舎と寄宿舎にして、12才から17才までの男子生徒を集めて開きました。

### ●全寮制

毎朝5時ごろからランプをともして勉強や読書をした後、庭のそうじやぞうきんがけなどを行いました。

### ●日曜日には農作業

学科だけでなく、実際の体験を重視したので、畑などに出て作業をしました。



栄子夫人



岡田良一郎

### ●教科書は英語の原書

このころすでに、英語の必要性を感じ、外国から取り寄せた英語の本を使っていました。

### ●報徳の教を柱に

勤労、分度、推譲の教を学舎の基本理念としました。

## ◆全寮制の学生生活

生徒の数は、初めは20人から30人でした。多い時には50人から60人になり、そのほとんどが寄宿していました。一年を通して朝5時ごろに起き、ランプの光で読書などをしました。明るくなると、舎内のふきそうじ、母屋、便所、門の外の道路そうじなどをしました。裕福な家の子どものなかには、そうじをいやがる子もいましたが、しだいに進んでやるようになりました。

作業が終わると全員で母屋に行き、朝食をとりました。



現在は大日本報徳社内にある冀北学舎の建物



当時の岡田家本邸（御殿場市へ移築）

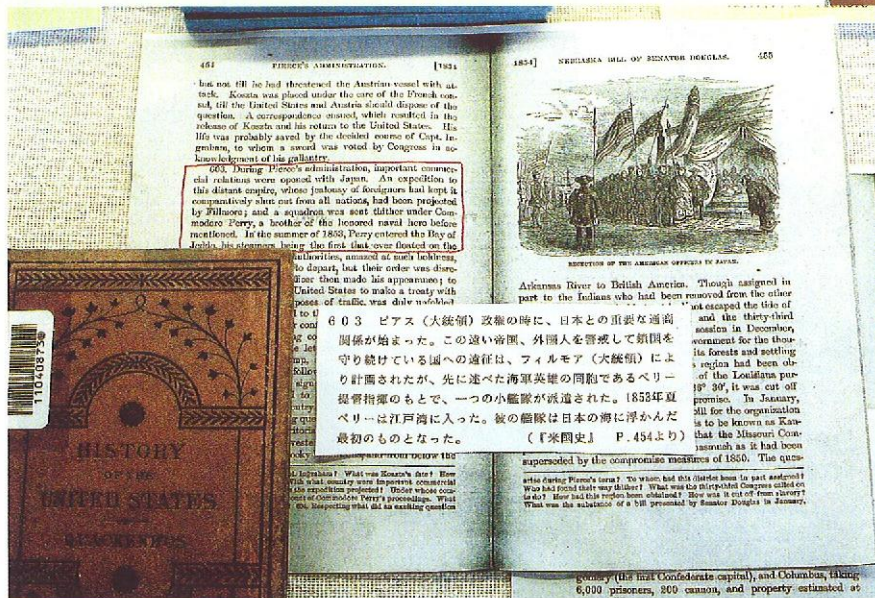
朝食がすむと、一同着席し、そのうちの5人から8人が一組となって先生の前に出て、教えを受けました。他の者は、自分の席で予習や作文、報徳に関する本を写したりしました。

生徒は、金銭を所持することを許されていませんでした。金はすべて栄子夫人が預かり、必要な時に渡すようにしていました。



# ◆英語教育に力を入れた教育内容

冀北学舎の方針は、「<sup>ほうしん</sup>質実・<sup>しつじつ</sup>剛健・<sup>ごうけん</sup>勤儉・<sup>しんけん</sup>精進」でした。特に英語教育に力を入れていました。



使われていた教科書：カッケンボス『米国史』



使われていた教科書：『大学』、『中庸』

使われていた教科書は大日本報徳社の所蔵で中央図書館にあずけられています。

使用された教科書	
漢字学	しき だいがく ちゅうよう ろんご しきょう 史記、大学、中庸、論語、詩経など
英字学	スペリング、ウィルソンリーダー、パーレイ万国史、カッケンボス米国史、グードリッチ仏国史、ウェイランド大経済書など
数学	きか だいすう 三角術、幾何学、代数学など
報徳学	せい だん あん じん でん だう へん ふ ぐく 報徳記、報徳論、報徳齐家談、報徳安民論、報徳伝道篇、報徳富国論、 む せき けん かつ 無息軒翁一代記など

# ◆卒業生の活躍

この塾は、<sup>ちやうへい</sup>徴兵令や公立の中学校が新設されるなどの影響を受け、<sup>えいさう</sup>わずか7年で閉鎖されました。この7年間に、152名の卒業生を送り出しました。文部大臣岡田良平、宮内大臣一木喜徳郎、東京帝国大学経済学部長山崎寛次郎など、多くの優秀な人材が巣立っています。



京都帝国大学総長、文部大臣などを歴任 岡田良平



宮内大臣、枢密院議長などを歴任 一木喜徳郎



孫文と辛亥革命に加わった 松本君平



東京帝国大学経済学部長 山崎寛次郎

全国的に活躍した人が いっぱいいるんだね。





# 学校教育の始まり (明治の小学校)



松本亀次郎の下等小学第八級卒業証書

## ◆掛川市の小学校の始まり

明治時代になると、政府は「学問は世の中で生きていくもとなるものだ。どこの村にもどこの家にも、学問をしないなどという人がいてはいけない。」として、全国の町や村に学校をつくるように命令を出しました。

1872年（明治5年）に発布された「学制」と「学事奨励に関する被仰出書」がそれです。そこで、掛川でも小学校が開校されることになり、翌年の1873年（明治6年）に、8つの小学校が開校されました。その後、各地に分校や分教室がつけられました。これが、掛川市の小学校の始まりです。いったい、どこで開校されたのでしょうか。

開校した8校は地図でもわかるとおり、掛川、岡津、上垂木、倉真、日坂、下土方、西大坂、横須賀です。

最初は、掛川でも江戸時代の寺子屋をそのまま継続し、そこで授業が行われていました。学校ができたといっても、今のような建物ではなく寺などを借りて授業をしていました。もちろん、学校に通うことができた子も、以前と変わりなく、ほんのわずかでした。



読書の教科書(明治5年)



立志学校<大雲院>上垂木



岡津学校<仲道寺>



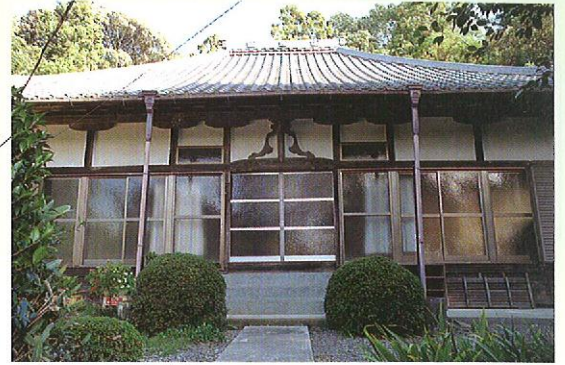
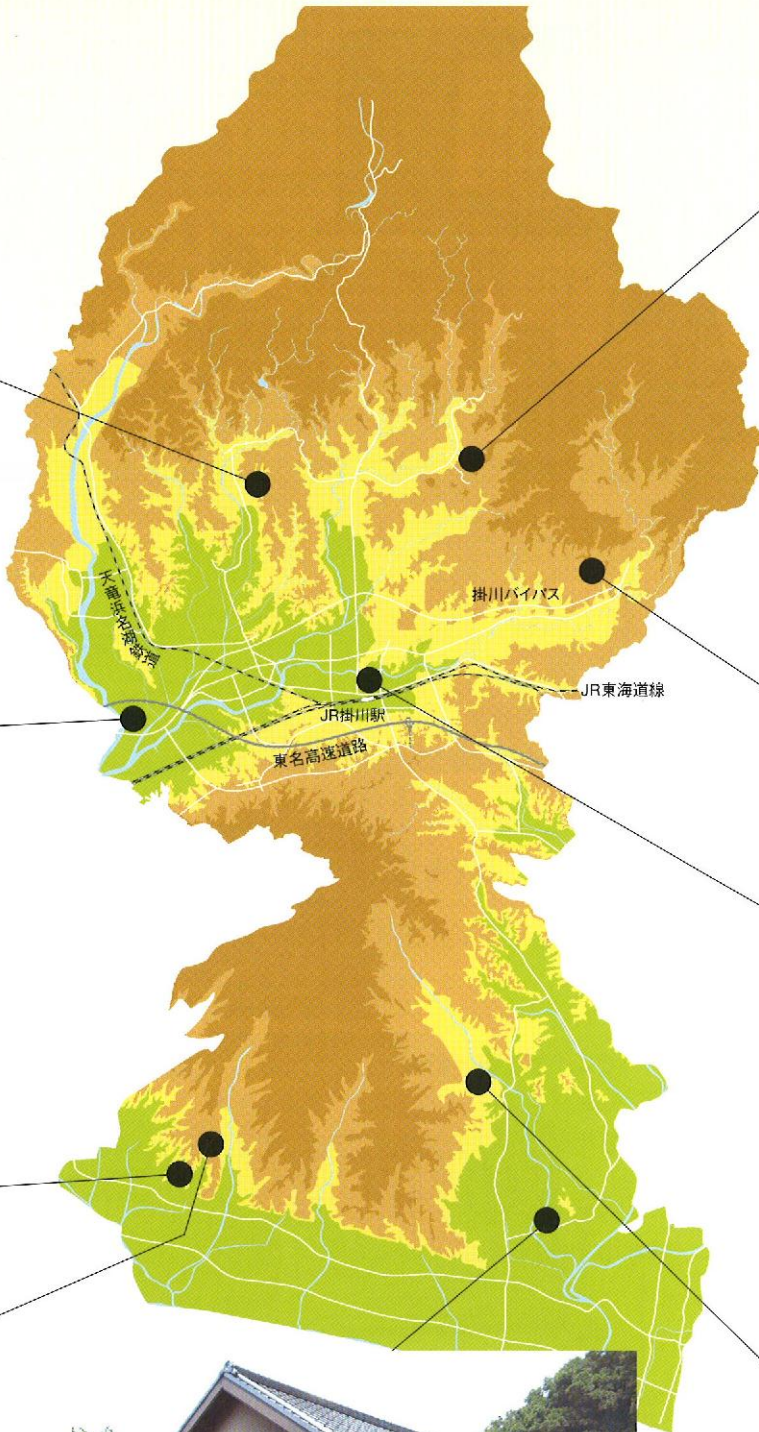
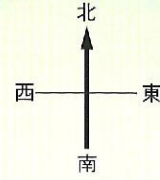
松尾学校(男子)<窓泉寺>横須賀



松尾学校(女子)<普門寺>横須賀



# ◆明治6年に開校した小学校



倉真学校<西光寺>



日坂学校<旧伝馬所>



掛川学校(掛川城内、写真は明治6年ごろ)  
掛川城御殿です。



大坂学校<霊眼寺・観音堂>



嶺学校<長寿庵>下土方



◆小学校の学習

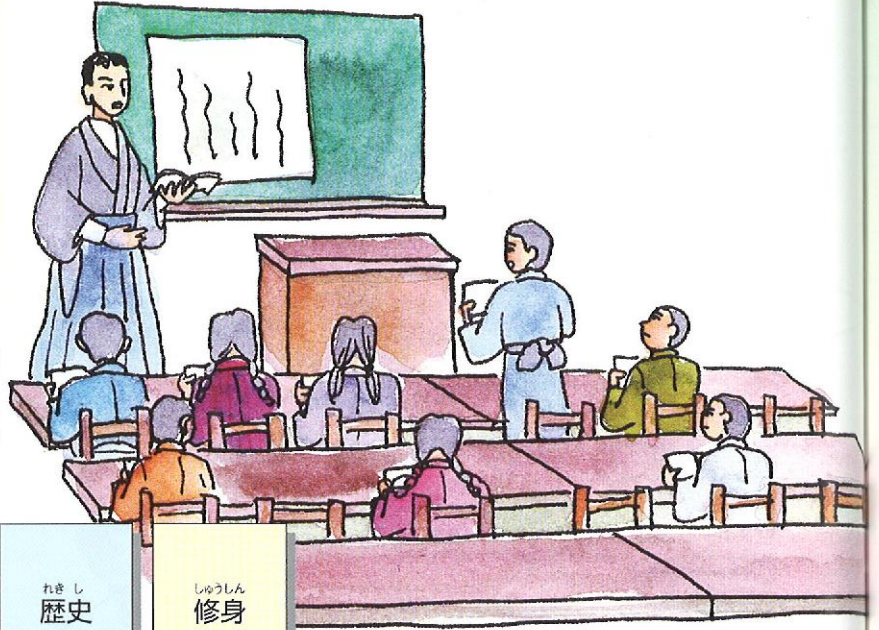
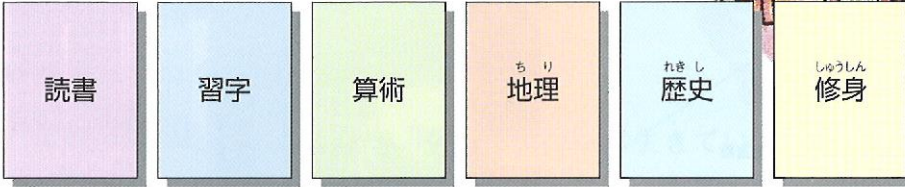
1873年(明治6年)には



が主な教科でした。

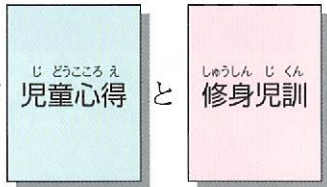
1879年(明治12年)に出された「教育令」による

初等科は

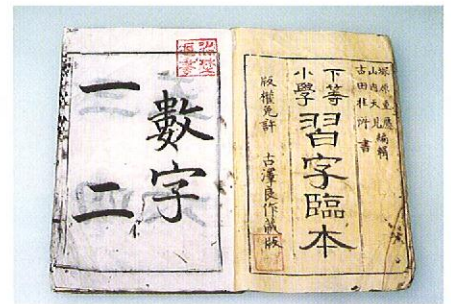


当時の授業の様子(想像図)

修身の教科書として **児童心得** と **修身児訓** の2冊があり、



教育内容が急に豊富になっています。



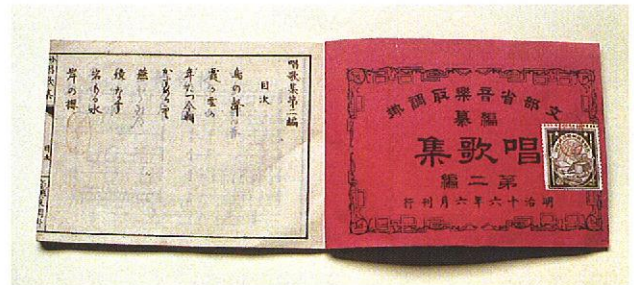
習字の教科書(明治13年)

1886年(明治19年)になると

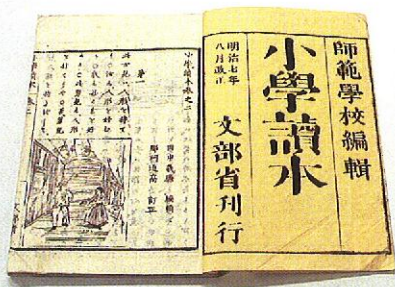
静岡県下の小学校において



が加えられました。



唱歌の教科書(明治16年)



読書の教科書(明治7年)



世界史の教科書(明治7年)

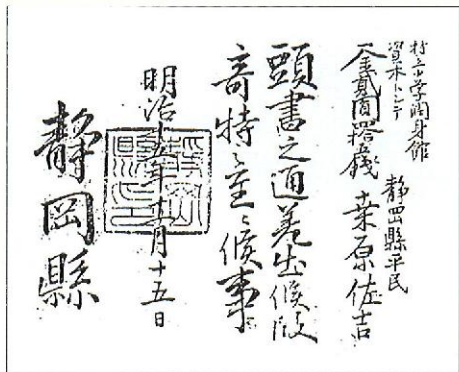


修身の教科書(明治34年)

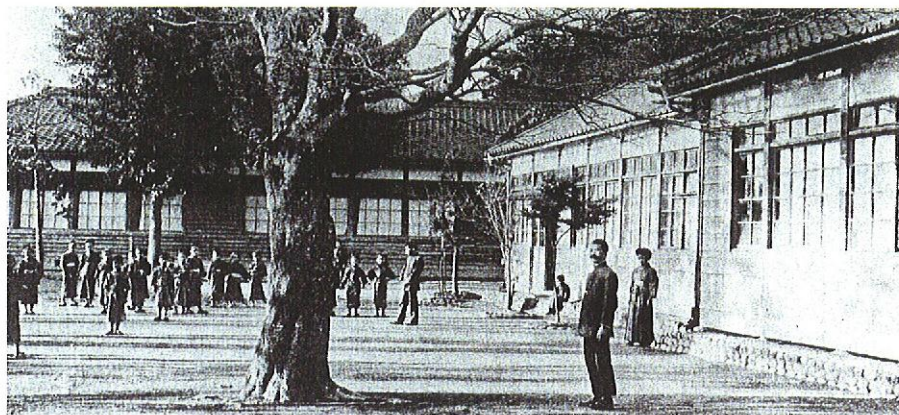


### ◆村人の負担や寄付でまかなわれた学校の費用

教える場所として、初めは寺院などを借りていましたが、やがて校舎を建てるようになります。それらの建築費や教師の給料などの学校の経費は、主に生徒の授業料、寄付金、戸別の割り当てでまかなわれていました。特に村人の寄付金に負うところが大きく、寄付を出した家には、県から感謝状が贈られました。寺子屋にかわって学校がつくられるようになると、それぞれの村が個性豊かな近代的な学校をと考え、校舎を建てました。そのため建築費用は高くなり、村人の寄付金や積立金による建築も行われました。



寄付金への感謝状、村立潤身館小学校(曾我小)  
(桑原惇家所蔵)



(写真提供 松村剛氏)

#### 上内田小学校

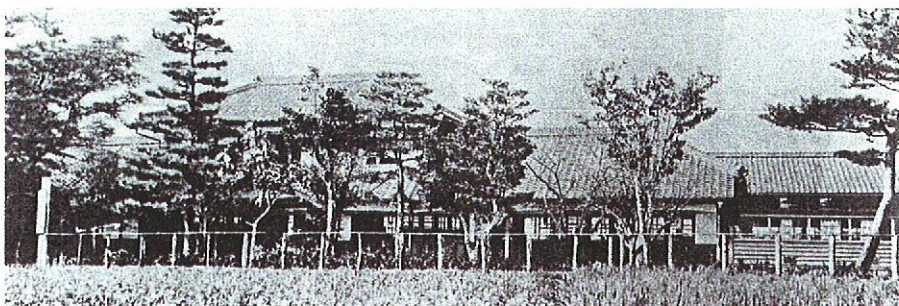
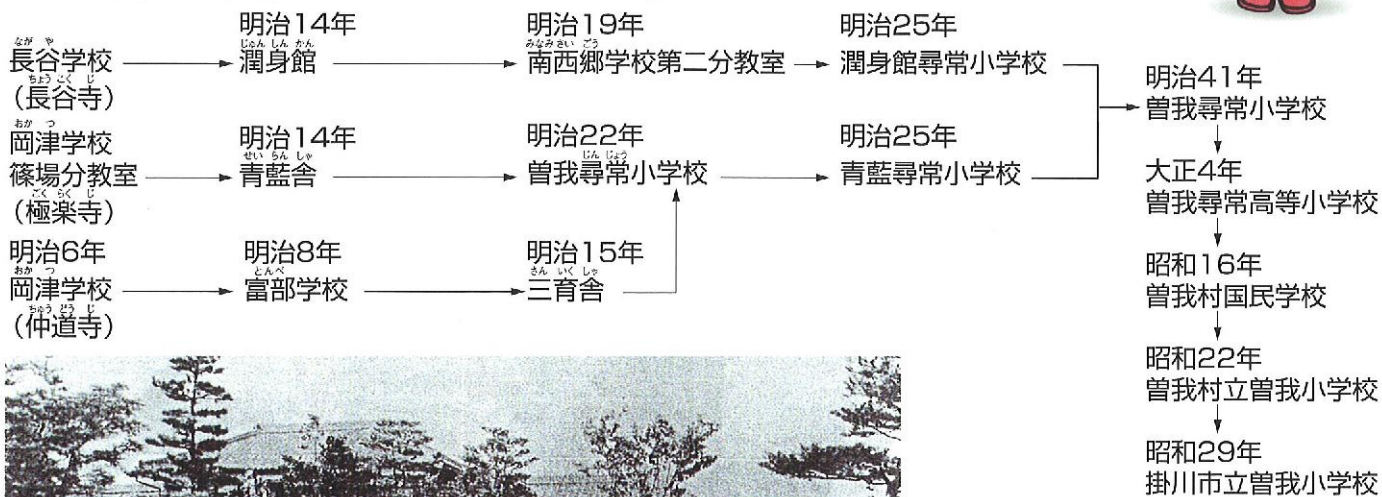
明治8年段学校と板沢学校が合併して、共和学校となりました。新築費は424円ですべて学区の5か村の村人寄付でまかないました。間口8間×奥行4間(14.4m×7.2m、103m<sup>2</sup>)の瓦ぶきでした。建物が洋風化しているのも新しい試みです。

(大正4年撮影の共和尋常高等小学校)

### ◆曾我小学校の移り変わり

各小学校の開校・合併・名称変更などがひんぱんに行われました。

#### 曾我小学校の歴史(『掛川市史』『曾我村郷土誌』より)



(写真提供 松村剛氏)



あなたの学校は、どのような移り変わりをしたのかな？



曾我尋常高等小学校  
明治25年創立の青藍尋常小学校と潤身館尋常小学校が明治41年に合併し、曾我尋常小学校(現在の曾我小学校)になりました。  
(大正4年撮影)



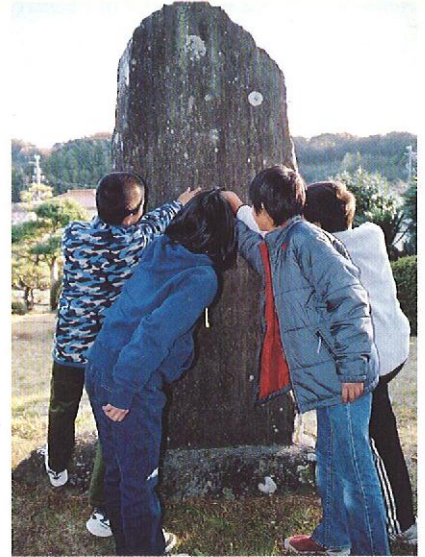
## ◆ 忠魂碑からわかる日清・日露戦争



日露戦役忠死者之碑（上内田小）

上内田小学校の運動場の南側に、このような碑を見つけました。表には、「日露戦役忠死者之碑」と書かれています。これは、忠魂碑といって、日露戦争で戦死した人たちのことを後世に伝えるために建てられたものです。裏には、なくなられた方の名前、日付け、場所が書かれています。上内田地区では、日清戦争で死亡した人はいませんでしたが、日露戦争では3人が犠牲になったことがわかりました。

このように戦地に送られた人びとをしのぶ石碑が各地に残されています。



何が書かれているか調べてみましょう。



あなたの地区の忠魂碑を探して調べてみましょう。



### 3つの碑から

左の写真はこのように刻まれています。



日清・日露戦の碑（千浜小）

左の碑

日清戦役凱旋記念

中央の碑

日露戦役忠死者之碑

右の碑

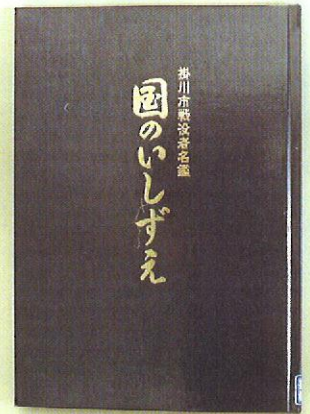
日露戦役凱旋記念





日露戦争の戦勝を祝して、帰還兵を迎えた凱旋門  
(掛川駅 明治38年)

掛川市遺族会から『掛川市戦没者名鑑、国のいしずえ』という本が、平成11年に発刊されています。この本には、日清戦争から太平洋戦争までの戦死者の名前、年齢、死亡した日や場所などがのっています。



富士見台霊園 平和観世音

富士見台霊園の入り口付近の小高いところに「平和観世音」と名付けられた観音像が立っています。この像は、遠州地方から日露戦争に行き、戦死した1,059人のめい福を祈るために1907年（明治40年）に建てられたものです。当時は「戦勝観世音」と呼ばれていましたが、太平洋戦争後に「平和観世音」に名前が変わりました。（以前は、現在の掛川城天守閣のあたりにありました。）

このころの世界の動きはどうだったのかな？



庶民の生活を想像してみましょう。

梅雨の日も 耕す父母の 蓑と笠

素月

この俳句は、上内田出身の松本一太郎さんが詠んだものです。この句に寄せて一太郎さんは次のような話をしています。

「私の父は日清戦争に従軍して27円のお金を国からいただいた。三男坊の父はそのお金で古い家を一軒買い、農民として独立した。農業立国をとえられた明治・大正の時代。でも、宅地はもとより田も畑もみな借地の水飲み百姓では、年貢を地主に納めて、暮れのまかないをすませると、あと3ヶ月分くらいしか食う米が残らない。

一粒でもよけいとれるように耕し、一粒でも無駄にならないように取り入れていながら、お米は食えない。さつまいもや大根をまぜた麦飯で1年をつなぐのである。

米を作る農民が米を食えない時代がつい戦前まであったことを知る人はもう少ない……。」

「私の俳句」より





# 31 明治・大正の産業と交通の発達

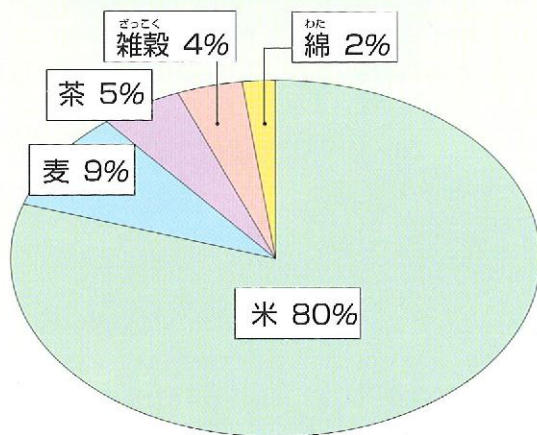
## ◆ 茶業の発達

明治のころの掛川の産業は、農業が第一でした。土地が肥えていて、米がよく取れる地域でした。1887年（明治20年）ごろから、茶の生産が盛んになり、しだいに茶畑が増えていきました。やがて、茶は掛川さかの主な農産物になります。



明治のころから茶業がどのように発展してきたのかな。

明治のころの農産物

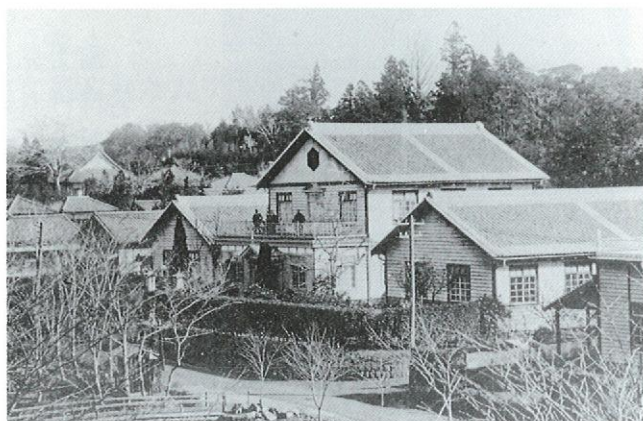


### 掛川の製茶業発展の歴史

- ・ 1879年（明治12年）  
第一回製茶共進会が横浜で開かれる。
- ・ 1883年（明治16年）  
上内田の小林源四郎が  
上内田製茶共同販売「益集社」をつくる。
- ・ 1884年（明治17年）  
掛川茶業組合がつくられる。
- ・ 1893年（明治26年）  
シカゴの世界博覧会で緑茶が高く評価される。
- ・ 1901年（明治34年）  
産業組合法により、郡内最初の上内田製茶販売組合が開設される。
- ・ 1905年（明治38年）  
静岡茶業研究会（県茶業試験場の前身）が結成される。
- ・ 1906年（明治39年）  
清水港から茶の輸出が始まる。
- ・ 1910年（明治43年）  
清水港の茶輸出货量が全国一になる。
- ・ 1919年（大正8年）  
国立茶業試験場が牧之原につくられる。



（『小笠茶業史』『茶道楽17号』から）



小笠郡物産陳列館（大正11年ごろ）（写真提供 松村剛氏）

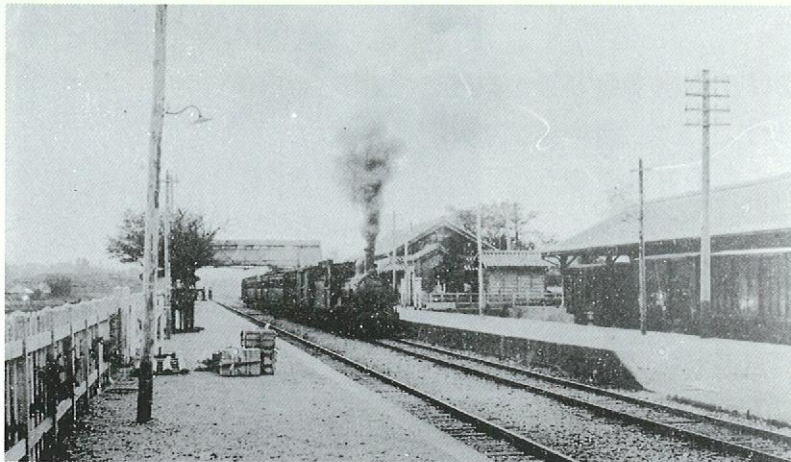
1902年（明治35年）、小笠郡物産陳列館が、城内（現在の中央図書館の場所）に建てられました。農産物などの陳列のほか、生産指導をしました。



製茶品評会へ出品する風景（昭和の初めごろ）（写真提供 松村剛氏）

掛川での茶の本格的な栽培と製造は、1870年（明治3年）に杉本権蔵が、大きな広い茶園をつくったのが始まりといわれています。





開業当時の掛川駅

(写真提供 松村剛氏)

## ◆ 東海道本線の開通

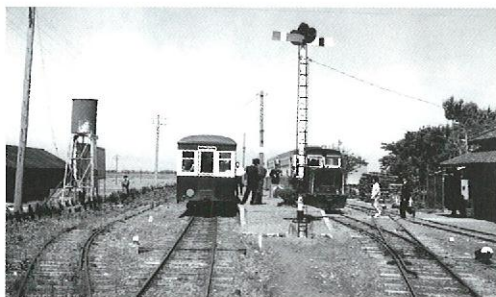
1889年（明治22年）7月1日の東海道鉄道（東海道本線）の新橋・神戸間の開通に先立ち、4月16日浜松・静岡間が開通し、掛川駅が誕生しました。

計画当時、見たこともない蒸気機関車がまちなかを走ることに反対した住民がいたために、線路と駅はまちなみから離れた田んぼの中につくられました。

## ◆ 軽便鉄道

大正時代に入ると、袋井から大須賀・大東を通過して藤枝までを結ぶ『軽便鉄道』が走るようになり、自動車が多くなるまでは、人々の重要な移動手段として利用されていました。

昭和42年には、この軽便鉄道はなくなってしまいましたが、今でも、当時の路線や駅のあとのおもかげを残すものがいくつかあります。



昭和39年 新横須賀駅

(写真提供 花上嘉成氏)



## 葛布

葛布は、江戸時代から掛川の特産品で、武士の袴や袴などに使われていました。明治維新後、あまり売れなくなり生産が減りましたが、1897年（明治30年）ごろから壁紙などとして海外に輸出されるようになりました。



葛を紡いでいる風景（明治時代）

(写真提供 松村剛氏)



## ◆ 太平洋戦争へ突入

このころ、男子は20才になると身体検査を受け、合格すると軍隊に入りました。この制度を、徴兵制度ちようへいせいどといいます。

軍隊では、上官の命令は、たとえ間違っているとしても絶対に逆らうことはできませんでした。

国のために死ぬことが名誉だと、教えられていた時代でした。

## ◆ 兵士の武運を願って



にっしやうき せんじんばり  
日章旗と千人針



がいとら ぬ  
街頭でひとりひと針を縫う



しめっせいへいし  
出征兵士の見送り(三熊野神社にて)

## ◆ 戦争は二度とあってはならないこと

あまの ひできち

天野英吉さん (大正8年生まれ 平島)

入隊の日、当時の原田村の村長からお祝いの言葉をもらい、村の人たちが見送ってくれました。私は一人前になれたような気がしてうれしくなり、お国のためにがんばろうと思いました。昭和17年11月にパプア・ニューギニアに上陸しました。赤道近くで、とても暑いところでした。最初は訓練をしていましたが、1年たってアメリカ軍の攻撃が激しくなり、食料などを積んだ日本からの船もほとんど来なくなりました。飛行機の機関銃でねらわれ、必死で逃げたこともあります。私は日本が恋しくて、家族、友達に会いたくてたまりませんでした。40日間、ジャングルの中を移動し続けたこともありました。移動中、マラリアという伝染病で倒れてしまう兵隊もいました。病気で死にそうな人が水を欲しがり、自分が持っている水筒の水をあげようとしてしましたが上官に止められました。また、病気で動けなくなってしまった兵隊が自分を殺してくれと上官にたのんでいる姿も見ました。多くの仲間がマラリアで死んでいきました。遺体を焼くと、煙で敵に発見されてしまうので、土に埋めました。死亡した兵隊の小指の先を切断して、遺骨のかわりに日本に送りました。

まもなく終戦の知らせが入りました。しばらくは武器を船に積んで沖へ捨てたり、またオーストラリア軍などの命令で家を建てたりもしました。

日本に上陸して、松や、杉などを目にした時、生きて日本に帰れたと実感し、本当にうれしくなりました。最もうれしかった思い出です。

戦争は本当に悲惨なものであり、二度とあってはならないことだと思います。





### ◆空襲への備え

1942年（昭和17年）、アメリカ軍機による日本本土への空襲が始まって以来、いっばんの家庭でも空襲に備える対策がとられました。



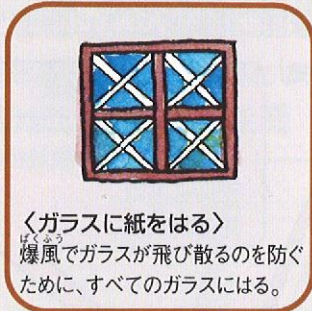
〈灯火管制のおおい〉  
室内の明かりを  
外へもらさないための  
電灯をおおうカバー



〈名札〉  
氏名、学校名、学年、住所  
が書いてある。  
〈防空頭巾〉  
頭を保護する。



〈ラジオ〉  
敵機の様子や避難勧告を聞く  
が雑音が多くてよくわからない。



〈ガラスに紙をはる〉  
爆風でガラスが飛び散るのを防ぐ  
ために、すべてのガラスにはる。

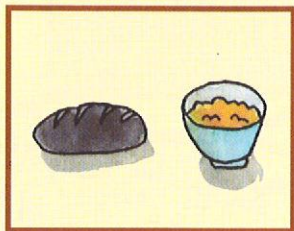
### 「青い目の人形」マーベル・ワレンちゃん (御前崎市立浜岡北小学校)

この人形は、1927年（昭和2年）に日米の親善を願ってアメリカから当時の朝比奈小学校に贈られたものです。戦争が激しくなると、「敵国のものだ。燃やしてしまえ。」という命令が出され、この小学校でも、校長先生が女性用務員に燃やすように指示しました。しかし彼女は、「とても燃やすことはできない。」と、息子と二人きりで人形をケースごと新聞紙などで包み、学校のやぎ小屋の干しわらの中に隠しました。こうして、この人形は戦争をくぐり抜けることができました。

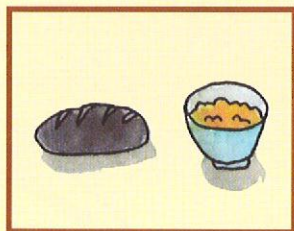
人々の平和への願い  
や戦争の悲惨さを伝える  
ために、今も大切に  
保管されています。



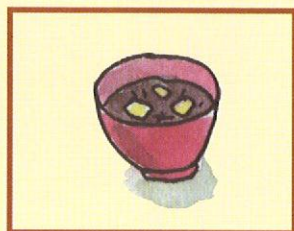
### ◆食事 (塩やしょうゆなどの調味料が配給制で十分手に入らないので、おかずは薄味でした。)



〈朝食〉  
さつまいものつるを粉にして  
蒸したパン、かぼちゃのスープ



〈昼食〉  
さつまいものつるを粉にして  
蒸したパン、かぼちゃのスープ



〈夕食〉  
すいとん  
米や魚は、めったに食べられない。



### ◆当時の子どもの様子

子どもは、少国民（年少の国民）と呼ばれ、勉強のほか  
に縄ない、茶の実拾い、金属集め、戦争に行っている人へ  
励ましの手紙を書いたりしました。

#### 縄ない

農作業などに使ったりする縄をつくりました。

#### 茶の実拾い

油をとるために茶の実を拾いました。

#### 金属集め

戦争に使う金属が不足していたので、落ちてくるくぎなども  
拾って出しました。

### ◆少年飛行兵をめざす訓練生

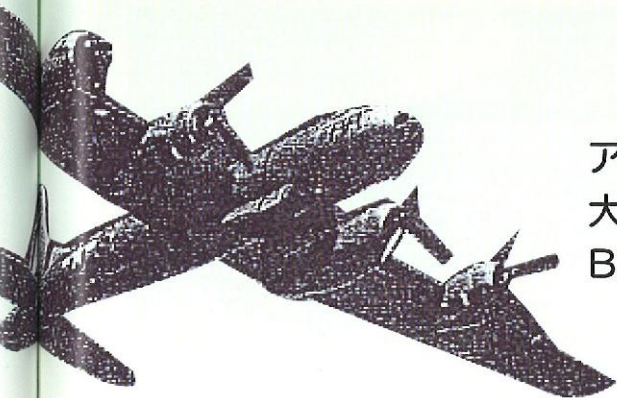


大日本飛行協会滑空訓練所（沖之須）にて



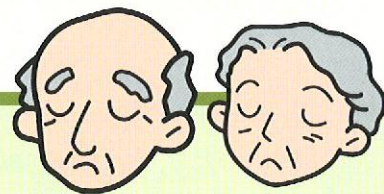
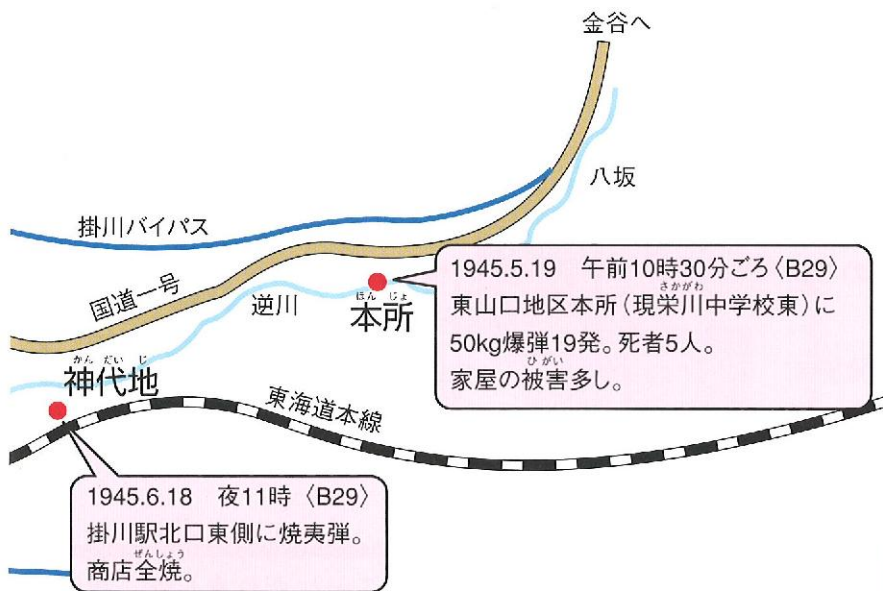






アメリカ軍  
大型爆げき機  
B29による空襲

- 爆弾 = 破壊・殺傷を目的とした爆弾
- 機銃掃射 = 機関銃で連続して広範囲に射撃すること
- 焼夷弾 = 建物などを焼くことを目的とした爆弾
- 艦載機 = 航空母艦に載せられた航空機



昭和20年5月19日、この日は朝から空はなまり色の厚い雲におおわれ、何も見えない日でした。午前10時半ごろでした。突然、本所地区中心に「ザーザー」という激しい音とともに、爆弾が19発も落とされました。田畑にいた人も、お茶をмонでいた人も、子どもの安否を気づかう人もみんな右往左往するばかりでした。5人の尊い命が失われ、悲しみと恐ろしさで身のふるえが止まりませんでした。私は爆弾の破片を受けた悲さんな姿を今も鮮明に目の奥によみがえらせることができます。

（『緋のものべ』泉 まつさんの記述より）

調べてみよう

戦争中の暮らしがおじいさんやおばあさんに語りつがれています。



爆撃による火事に備えて防空訓練をする人々  
（東山口村海老名 昭和20年）



# 敗戦と戦後の新しい社会

## ◆敗戦間近に起きた<sup>とうなんかいじしん</sup>東南海地震

アメリカやイギリスなどの連合国との戦争は、はじめは日本が優勢でしたが、1942年（昭和17年）のミッドウェー海戦から負け始めました。戦争の被害が拡大していた1944年（昭和19年）12月、この地域一帯に大地震がありました。掛川も大きな被害を受けましたが、戦争中のためほとんど報道されることはありませんでした。



東南海地震で倒壊した家屋（西町 昭和19年）

1945年（昭和20年）の広島・長崎への原子爆弾の投下により、ポツダム宣言を受け入れ、日本は無条件降伏をしました。

## ◆掛川の<sup>かいかく</sup>農地改革

人地主から農民へ農地を解放しようという政策が、掛川では1947年（昭和22年）から行われました。これにより、掛川でも、田畑を借りて耕作する小作農の農地の割合が減り、自作農が増えました。

自作農になった農民は、自分の土地から得た収穫がすべて自分の収入に結びつくようになったので、意欲が高まりました。

農地改革は、農産物の増産や農業技術が発展する基礎になりました。

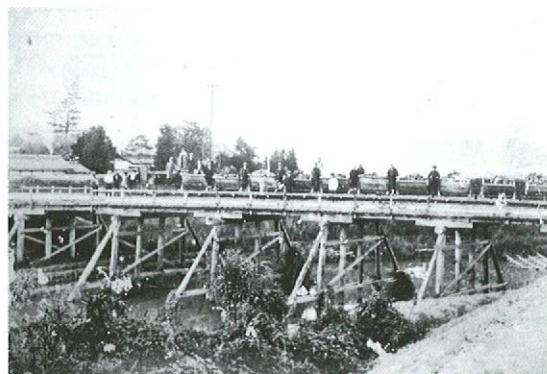


農地改革のパフレット

## ◆国道一号の完成

1950年（昭和25年）8月、アメリカ軍の援助により国道一号の工事が行われることになりました。掛川駅前を通る案もありましたが、現在の道に決まりました。昭和25年8月に着工し、26年の6月に完成できたのは、延べ62,000人の労働力とともに、ダンプトラック、パワーシャベル、ブルドーザーという機械力が導入されたことによります。

国道一号は、このころまだ砂利道でした。



国道一号大池橋の工事風景

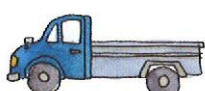
昭和27年掛川町内の自動車保有台数



乗用車 8台



バス 7台



トラック 47台

小型四輪 17台

オート三輪 97台



## ◆新しい教育

1945年（昭和20年）の敗戦により、教育も大きく変わっていきます。

連合国総司令部（GHQ）の最初の指導では、

- 1 行事などにおける神道の禁止
- 2 修身・国史・地理の授業の停止
- 3 教練・武道の禁止



などがありました。

墨塗り教科書

子どもたちは、先生の指示に従って、教科書に墨をぬったり修正しながらこれまでとはちがう授業を受けました。

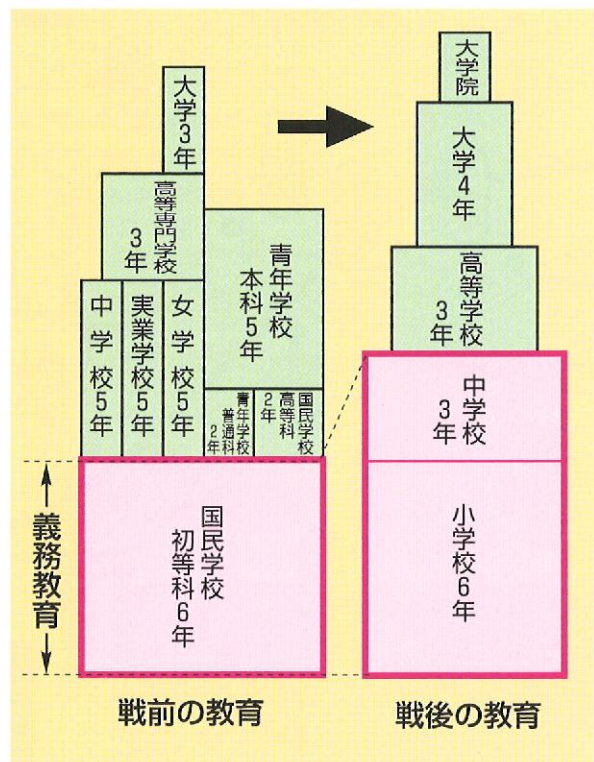
1947年（昭和22年）に、小学校・中学校を義務教育とする「学校教育法」ができました。義務教育が9年になり、小学校を卒業したあと、中学校に進み、男女共学となりました。ローマ字教育が始められ、当用漢字や現代かなづかいが採用されました。この時の体制が、現在の学校教育の姿を形づくっています。地理、歴史の授業も再開されました。

1948年（昭和23年）には教育委員会ができ、新しい教育制度による高等学校がこの年に始まりました。

中学へ無試験で進学でき、  
男女共学になったのは  
昭和22年からです。

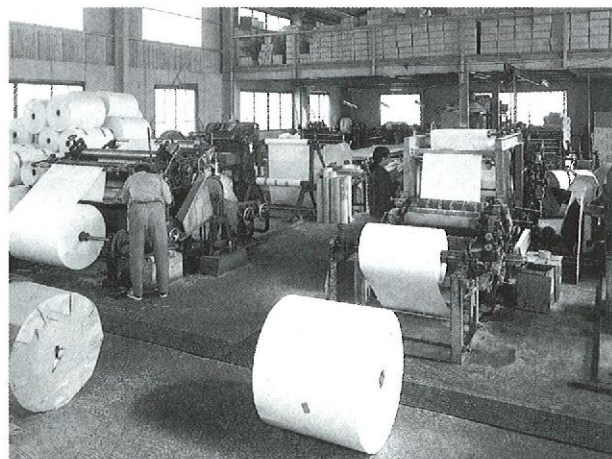


学校給食が始まりました。（第一小 昭和31年）



## ◆掛川の産業復興と朝鮮戦争

1950年（昭和25年）朝鮮半島で、大韓民国と北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）の戦争が起こりました。敗戦によっておとろえていた日本の産業は、この戦争を境に発展し始めます。静岡県西部地区では、綿紡績や織物業に加えて楽器やオートバイなどの機械・自動車産業が発展し、今までにない好景気の時代になっていきました。市内でも、楽器、オートバイ関連の工場などが作られ機械化がすすみました。



大須賀地区紙経木の工場（写真提供 遠興）

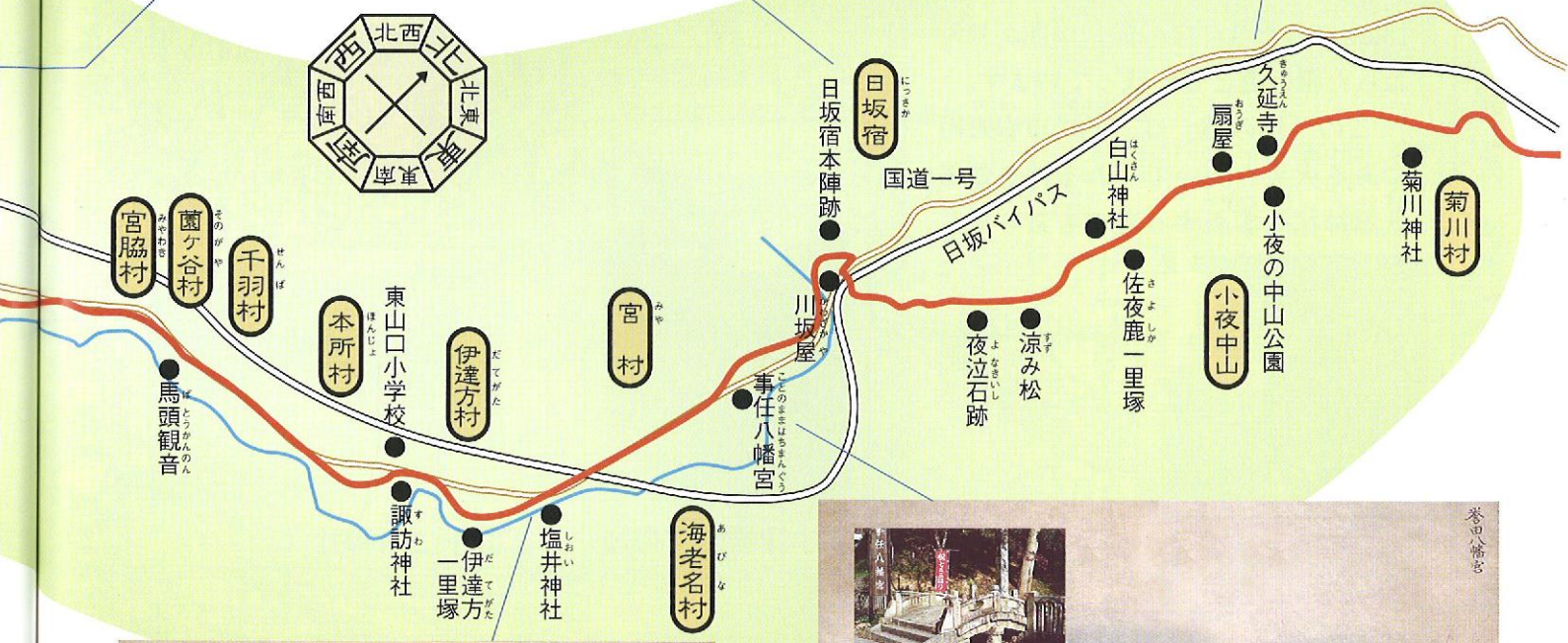








久延寺  
久延寺とその西に並ぶ飴屋などが描かれています。  
青く塗られた部分は、かすかに見える山と海です。  
(国立国会図書館所蔵)



現在の石の橋

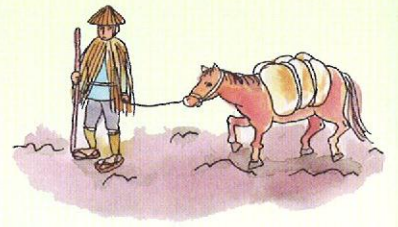
事任八幡宮前  
事任八幡宮の入り口にかかる石の橋と鳥居などが描かれています。  
(国立国会図書館所蔵)



塩井神社前  
東海道を江戸方面に向かう行列と逆川の南にある塩井神社が描かれています。(国立国会図書館所蔵)



# 「塩の道」を歩いてみよう



**Q1** どうして「塩の道」ができたのですか。

**A1** 人間は、塩がないと生きていきません。日本では、塩を海水からつくってきました。

この海水からつくられた塩を、海から遠く離れて暮らしている人に運んだ道が「塩の道」です。この道は、人、物、文化の交流などに重要な役目を果たしました。

**Q2** 市内の「塩の道」は、どこを歩いていたのですか。

**A2** 上内田から幡鎌まで南北およそ18kmにわたり「塩の道」が曲がりくねった細い道として残っています。

この「塩の道」は、浜松市春野町にある火災を防いでくれる神を祭る秋葉神社へ参詣する道でもありました。

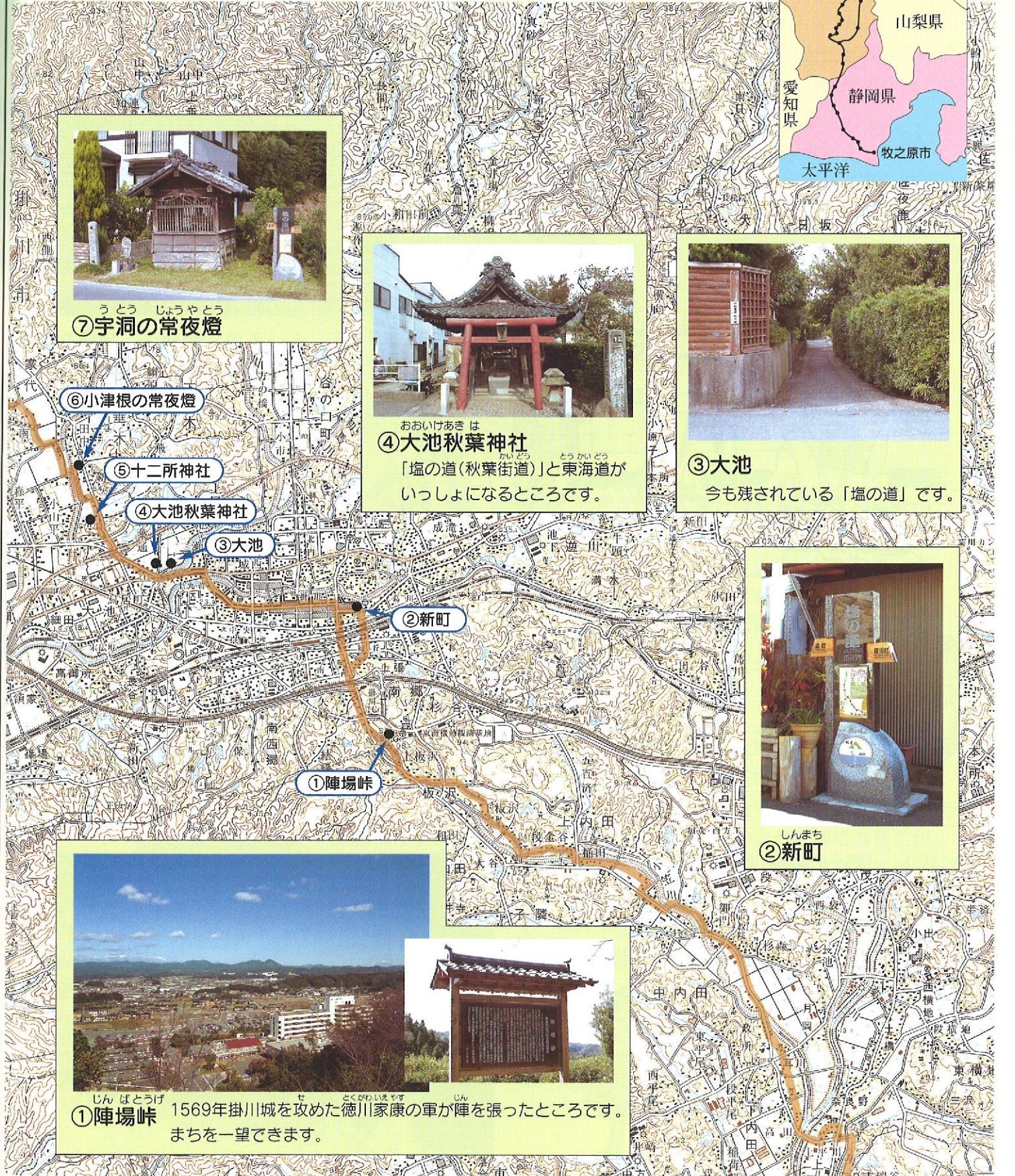
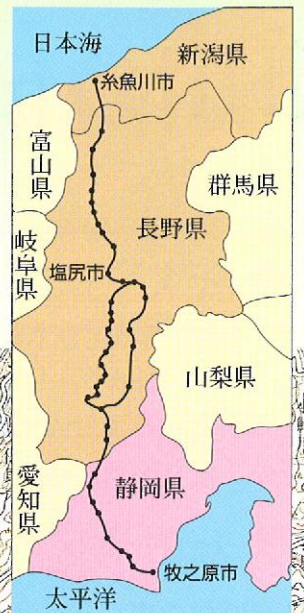


国土地理院発行1：50,000地形図（掛川・磐田）



# 塩の道

塩が運ばれた道は各地にたくさんありますが、その中で最も古くて長い「塩の道」が、日本海沿岸の糸魚川から長野の塩尻に達する「北塩ルート」と、静岡県牧之原市から掛川を通過して塩尻にいたる「南塩ルート」です。合わせて約350kmの道です。



「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図及び数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平18総復、第999号)」



# 掛川の伝承と伝説 1

大和田地区 ●



## ◆伝承や伝説を調べてみよう。

自分たちの住んでいる地域には、昔から伝わってきた話があると思います。その話は、本当のことなのかどうかわかりませんが、おもしろい話だったり恐ろしい話だったりさまざまです。昔から伝えられてきた話のことを伝承、伝説といいます。どのような話があるか調べてみましょう。

## ◆大和田地区の伝承

江戸時代の中ごろ、今の原泉の大和田地区に勘太郎というとんちが得意な人がいました。掛川城主とこの



勘太郎とのとんち話がたくさんあります。左の絵は、その話の中のひとつです。

大和田には、猪がたくさんいるので殿様は、猪狩りに行こうとしました。「その猪は、どんな暴れ方をするのか。」と勘太郎に尋ねたところ「こんな具合です。」と言って、お城のふすまをつき破って猪の真似をしたということです。しかし、こんな勘太郎のことを殿様は、大変気に入っていて、仲がよかったということです。今でも、勘太郎の屋敷跡が大和田地区には残っています。

(故 山下芳彦氏画)

この話は、『郷土の開発に尽くした人々 第I集・江戸時代』という本にのっています。

伝承、伝説を調べるために、近くに住んでいるお年寄りに話を聞いたり、市役所や図書館に行つて資料を調べてみましょう。

勘太郎の屋敷跡が今も残っているんだね。行ってみよう！



勘太郎の屋敷跡(大和田)





## ◆十九首塚の伝承



940年（大慶3年）、平将門を討ちとつた藤原秀郷一行が、将門以下19人の首を都に運ぶ途中、京からの首実檢の使者と掛川で出会い、ここで首を洗い、晒して葬つたと伝えられています。

また、井伊家の資料などによると、1562年（永禄5年）今川家の家臣の井伊直親が20人余りの家来と、駿府の今川氏真に謀反の疑いを晴らすための説明に行く途中、この地で掛川城主朝比奈泰朝らにより討たれたという記録があります。

## 小夜の中山に伝わる三つの話



小夜の中山



**夜泣石**…昔、中山峠で妊婦が強盗に殺されましたが、赤ちゃんは無事生まれました。近くにあった丸い石が泣き声をあげて赤ちゃんがいることを村人に知らせたので、赤ちゃんは助けられました。音八と名付けられた赤ちゃんは、子育てで成長し、おとなになってから母親のかたきを討つことができたという、久延寺と子育て胎にまつわる話です。



**蛇身鳥**…生き物を殺すことが好きな父親に殺生をやめさせようと、子どもが熊の毛皮をかぶって山に登りました。父親は、本物の熊と間違えて子どもを殺してしまいました。母親は、悲しみのあまり蛇のように体にうろこがある雉になりました。そして、小夜の中山に現れては、鋭いくちばしや刃物のような羽で住んでいる人や旅人を襲いましたが、都からやってきた弓の名人に退治されたという話です。



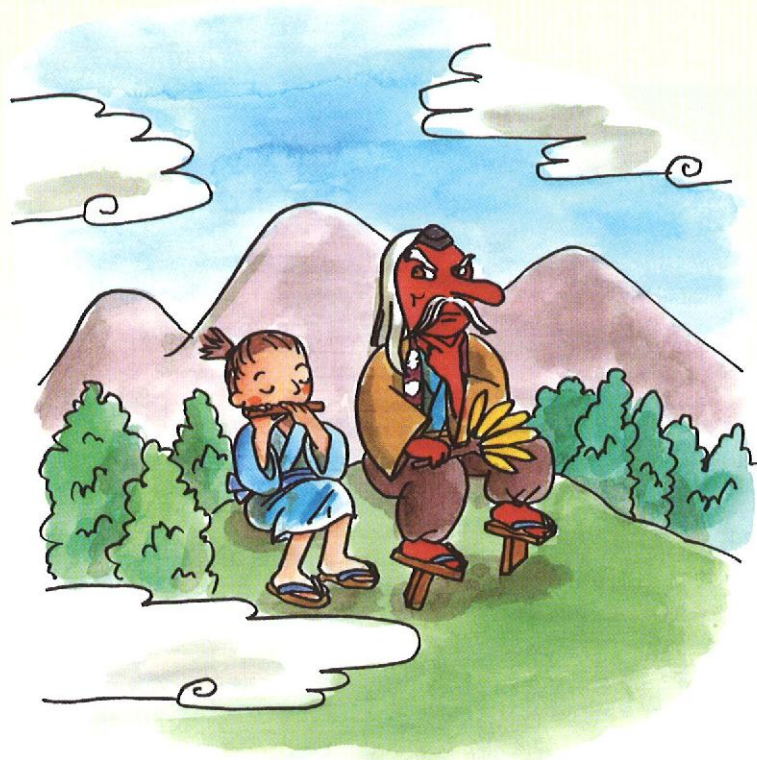
**無間の鐘**…この鐘をつくとその世では金持ちになれるが、死んでから地獄に落ちるといふ評判があった鐘です。金欲しさに大勢の人が鐘をつきにくるので、鐘を栗ヶ岳の頂上近くの井戸に埋めたという話です。



# 掛川の伝承と伝説 2



## ◆天狗になった少年



大むかしのことです。小笠山のふもとの村に小太夫という少年がいました。小太夫は、横笛が好きで毎日笛ばかり吹いていました。

ある日のこと、いつものように小笠山の中に入って、笛を吹いていると、山のおくから天狗が出て来ました。そして、「お前は、笛が上手だな。おれの家来にならないか。」と言いました。小太夫は、しばらく考えていましたが、「よし、家来になるよ。」と返事をしました。すると小太夫の姿はその場から消え、それからどこをさがしても見つかりませんでした。小太夫のお母さんは心配で心配で毎日泣いて暮らしていましたが、ある夜、お母さんの夢の中に小太夫が現れて、「お母さん、心配しないでください。私は、今天狗になって楽しく暮らしています。名前は小笠山多聞天狗と言います。」といいました。

その後、多聞天狗は、いろいろとよいことをしてくれたので、「多聞天さま」として今でもまつられています。

右の写真は、小笠山の南側の入山瀬地区で、天からのさずかりものとして大切にされている「天狗のお爪」です。

これは、畑の耕作中などに突然出てくるもので、持っている人も少なく、大変貴重なものです。この形が、小笠山に住んでいると言われている天狗の爪のようなので、「天狗のお爪」と呼ばれています。

戦争の時には、この「お爪」は弾除けのお守りとして使われ、持って行った人は弾に当たらずに、無事に帰ってくることができました。

今でも「天狗のお爪」はそれぞれの家で、家宝として大切にみつかわれています。



天狗のお爪

### ? 参考にしてみよう

こんな本があるよ。

(参考になる本)

○天狗のお爪

○だいたい小事典







大渚地区

## ◆ 晴明塚の伝説

大渚地区の国道150号から海岸の方に向かう小道の途中に晴明塚と呼ばれる小さな塚があります。この塚は、長い所で3メートルほどの楕円形、70cmほどの高さに赤い石が積まれた塚です。

この塚には、こんな伝説が残されています。

今から千年以上前のこと、京都に安部晴明というえらい学者がいました。この人はただの学者ではなく、未来を占う術など不思議な力を持っていると言われていました。

ある時、晴明が、大渚の村にやってきました。村の人たちは大喜びして、「あの恐ろしい津波と、うるさい波の音をなくしてください。」とお願いしました。

晴明は、「わかった、やってみよう。だが、そのためには、お金をもらおうがよいか。」と言いました。

村人たちは、晴明に言われたお金を集めはじめました。しかし、大金だったため、なかなか集まりません。それでもようやく津波をなくしてもらおう分のお金は集まったので、晴明の所に持って行って頼みました。

「よし、では津波がこないようにしてやろう。」晴明は、海岸近くに行き、赤い石を集めて小山のように盛りあげました。そして、しばらくお祈りをして、「さあ、これでこの所から村の方へは、津波は来ないよ。」というのと、どこともなく行ってしまいました。



さて、数日後、大津波が来てとなり村など大きな被害が出ましたが、この村は、この小山をさかいに無事でした。

「これはありがたいことだ。晴明さまに感謝してこの塚を『晴明塚』と名付けよう。」と村の人たちは大喜びして、さらに赤い石を集めて小山を高くしました。

それから、この小山は、山がくずれても、一夜のうちに盛り上がるし、違う色の石を持っていっても一夜のうちに赤い石になると言い伝えられています。



### ？ 参考にしてみよう



こんな本があるよ。

〈参考になる本〉

- 静岡県西部のおもしろい伝説
- 静岡県西部のふしぎな伝説  
御手洗 清 著 遠州伝説研究協会
- 新版 遠江の伝説  
小山 枯柴 編著 羽衣出版



# ため池の多い掛川市

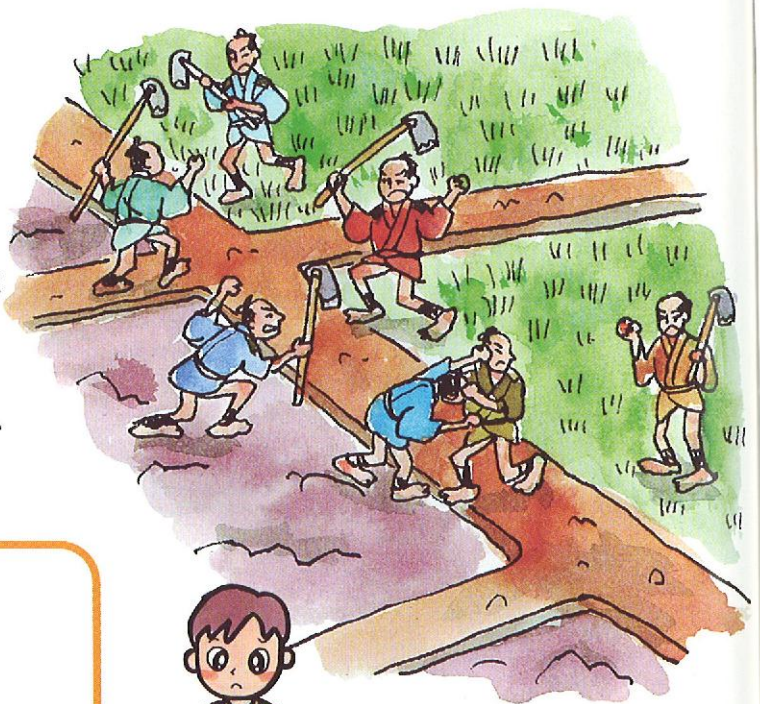
なぜため池が多いのでしょうか。



江戸時代以前につくられた大池(第二小学区)

昔から、掛川は川がたくさんありましたが、小さな川が多く、水量も少なく、水面の低い川もありました。そのため、水田に思うように水が引けなかったり、きびしい日照りの時には役に立たなかったりしたのです。

米が取れなくても税を払わなければならず、人々は苦しみました。そこで、村人たちは、日照りが続くと神社に雨ごいに出かけたのです。また、夜、こっそり、水を自分の田に引き入れようとして見つかり、けんかになったこともありました。



静岡県 716

掛川市 250

上の数字は何を表しているのでしょうか。

これは、静岡県と掛川市のため池の数を比べたものです。掛川市は、県内でもため池の数がたいへん多いことがわかります。





## ため池はいつごろ、どのようにしてつくられたのでしょうか。



ため池は谷が入り組んでいる地形を生かしてつくられました。(亀の甲池 中央小学区)



宝谷池にある石碑(城北小学区)

水不足に悩んでいた掛川の人々は、小さな谷が入り組んでいる地形を利用してため池をつくり、田に水を引きました。

昔は、今のようすぐれた機械や道具がなかったので、村人みんなでため池づくりをしました。ため池づくりには、かなりの費用や口数がかかったので、完成した時の人々の喜びはたいへんなものでした。完成を祝って記念の石碑が建てられているところもあります。

こうして、水不足に悩まされていた掛川市では、ため池のおかげで、日照りの時でも苦しめられることはほとんどなくなり、今まで以上にお米がたくさん取れるようになりました。

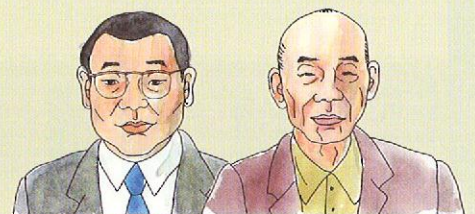
市内のため池は、江戸時代とそれより前につくられたものが約40%、明治時代が約55%です。江戸時代以前から水の確保に苦勞している様子がわかります。

また、水を確保するために、大井川から水を引くことが計画されました。1887年(明治20年)、1946年(昭和21年)に計画され、1972年(昭和47年)に大井川右岸用水が完成し、市内の田畑が潤うようになりました。

### 「桜木池のできるまで」

昭和23年、私たちが小学生のころ工事が始まりました。県にお願いしてから10年以上たったの工事開始でした。当時のお金で1,800万円(今のお金で約3億円)ほどの大工事でした。地区の人たちが交替で工事をしました。小学生や中学生なども家の代表として工事に加わりました。くわで土を掘る、もっこやトロッコで土を運ぶのが主な仕事でした。機械などなく、すべて手作業でとてもたいへんでした。池の水が米作りに欠かせないのはもちろんですが、海から遠い桜木地区では桜木池の魚は大切なたんぱく源として村の人々の食べ物となりました。

中山友好さん・青山俊夫さんのお話





# 掛川市の歴史年表 (縄文時代—江戸時代)

時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代	鎌倉
年	紀元前 一万ごろ	紀元前 四〇〇〇ごろ	三〇〇〇ごろ	七〇九 七〇〇	七五五	七九四 九三五 九四四 一〇七〇 一一八四 一〇九五	一一九二 一一九〇 一一八六

源頼朝が鎌倉から京都へ行った帰りに懸河(掛川)に泊まる  
西行が「年たけてまた越ゆべしとおもひきや」

命なりけりさやの中山「の句を小夜の中山で詠む」

原清盛が、平家追討軍に加わる

内田家吉が、源(木曾)義仲追討軍に加わる

小高荘(西郷・城北・西山口あたりか)の名が記録にあらわれる

山口御厨(西山口・東山口)がつくられる

長福寺(原谷)の鐘がつくられる

このころ書かれた『倭名類聚抄』という本に掛川の地名がある

六ノ坪遺跡(第二)に役所または寺院がつくられる

このころ清ヶ谷古窯群で遠江国分寺の瓦が焼かれる

文部黒当、生玉部足国が、防人として九州に行く

和同開珎と銅鏡が、深谷遺跡(西山口)に埋められる

遠江国の兵士が、東北地方の蝦夷を討ちに行く

諏訪瓦窯(東山口)がつくられる

毛森山横穴群(中・西之谷)・下土方青谷横穴(下土方)・愛宕山横穴(横須賀)

茶屋辻横穴群(第一)・大谷横穴群(東山口)・岡津横穴群(曾我)

向山横穴群(第二)・宇洞ヶ谷横穴(中央)・飛鳥横穴群(桜木)

横穴墓がつくられる

五塚山古墳(大坂)・野中古墳(大淵)・居村古墳群(曾我)

平塚古墳(西郷)・長福寺古墳群(原谷)・前坪古墳群三号墳(曾我)

和田岡古墳群(和田岡)・天王山古墳群(城北)

前方後円墳、円墳などの古墳がつくられる

天王森・古楠遺跡(西大淵)・兼情遺跡(大坂)・神田遺跡(大坂)

高瀬遺跡(佐束)・中方遺跡(中)・原新田遺跡(城北)

大六山遺跡(西山口)・原川遺跡(曾我)・東ノ谷遺跡(第二)

堂山遺跡(原田)・高田遺跡(和田岡)

稲作が始まる。高田遺跡(和田岡)などから米が発見される

三井山Ⅱ遺跡(大坂)・石津遺跡(横須賀)・山王遺跡(大坂)

糸繰遺跡(千浜)・田島遺跡(上内田)・メノト・栗下遺跡(東山口)

岡津原Ⅲ遺跡(曾我)・柿ヶ谷遺跡(西郷)・上ノ段遺跡(原田)

中原遺跡(和田岡)

川ぞいの小高い場所に集落がつくられる

掛川のできごと

源頼朝が征夷大将軍となる(一一九二)

平清盛が太政大臣になる(一一六七)

藤原氏の全盛時代を迎える(十一世紀)

平安京(京都)に都をうつす(七九四)

東大寺の大仏が完成する(七五二)

平城京(奈良)に都をうつす(七一〇)

大化の改新(六四五)

聖徳太子が摂政になる(五九三)

推古天皇が即位する(五九二)

大和朝廷の統一が進む(四世紀)

卑弥呼が中国に使いを送る(二三九)

生玉部足国  
文部黒当

↓ P17

原清盛  
内田家吉

↓ P23

日本のできごと

掛川の人物



時代 室町時代 安土桃山時代 江戸時代

- 一八六八
- 一八五八
- 一八五五
- 一八四八
- 一八三九
- 一八〇八
- 一八〇五
- 一八〇四
- 一八〇三
- 一八〇二
- 一七九八
- 一七九八
- 一七六〇
- 一七二九
- 一七二〇
- 一六九一
- 一六八四
- 一六三四
- 一六〇三
- 一六〇一
- 一五九〇
- 一五八一
- 一五八〇
- 一五七九
- 一五七四
- 一五七三
- 一五七一
- 一五六九
- 一五六八
- 一五一三
- 一五〇〇
- 一四九七
- 一四九六
- 一四〇〇
- 一三三八
- 一三三五
- 一三三三

戸塚静海らが、江戸に種痘所を設立する  
桶井斎が、ロシアに密出国する

倉真村の庄屋岡田佐平治が、村内に報徳社をつくる  
掛川藩主の絵師村松以弘が、死去する

石川依平が、栗田土満に弟子入りして国学を志す  
伊能忠敬が、東海道を測量し、掛川宿本陣に泊まる

後藤美之が、法多山尊永寺に和算の額を奉納する  
伊能忠敬が、駿河から尾張の海岸を測量し、成行村(千浜) 横須賀町に泊まる

大須賀鬼卵が、『東海道人物志』を著す  
松崎棟堂が、掛川藩の学校の教授になる

オランダ商館長 ゲイスベルト・ヘンミイが、掛川宿で死去し天然寺にほうむられる  
渡山得船和尚の知識をもとに、倉真川から八幡池まで水路がつくられる

現在のベトナムから將軍吉宗に贈られた象が、東海道を通る  
このころ三浦重兵衛が重兵衛新田(原田)をつくる

掛川宿に大火事が発生し、約二百戸が焼ける  
松尾芭蕉が「馬に覆て残夢月遠し茶のけぶり」の句を小夜の中山で詠む

三代將軍家光が、三十万七千人の大軍を率いて京都の行き帰りに掛川宿に泊まる  
掛川宿、日坂宿が東海道の宿として整備される

山内一豊が、掛川城主になる  
高天神城を守る武田軍が、総攻撃をしかけるが、徳川軍に破れる

大須賀康高が横須賀城主になる  
このころから、家康は高天神城奪還のための六砦を築きはじめる

西郷局(上西郷出身)が、後の徳川二代將軍秀忠を産む  
武田勝頼、高天神城を攻め開城させる



山内一豊

武田信玄が、高天神城(土方)を攻める  
このころ、高天神城主小笠原長忠は徳川家康の家来になる

徳川家康が、今川氏真、朝比奈泰朝がこもる掛川城を攻める  
朝比奈泰能が、掛川城を今の場所につつす

このころ朝比奈泰熙が、掛川古城(第一)をつくる  
松浦氏の倉真城(倉真)、原氏の高藤城(原合)が今川氏に攻められ落城

川井氏の松葉城(倉真)が、今川氏に攻められ落城  
このころから新しい仏教が広まって寺院がつくられるようになる

足利尊氏が、小夜の中山で北条時行と戦つ  
各和郷(和田岡)、下西郷(第一・中央)が足利直義に与えられる



高藤城跡

ペリーが浦賀に来る(一八五三)  
天保の改革が始まる(一八四一)

寛政の改革が始まる(一七八七)

享保の改革が始まる(一七二六)  
鎖国が完成する(一六三九)

参勤交代制度ができる(一六三五)  
東海道の一里塚が整備される(一六〇四)

徳川家康が征夷大將軍となり江戸に幕府を開く(一六〇三)  
関ヶ原の戦いが起こる(一六〇〇)

豊臣秀吉が天下を統一する(一五九〇)  
室町幕府がほろびる(一五七三)

室町幕府がほろびる(一五七三)  
鉄砲が種子島に伝わる(一五四三)

応仁の乱が起こる(一四六七)  
足利尊氏が征夷大將軍となる(一三三八)

建武の新政が行われる(一三三四)  
鎌倉幕府がほろびる(一三三三)

元が攻めてくる(一二七四、一二八二)

- 桶井斎 ↓ P45
- 岡田佐平治 ↓ P55
- 村松以弘 ↓ P44
- 石川依平 ↓ P50
- 八木美穂 ↓ P45
- 後藤美之 ↓ P45
- 大須賀鬼卵 ↓ P44
- 松崎棟堂 ↓ P44
- ゲイスベルト・ヘンミイ ↓ P45
- 渡山得船 ↓ P45
- 三浦重兵衛 ↓ P45
- 山内一豊 ↓ P30
- 大須賀康高 ↓ P36
- 西郷局 ↓ P36
- 朝比奈泰朝 ↓ P27
- 朝比奈泰熙 ↓ P34
- 原氏 ↓ P24
- 松浦氏 ↓ P25
- 川井氏 ↓ P24







平成時代

二〇〇五  
二〇〇三  
二〇〇二  
二〇〇一  
一九九九  
一九九八  
一九九八  
一九九六  
一九九四  
一九九三  
一九八九  
元  
五  
六  
八  
一〇

一七 掛川市・大東町・大須賀町が合併する  
一五 国体がエコパで開催される  
一四 ワールドカップがエコパで開催される  
一四 市立二の丸茶室が完成する  
一三 市立中央図書館が完成する  
一三 国道一号日坂バイパスが開通する  
一一 文化会館シオーネ・シートピア・吉岡彌生記念館ができる  
一〇 大日本報徳社大講堂が県の文化財に指定される  
一〇 市立二の丸美術館が完成する  
〇 現在の市役所の建物が完成する  
〇 和田岡古墳群が国の史跡に指定される  
〇 掛川城天守閣が復元される  
〇 東名高速道路掛川インターチェンジが完成する



東名高速道路掛川インター完成



新「掛川市」の開市式

長野オリンピックが開催される（一九九八）

阪神・淡路大震災が発生する（一九九五）

昭和時代

一九八一  
一九七五  
一九六九  
一九六七  
一九六三  
一九四八  
一九四七  
一九四五  
一九四四  
一九四四  
二〇  
一九  
五八  
五九  
六一  
六三  
元  
五  
六  
八  
一〇

五六 国道一号掛川バイパスが開通する  
五〇 高天神城が国の史跡に指定される  
四四 逆川浄水場が完成する  
四二 軽便鉄道（中遠線）廃止  
三八 県立中遠工業高等学校（現在の掛川工業高等学校）が開校する  
二三 県立池新田高等学校横須賀分校（現在の横須賀高校）が開校する  
二三 掛川で農地改革が開始される  
二〇 掛川が、空襲の被害を受ける  
一九 東南海地震が起こり、大きな被害を受ける



東海道新幹線掛川駅開業



東南海地震

東名高速道路が開通する（一九六九）

東京オリンピックが開催される（一九六四）

東海道新幹線が開業する（一九六四）

太平洋戦争が終わる（一九四五）



# 掛川歴史マップ



① てんしゅかく じょうない  
掛川城天守閣 (城内)



② だいにっぽんほうとくしゃ  
大日本報徳社 (城内)



③ たいゆういんおたまや  
大猷院霊屋 (城内)



④ ちょうふくじ ほんごう  
長福寺 (本郷)



⑥ かもそう はらさと  
加茂荘 (原里)



⑦ さくらぎ かみたるき  
桜木池 (上垂木)



⑧ ほうせんじ かみさいごう  
法泉寺 (上西郷)



⑨ まつばしようち  
松葉城跡 (倉真)



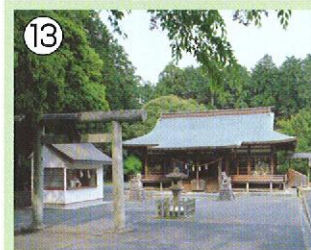
⑩ かわざかや にっさか  
川坂屋 (日坂)



⑪ さよしか いちりづか  
佐夜鹿の一里塚 (佐夜鹿)



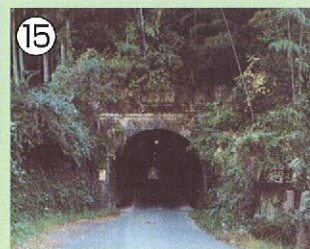
⑫ だてがた  
伊達方の一里塚 (伊達方)



⑬ たつお しもさいごう  
龍尾神社 (下西郷)



⑭ かわさきかいどう  
川崎街道の道しるべ (成滝)



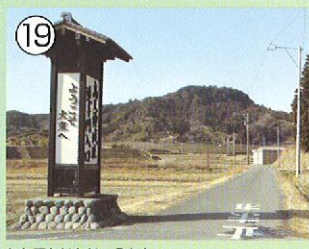
⑮ がんしろうじ すいどう がんしろうじ  
岩井寺隧道 (岩井寺)



⑯ かくわ かなづか こふん かくわ  
各和金塚古墳 (各和)



⑰ とうかいどう なみき はらかわ  
東海道の松並木 (原川)



⑱ たかてんじんじょうあと  
高天神城跡 (上土方額向、下土方)



⑳ よこすかじょうあと にしおおぶち  
横須賀城跡 (西大淵)



㉑ みくまの じんじゃほんでん にしおおぶち  
三熊野神社本殿 (西大淵)



㉒ よしおがやよい いちくせい家 しもひしかた  
吉岡彌生移築生家 (下土方)





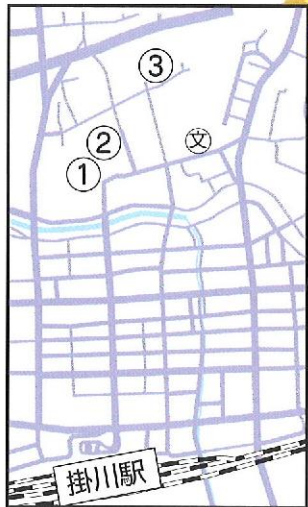
実際に自分で確かめてみよう。



⑤



小津根の常夜燈  
(下垂木)



⑱

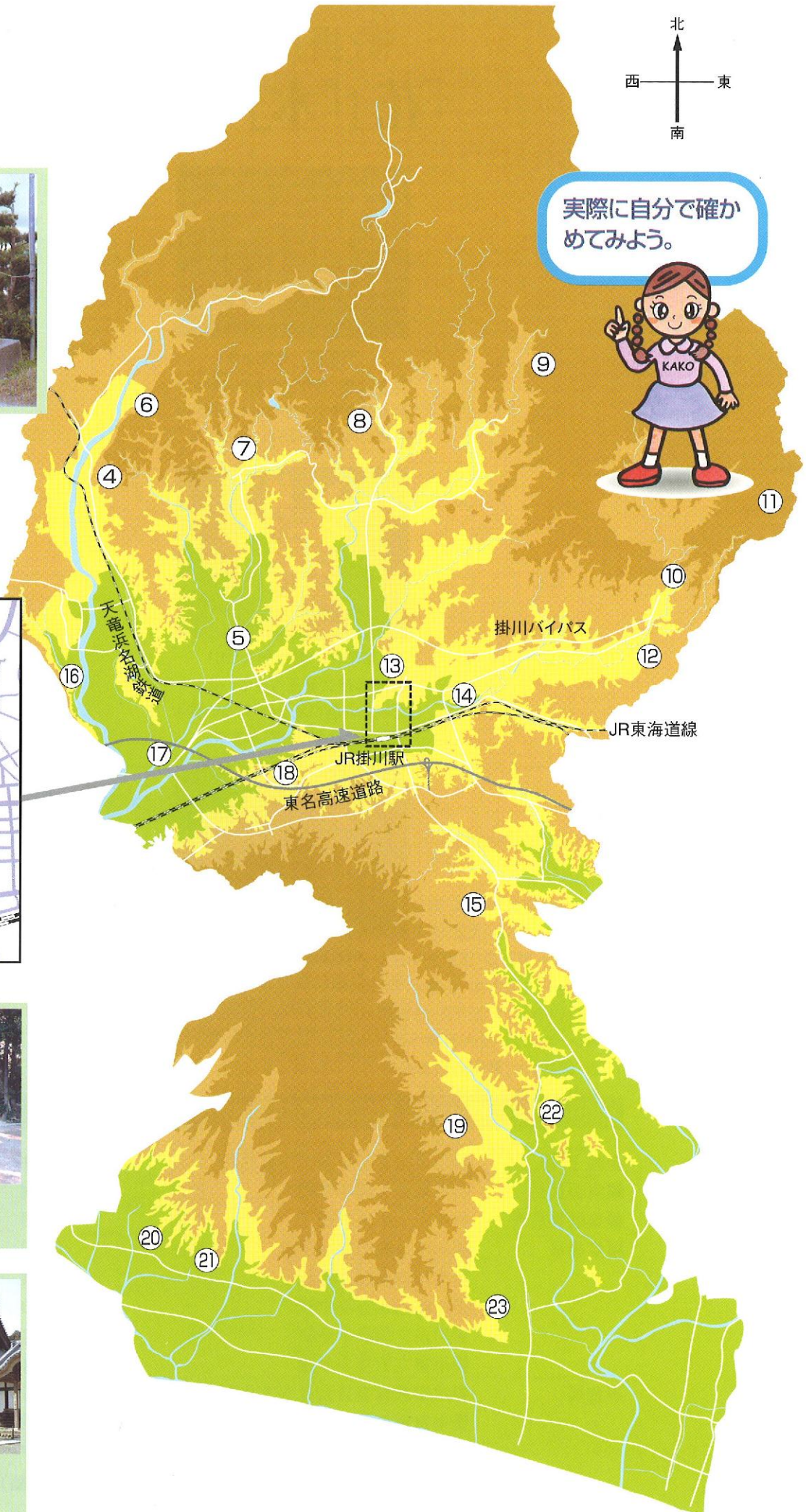


遠江塚(久保)

⑳



貞永寺本堂(大坂)





# ☆掛川市の 「花」「木」「鳥」



市の花 ききょう

花色は紫、白などがあり、清楚で品があります。花の形は市章のデザインにも採川されています。



市の木 きんもくせい

市内各所に植えられています。だいたい色の花をつけ、よい香りを放つ奥ゆかしい樹木です。



市の鳥 うぐいす

市内全域に生息しています。「ホーホケキョ」という鳴き声で親しまれ、その声の美しさと品の良さで知られています。

## 新・わたしたちの掛川市(歴史編)編集委員

企画・監修	掛川市教育委員会学校教育課	課長	浅井 正人
編集委員長	掛川市立大淵小学校	校長	高橋 悦男
編集副委員長	掛川市立中小学校	教頭	山田 幸久
編集委員	掛川市立和田岡小学校	教諭	寺田 弘
〃	掛川市立西郷小学校	〃	榛葉 武史
〃	掛川市立土方小学校	〃	栗山 尚
〃	掛川市立曾我小学校	〃	大庭 弘美
〃	掛川市立大坂小学校	〃	平野 滋章
事務局	掛川市教育委員会教育文化課文化財係	主査	木佐森道弘
〃	掛川市教育委員会教育文化課文化財係	主査	鬼沢 勝人
〃	掛川市教育委員会学校教育課指導主事		田中 克美

<参考>平成15年3月発刊「わたしたちの掛川市(歴史編)」



---

## ■資料提供 (敬称略 順不同)

作成にあたり、下記の方々をはじめ、多くの皆さんにご協力いただきました。  
ありがとうございました。

幡羅田石器の郷資料館・春林院・掛川西高等学校・袋井市教育委員会・石野武文・松井孝雄・龍登院・静岡よみうりカントリークラブ・香川元太郎・世楽院・清水銀行掛川支店・龍華院・門満寺・大日本報徳社・桑原惇・大雲院・仲道寺・西光寺・正願寺・伊藤綱一郎・長松院・天然寺・名古屋市博物館・国立国会図書館・久延寺・事任八幡宮・小國神社・高浜市やきもの里かわら美術館・関七郎・図書刊行会・島田市お茶の郷博物館・松村剛・天野英吉・御前崎市立浜岡北小学校・アドリブ・袋井市立浅羽郷土資料館・竜田神社・中山友好・青山俊夫・長福寺・龍尾神社・林写真館・掛川地方誌研究会・鈴木政春・財団法人土佐山内家宝物資料館・浅岡元二・浜松市立中央図書館・磐田市教育委員会・国土地理院・中部電力・株式会社遠興・横須賀高等学校・疋田キンダークリニック・平野美術館・真如寺・照月寺・撰要寺・恩高寺・普門寺・窓泉寺

---

編集	掛川市歴史教材研究委員会
発行	掛川市教育委員会
	電話 0537-21-1156
制作・印刷	株式会社アビサレ
	電話 0537-24-2301

---





# 新・わたしたちの掛川市

## 歴史編



学校名